

平成28年度  
(2016年度)

# 博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

## はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中核施設であることも求められています。近年、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

当館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分け推進してきました。1つ目に、学校連携事業では、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図ってまいりました。「出前授業等」では、学芸員と教師が連携した授業を小・中・高等学校で実施することができました。

2つ目に、博物館が企画運営する事業として、本年度は、第7期博物館ボランティア及び、ふれあい体験室専属ボランティアの募集と養成をおこない、総勢92名のボランティアを確保し、学校団体支援体制の強化を推進しサービスの向上に繋げることができました。また、総合展示部門解説ガイドボランティア養成のもと、一般来館者へのサービス向上を図ることができました。

文化講座におきましては、「琉球の金工品の世界」を皮切りに全12回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「昆虫標本作り」をはじめとする体験学習教室の開催と、学芸員講座12回、常設展展示解説会とバックヤードツアーをそれぞれ12回、夏休み企画として「夏休み！博物館学芸員教室」を全10教室開催してまいりました。

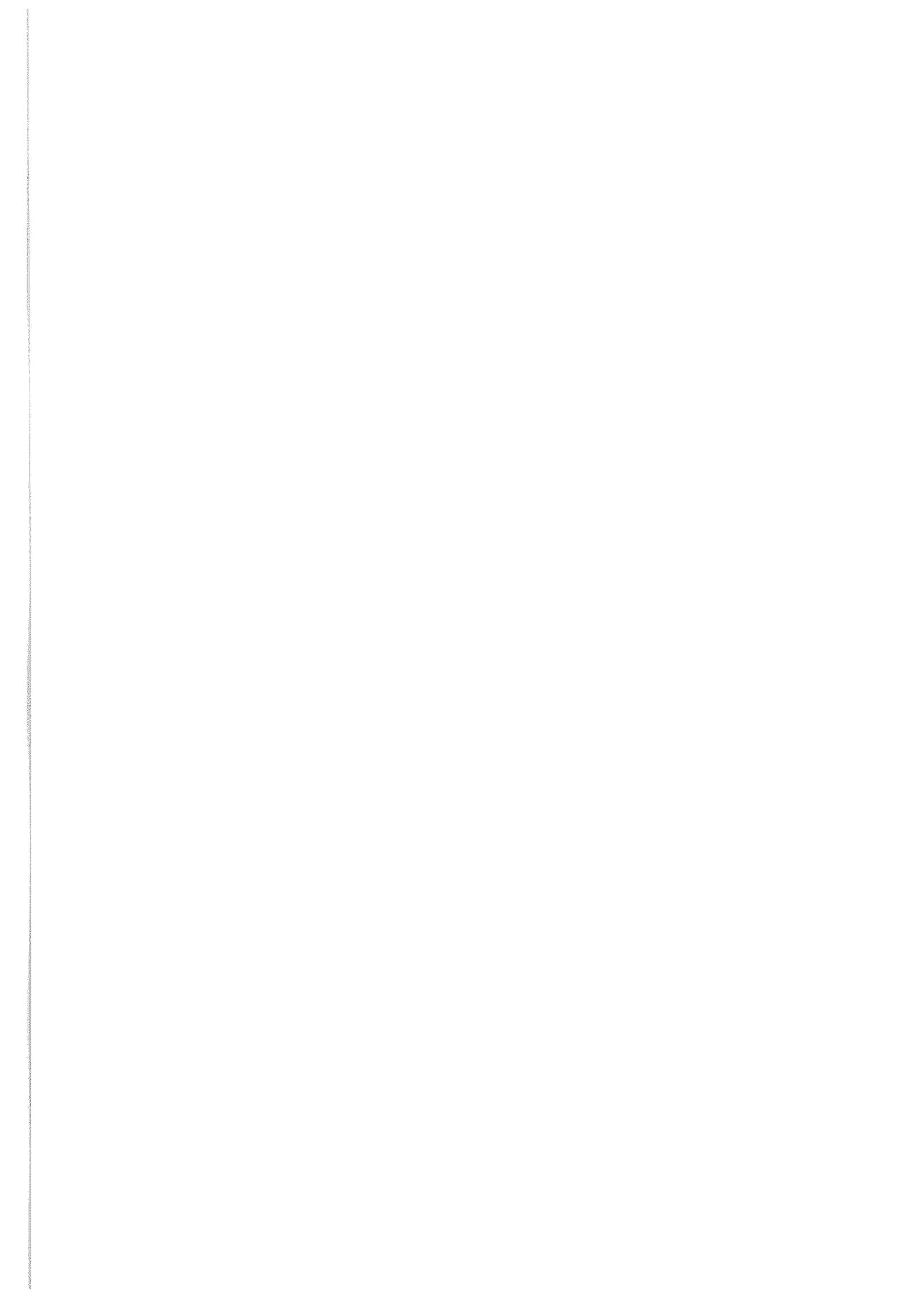
当館としては、平成29年度には、首里の旧館からおもろまちに新館が移転して10周年の節目を迎えます。今後も学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的な文化の輪が広がることを願い、活動してまいります。そして、時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

平成28年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 田名 真之



# 博物館教育普及活動

## 目次

はじめに

### I 博物館活動について……………1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）  
調査活動 展示活動 教育普及活動 保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

### II 学校連携……………7

学校団体受入要項  
先生方へのお願いと確認

博物館を利用した学習（例）・プログラム例  
県内学校団体受入一覧  
博物館「出前授業等」実施要項  
「出前授業」実施校

### III 体験学習教室……………21

- 1 博物館体験学習実施要項  
体験学習教室 活動状況・資料

### IV 博物館文化講座……………43

- 1 博物館文化講座実施要項
- 2 文化講座の実施状況

### V 博物館学芸員講座……………51

- 1 博物館学芸員講座実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

### VI 展示解説会……………59

- 1 博物館展示解説会実施要項
- 2 実施状況

### VII バックヤードツアー……………61

- 1 バックヤードツアー実施要項

### VIII 夏休み！博物館学芸員教室…62

- 1 夏休み！学芸員教室実施要項
- 2 実施状況

### IX ふれあい体験室……………67

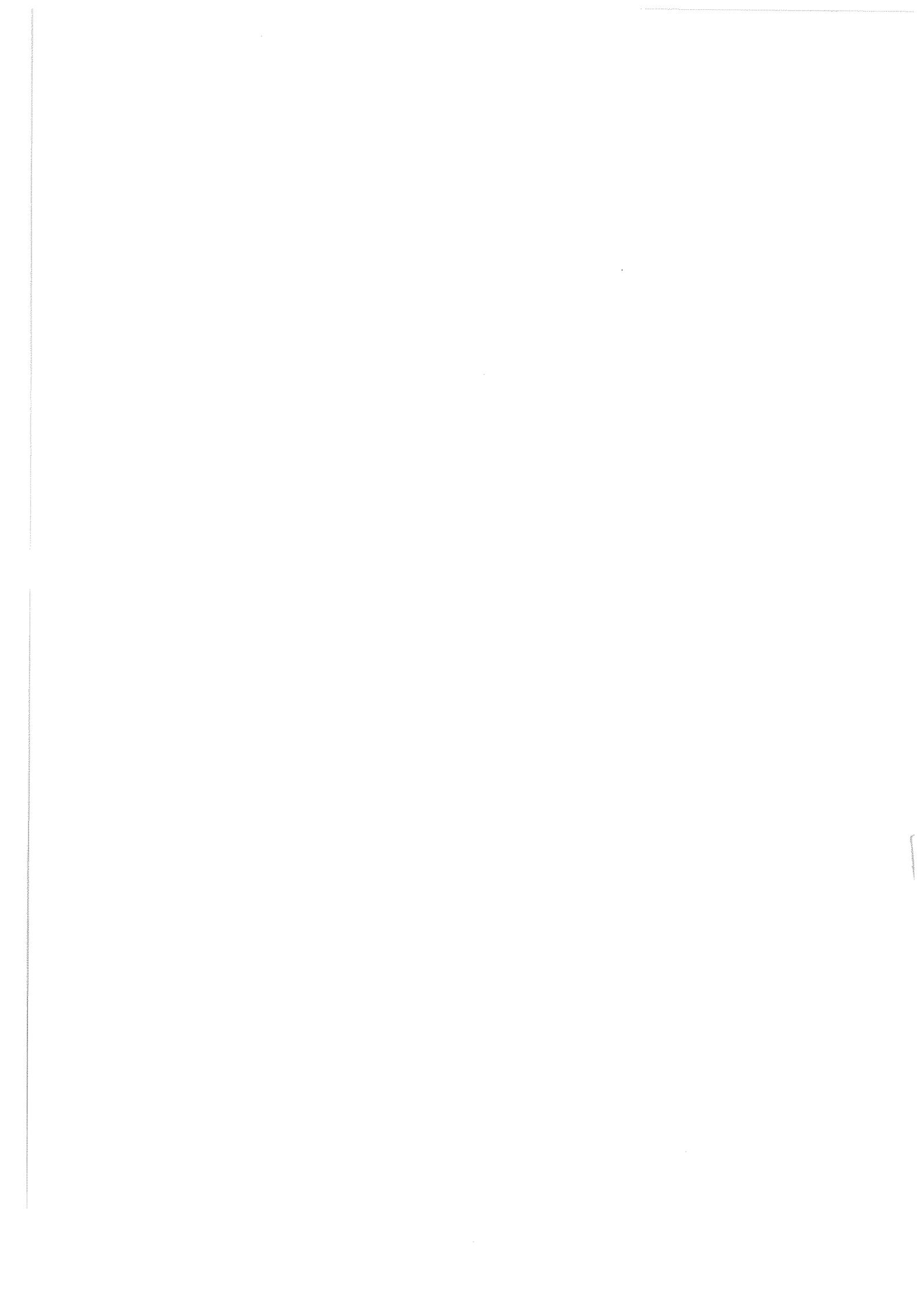
- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 ふれあい体験室の取組み

### X ボランティア養成事業……………76

- 1 沖縄県立博物館・美術館  
博物館ボランティア活動実施要項  
博物館ボランティア各種講座関連資料  
博物館ボランティア登録申請書  
ボランティア登録証交付式関連資料  
博物館ボランティアのてびき  
ボランティア通信

### XI その他……………106

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 けんぱくキット貸出
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 企画展付帯事業
- 7 常設展に関する取組み
- 8 新聞・雑誌等掲載一覧
- 9 印刷物一覧



# I 博物館活動について

## 1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

## 2 博物館活動(四つの車輪)

### ◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

### ◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

### ◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連携協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「博物館ボランティア養成」を行い活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「学芸員講座」、「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

### ◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

## 3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけでなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

#### ◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

#### ◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

#### ◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行う講座室等があります。

#### ◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、学芸員研究室を中心に行われます。8分野の学芸員が各々または共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。また、博物館紀要論文はHPで公開されます。

#### ◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

## 4 博物館の施設

### (1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

#### 自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができます。

## 考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

## 美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

## 歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

## 民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統と暮らし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

## (2) 屋外展示

### 高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

### 民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいでの内覧も可能となっています。

### 湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

## (3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、37種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

## (4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索性の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

## (5) 講堂・講座室等

### 講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212 席(車いす 2 人含む)を収容することができます。

### 講座室

100 名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能です。

### 実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40 名程度の収容が可能です。

## (6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数 1 台)

## (7) 駐車場

一般車両 158 台(身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能です。  
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。  
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

## (8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが 204 本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

## (9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としています。

## (10) 環境への配慮

### 太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw 程度の太陽光発電装置を設置しています。

### 雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

### 夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

### 総合的有害虫管理 (IPM) 施設 IPM (Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理 (IPM) を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

## 5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取組みました。

### (1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

今年度は、「博物館の見学のでびき」、「博物館が教室になる！（博学連携について）」、「見る・聞く・触る・匂う（貸出学習教材について）」をまとめた、『博物館学校団体利用マニュアル』及び別紙にて「出前授業等」実施要項を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布しました。

今後、県内外の多くの子どもたちに対し、博物館を利用した学習が幅広くおこなわれ、沖縄の自然、歴史、文化を伝え、学びの拠点になれるように一層の努力で取り組みます。

### (2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、シンポジウム、実演、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

### (3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

### (4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

### (5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

### (6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

### (7) 夏休み！ 博物館学芸員教室

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

## (8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。

平成28年度は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かなサービスの寄与を目的として、第7期新規のボランティアを募集し、半年間にわたる養成講座をおこない、19名の博物館ボランティアの登録ができました。また、土・日・祝日のみ活動できる、ふれあい体験室専属ボランティアを募集し、3名のふれあい体験室専属ボランティア員の登録ができました。博物館ボランティアと合わせ総勢89名のボランティアが登録しています。

## (9) その他

### フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

### 移動展

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。今年度は、座間味村で開催しました。

### 教育普及資料貸出

今年度は、教育機関9件、他館1件、他施設・団体2件へ貸出しました。

### 新体験キットの導入

博物館魅力アップ事業の一環として、新たに全12の体験キットを導入しました。

#### <新キット>

No28 サンゴとカッチュウソウの深〜い仲

No29 コロコロ生態系

No30 岩石観察

No31 化石組み立て体験

No32 緋のしくみ

No33 三線のかたち

No34 仁王像

No35 ウチナー昔話

No36 チュンジー

No37 万国津梁の鐘

琉球玉手箱（自然史箱）

琉球玉手箱（歴史箱）

平成 28 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受け入れ要項

1 ねらい

- (1) 博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- (2) 博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- (3) 博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

2 対象・受け入れ内容等

	対 象	学習領域	受け入れ内容 *内容は、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	【県内】 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 (各学年)	対 各教科の学習 や総合的な学習の 時間など	展示資料を、郷土について知るための教材として活用し、博物館や沖縄を知るための教室として利用してもらう。	○自由見学 (下見打合せ/無) ○ボランティアサポート (下見打合せ/有) ○夏季課題学習(主に高等学校)(下見打合せ/有)
2	【県内】 小学校 (3年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	民具体験学習(博物館収蔵の民具を活用した体験学習)	ボランティアサポート (下見打合せ/有)
3	県内の教職員 (全校種)	校内研修など	博物館利用解説や クイズツアー等	(下見打合せ/有)

3 方法 (1)は館内情報センター(指定管理者)、(2)は博物館(県担当学芸員)が対応します。

- (1) 必要事項を別紙『団体受付申込』に記入の上、沖縄県立博物館・美術館内の情報センターにFAXで申込む。  
※希望日の受け入れについては、先着順。  
※学習プログラム希望の場合は、11月末までに申込むこと。

(2) 学習プログラム希望の場合について

※情報センターに『団体受付申込書』を提出後、博物館教育普及担当職員との下見の日程調整が必要です。

- ① 見学の2ヶ月前までに、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 \* 博物館教育普及担当職員が対応。
- ② 見学の1か月前までに、学習計画書を提出する。

11月末までに	見学の2ヶ月前までに(～11月末)	見学の1ヶ月前までに	来館当日
『団体受付申込』の提出 * 情報センターにFAXで申込	下見 * 博物館担当者対応 * 引率教員全員参加	学習プログラムの完成 * ボランティアへの支援 依頼開始	
夏季・秋季休業等を利用されることをおすすめします。		学年会、教科会として利用することも可。	

(3) 自由見学の場合、下見の実施と学習計画書の提出は必要ありません。

4 その他

下見の受け入れ 期間:4～11月末 時間:9:00～17:00 所要時間:1～2時間程度

問合せ先:

〒900-0006 那覇市おもろまち 3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

『団体受付申込書』の提出→【情報センター】 Tel 098-941-1187 Fax098-941-3530

下見・学習計画書の提出→【博物館班 教育普及担当(大川 剛)】

Tel 098-851-5401 Fax098-941-3650

# 沖縄県立博物館・美術館利用にあたって

～先生方へのお願いと確認～

博物館教育普及

## ●博物館を利用して学ぶ

### 1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

### 2 学校が利用する場合

#### (1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（沖縄美ら島財団）が館の管理運営を行います。  
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

#### —指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できる

という制度です。（地方自治法第244条の2）

博物館・美術館においては、沖縄美ら島財団が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

#### (2) 博物館下見、打合せ

##### 【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認  
○観覧マナーについて  
「博物館での見学マナー」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 \*コピー可
- ③ 学習のねらい(めあて)の確認 (なぜ博物館を利用するのか?)
- ④ 学習の展開方法(学習形態等)の確認 (体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など)
- ⑤ 筆記の際の支え(探検バッグ・ファイル)や持ち物(水筒・カメラなど)の確認
- ⑥ 博物館への飲食物持込みは禁止されています。〈IPMの考え方により〉

\*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

—IPM ( Integrated Pest Management )とは—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減滅させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムです。

### (3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

\*授業の導入での活用、展開で活用、まとめで活用するのか？

- 博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
  - 見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
  - 学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
  - 博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
  - 保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
  - ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。  
(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)
- ☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。  
先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

#### —ボランティア員—

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。博物館ボランティアによる支援

#### ① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

#### ② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないことをご了承下さい。  
\*ワークシートの活用について (答え合わせの為に展示ガイドにならないようにお願いします)。

#### ③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います (教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします)。

#### 【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

- 学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。  
トイレ、集合場所、展示室、実習室、講座室、屋外等

### 3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。(欠席分は引く)

(1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)＝先生とボランティア員とのミーティング \*学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。

★博物館紹介(映像)→運営担当の職員(指定管理者)が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゅー爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

\*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

\*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒といっしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介(当日の対応は指定管理者が行います)

\*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

\*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

(2) 博物館において学習活動を展開する

・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。(安心安全な学習環境、主体的な学習を展開)

・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

(3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。

・体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。

(4) まとめ

・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

(5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

・博物館での活動を通して、わかったこと疑問点を確認。

・疑問点を見出して、自分なりに調査。

**発展** ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい

・博物館等の社会教育施設の利用を促進。

・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。

\*博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

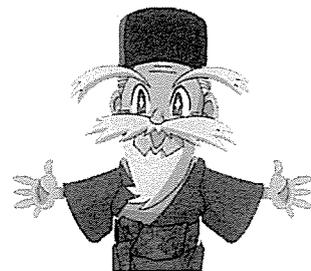
#### 4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体で博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。  
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

#### 5 ワークシートについて

- (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう!  
\*本時のねらいは? ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか?  
\*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます
- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気になったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15~30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中してしまいます。  
\*博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。  
\*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。



『アム』と『みゆ一爺』

○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうとしりょう館をたずねて」

- ・地域に残る古い道具について ~ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化) ~ 考える、調べる

\*児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる  
~引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

**オリエンテーションとA:映像の視聴**

=(日本民藝館制作。昭和14年頃の那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

\*博物館利用のオリエンテーションと合わせて 20分間

\*先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行ないます。

\*70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

**B:民具解説**

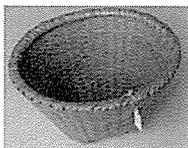
(民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

**C:民具体験**

\* ペアで行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする。

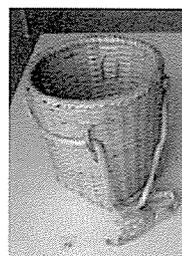
- 1) 運搬に関する道具= バーキ↓  
(魚や作物の運搬等で使用)



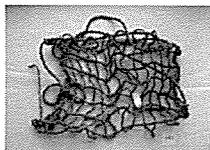
ガンシナ↓



ティール↓



- 2) 運搬に関する道具= オーダー↓  
(薪の運搬等で使用)

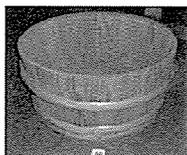


担ぎ棒→

2)、3)で使用

- 3) 運搬に関する道具= ターグ →  
(井戸水の運搬で使用)

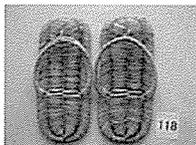
- 4) 洗濯に関する道具= ターレー↓



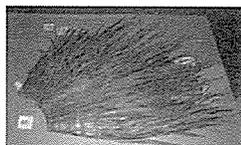
洗濯板↓



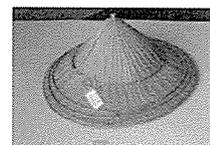
- 5) 着衣に関する道具= アダン葉サバ↓  
(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



**D:民俗展示室での展示品解説**

①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具

→2か所選択\* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間



## 民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉



**A**映像解説

昔の沖縄の風景を観る・昔の人を観る

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

**B**民具解説

民具にふれる・素材を考える・先人の技を考える

…体験する民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

**C**民具体験

道具(民具)にふれる 感じる・使い方を考える・使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

**D**民俗展示品解説

昔の道具を観る・使用方法を考える

今の生活との違いを考える・知る

…単なる民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

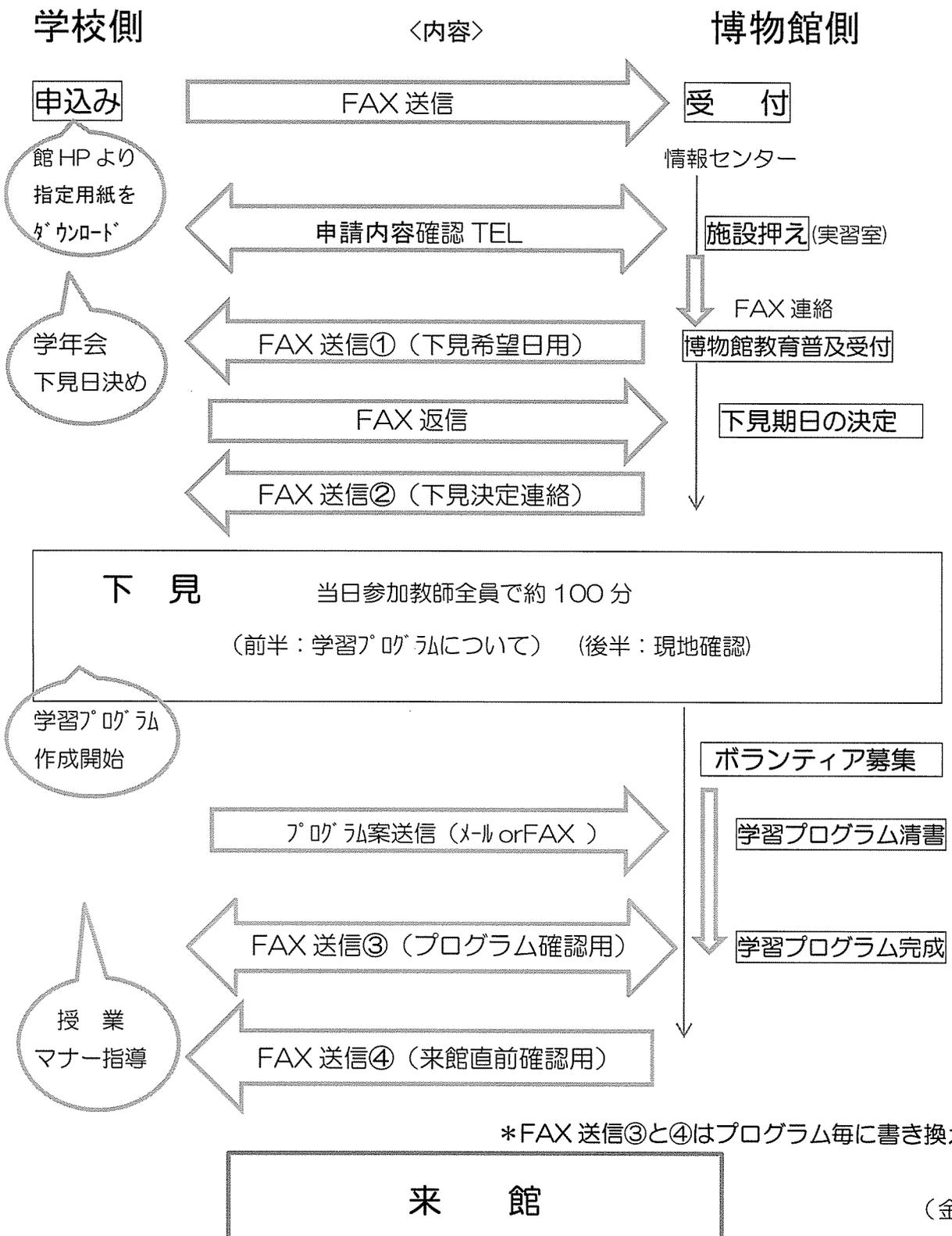
**A・B**は指定管理者が **C・D**はボランティアが 担当します  
発問によって子どもに考えさせるー子どもの興味を引き付けるようにします

\***C**の着衣体験に、保護者の参加をお願いします

**誘導ボランティアさんの 役目** 1クラスに 1~2名配置します

全体(流れ)を観る 時間を把握する  
時間どおりに進める・時間調整をする  
先生と連携するー相談し提案もする  
子どもの安全を図る！

# 学校団体受入のキャッチボール (博物館を活用した授業)



# プログラム例

## ■1クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時							
9:30		50		5 10		30		40		15 20		30	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ( )・ 台所	質問タイム	トイ(移動・水 レ関)休	C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	まとめ・お礼 (実習室)				

9時		10時				11時									
9:30		50		5 10		25 30		45		55		25 30		40	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ( )・ 台所	移動	〇〇タイム	トイ(移動・水 レ関)休	C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	まとめ・お礼 (実習室)					

## ■2クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時							
9:30		50 55		25		40		55		15 20		30	
1組	Aオリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・3	トイ(移動・水 レ関)休	D 展示物解説 ( )・ 台所	質問タイム	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ お礼 (実習室)			
		55	15 20	35	45			15 20	30				
2組		移動	D 展示物解説 ( )・ 台所	質問タイム	移動	B 民具解説 (実習室)	トイ(移動・水 レ関)休	C 民具体験 1・5・3	移動	まとめ お礼 (実習室)			

9時		10時				11時							
9:30		50 55		35		45		5		20 25		35	
1組	Aオリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3	トイ(移動・水 レ関)休	D 展示物解説 ( )・ 台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ お礼 (実習室)				
		55	10 20	35 40			20 25	35					
2組		移動	D 展示物解説 ( )・ 台所	トイ(移動・水 レ関)休	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	まとめ お礼 (実習室)				

■3クラスの組み合わせ例

9時		10時						11時													
9:30	50	55	20	30	45	50	5	20	25	35											
1組	移動	C 民具体験 1・5・3	トイ (移動・水 ・関)	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	〇〇 タイム	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	まとめ お礼 (実習室)										
												55	10	15	25	30	55	5	20	25	35
												2組	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	〇〇 タイム	移動	C 民具体験 1・5・3	移動	トイ (移動・水 ・関)	移動
55	10	30	35	45	55	20	25	35													
3組	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	〇〇 タイム	トイ (移動・水 ・関)	移動	C 民具体験 1・5・3	移動	まとめ お礼 (実習室)										
												55	10	30	35	45	55	20	25	35	

A画像解説(実習室)

9時		10時						11時						12時まで						
9:30	50	55	30	45	5	25	30	45	50											
1組	移動	C 民具体験 1・5・4・3	トイ (移動・水 ・関)	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	〇〇 タイム	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	まとめ お礼 (実習室)									
												55	15	30	35	10	25	45	50	
												2組	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3	移動	トイ (移動・水 ・関)
55	10	15	30	35	55	10	45	50												
3組	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	〇〇 タイム	トイ (移動・水 ・関)	移動	C 民具体験 1・5・4・3	移動	まとめ お礼 (実習室)									
												55	10	15	30	35	55	10	45	50

A画像解説(実習室)

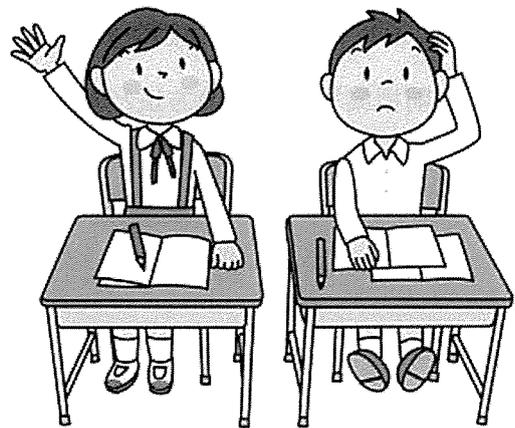
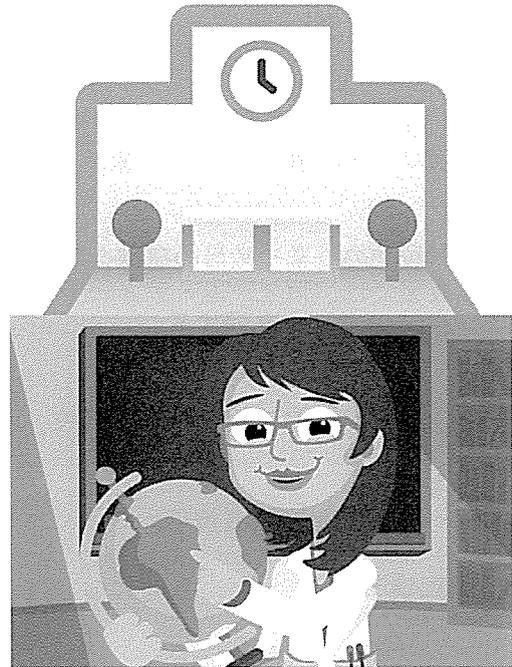
■4クラスの組み合わせ例

9時		10時						11時												
9:30	50	55	15	25	40	45	5	20	25	35										
1組	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	(中) 移動・水	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	トイ タイム 休	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	まとめ お礼 (実習室)									
												55	10	20	40	45	5	20	25	35
												2組	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	(移動・水 ・関)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具 解説 (実習室)
55	10	15	30	40	5	20	25	35												
3組	移動	トイ タイム 休	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	(移動・水 ・関)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	まとめ お礼 (実習室)									
												55	10	15	30	35	50	20	25	35
												4組	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	トイ タイム 休	移動	D 展示物 解説 ( )・台所	移動	(移動・水 ・関)
55	10	15	30	35	50	20	25	35												

A画像解説(実習室)

## 平成 28 年度「出前授業等」実施校

- (1) 7月14日(木)  
沖縄県立コザ高等学校 歴史：石垣 忍
- (2) 9月7日(水)  
沖縄県立球陽高等学校 美術工芸：外間 一先
- (3) 9月16日(金)  
沖縄県立向陽高等学校 生物：山崎 仁也
- (4) 10月20日(木)  
沖縄県立コザ高等学校定時制 地学：宇佐美 賢
- (5) 11月22日(火)  
沖縄県立向陽高等学校 人類：山崎 真治
- (7) 12月13日(火)  
座間味村立阿嘉小学校 教育普及：大川 剛
- (8) 12月16日(金)  
座間味村立慶留間小中学校 生物：山崎 仁也
- (9) 1月26日(木)  
沖縄県立コザ高等学校定時制 生物：山崎 仁也
- (10) 3月13日(月)  
法政大学附属女子高等学校 人類：藤田 祐樹



# 平成28年度 博物館「出前授業等」実施要項

## 1 趣 旨

博物館のもつ資源（もの、情報、人）を出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

## 2 内 容

- (1) 学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- (2) 授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用する生徒の学習を支援する。

## 3 対 象

県内公立学校及び私立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）

※クラス単位もしくは学年単位

## 4 実施時間

1～2時間程度（調整可）

## 5 実施場所

当該校

## 6 申し込み方法

※別紙参照

## 7 その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、沖縄県立博物館・美術館で

## 8 出前授業等の申し込み方法と連絡先

希望日の2ヶ月前までに、  
教育普及担当者へ電話で申し込む

TEL098-851-5401

電話、メール等で期日や申し込み内容の調整

希望日の1ヶ月前までに、  
出前授業依頼書または講師派遣依頼書を提出  
(Fax、E-mailも可)

連絡先 沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

3650

TEL 098-851-5401 FAX 098-941-

E-mail kinjohse@pref.okinawa.lg.jp

9 学芸員紹介

所属	担当分野		氏名
博物館班	自然史	生物	山崎 仁也
		地学	宇佐美 賢
		人類	藤田 祐樹
		人類	山崎 真治
	美術・工芸	絵画・漆器・陶器	園原 謙
			外間 一先
		書跡・彫刻・染織	與那嶺 一子
	歴史	古琉球・近世	崎原 恭子
		近現代	石垣 忍
	考古		片桐 千亜紀
	民俗		大湾 ゆかり
	教育普及		大川 剛

○沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館のもつ資源(もの、情報)を活用し、児童・生徒の学習を支援します。

※校内研修等で博物館活用について、レクチャーします。

※このデータは、ホームページでダウンロードして使用可能

# 講師派遣依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

印

次のとおり、講師の派遣をお願いします。

行事名	
依頼内容	
希望する講師	
日時	平成 年 月 日 ( 曜日) 時 分 ~ 時 分 ( 校時)
場所	
対象者	
人数	名
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 連絡先 (携帯電話等)
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

### Ⅲ 体験学習教室

#### 1 博物館体験学習教室実施要項

##### (1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

##### (2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期日	題	講師名	内容	参加者
1	H28年 ①7月23日(土) [9:30~12:00] ②7月24日(日) [9:30~12:00] ③8月20日(土) [9:30~12:00]	昆虫標本作り!	山崎仁也学芸員	1回目に昆虫採集の方法、昆虫標本のつくりかた、ライトトラップ作製を実施した。 2回目に展翅などの標本作りを行った。 3回目に標本箱作成と昆虫の分類とラベルづくりを行った。	20名
2	H28年 8月21日(日) [9:30~12:00]	簡易ペットボトル植物工場	浅賀 宏昭 (明治大学専任教授)	明治大学教授の浅賀宏昭氏を講師として招聘しペットボトルを使用した植物栽培器の製作を行った。	20名
3	H28年 11月19日(土) [10:00~12:00]	貝器を作ろう	山崎真治学芸員	沖縄の先史時代人が使用していた道具を用いて、貝を原材料としたアクセサリーの製作を行った。	15名
4	H29年 3月5日(日) [9:30~16:00]	サンゴ礁ウィーク 2017	山崎仁也学芸員	本館1Fエントランスにて、サンゴを使ったランプシェード作り、ストラップ作り、ワークショップを行い、午後からは同館カフェにて琉球大学大野良和氏を招いてサイエンスカフェを行った。	

##### (3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間4回程度の実施。午前9時~12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。場所は、基本として実習室。

##### (4) 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)

※抽選の場合、当選者には、事前に当選の通知連絡を行う。

##### (5) 体験学習に係る役割

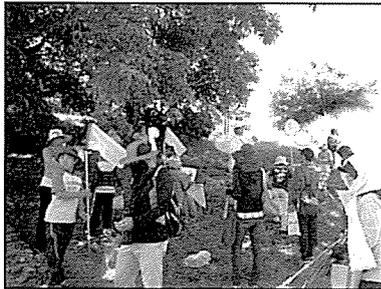
###### i 前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館(教育普及担当)
②	マスコミ各社への取材依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師事前打ち合わせ	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	説明資料作成	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館(教育普及担当)、指定管理者、講師
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館(教育普及担当)、指定管理者

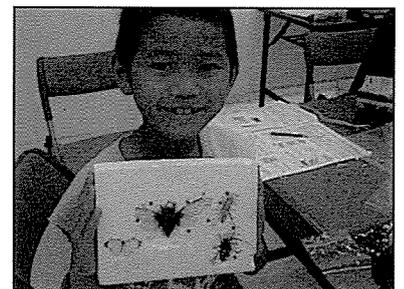
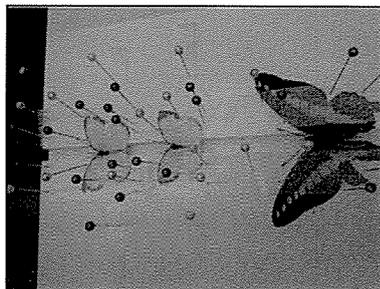
ii 当日運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館(教育普及担当)
④	講座の進行	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	材料等の準備及び配布	博物館(教育普及担当)、指定管理者、ボランティア
⑥	記念撮影	指定管理者
⑦	報償費支払い事務	指定管理者

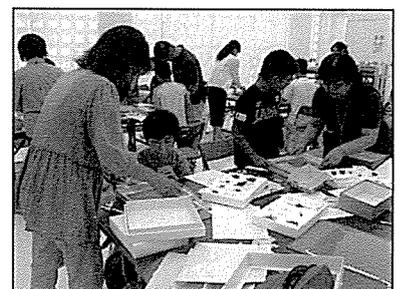
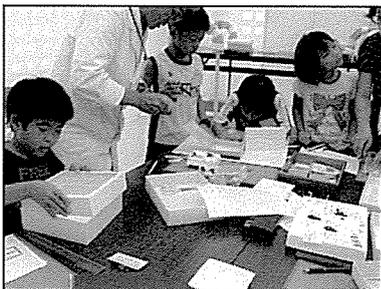
☆昆虫標本づくり



初日は新都心公園にて昆虫採集

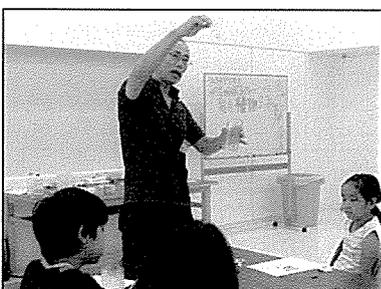


2日目、展翅、展足、標本作製

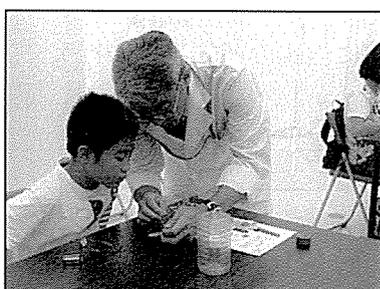


3日目、昆虫の分類とラベルの作成

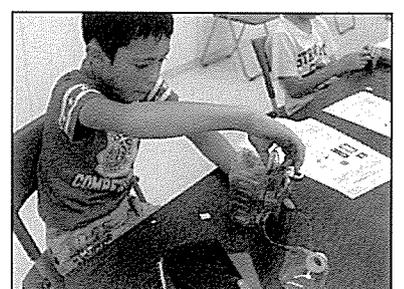
☆簡易ペットボトル植物工場



明治大学浅賀氏より、製作の説明をうける

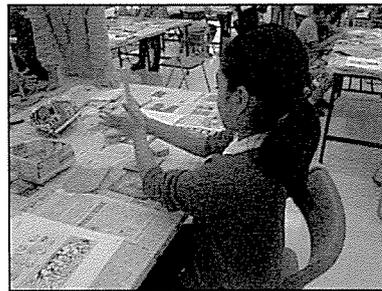
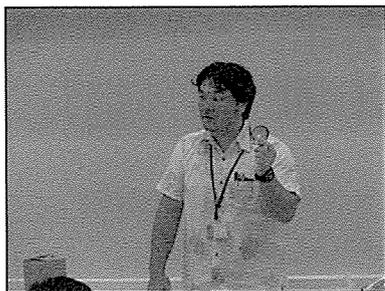


キットの組み立ては、慎重に

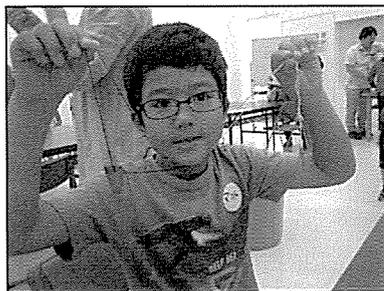
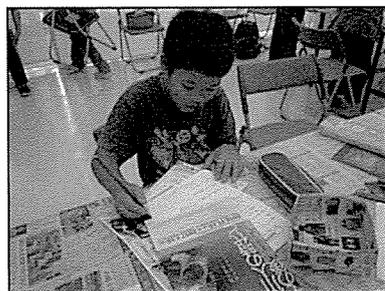


いよいよ、完成間近!

☆貝器づくり

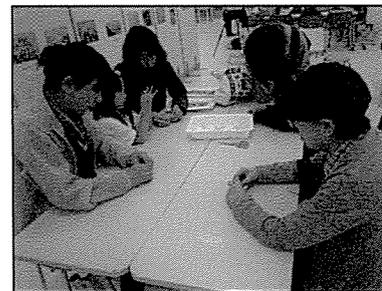
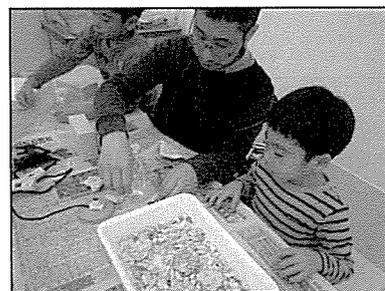


貝器製作の様子



貝器製作の様子

☆サンゴ礁ウィーク 2017

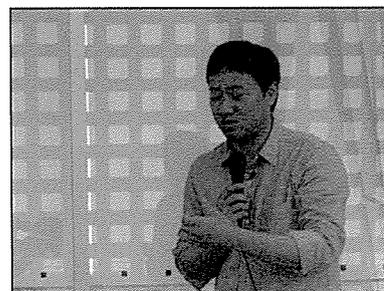


ランプシェード作りの様子

サンゴを使ったストラップ作りの様子



ワークショップの様子



サイエンスカフェでは、琉大の大野氏がゲストとして参加頂き、活発な意見交換があった



7月23日(土)・24日(日)  
8月20日(土) 8月21日(日)

まだまだあるよ!

# 体験学習教室

**① 昆虫標本づくり**  
見なれた身近な虫たちにも驚かぬ発見があるはず!  
標本を作りじっくり観察しよう!

スケジュール  
1回目 博物館で昆虫標本・トラップ作り  
2回目 持ち帰った昆虫の標本作り  
3回目 標本箱を持って標本を保存・展示

申込方法  
募集期間 平成28年7月1日(金)～10日(日)  
事前申し込み、参加希望者を第2希望まで選択し、当チラシの応募欄に必要事項をご記入の上、FAX・郵送・来館(都合あり)にて、ご提出下さい。  
●応募者多数の場合は、抽選にて、当選者のみ7/19(日)までにハガキで通知します。  
●電話での申し込みはできません。  
●お返事、来館の場合は、お多分におひきの返事をお待ち下さい。  
●当チラシ(応募票)は、当館HPでダウンロードできます。 → <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

**② ペットボトルでつくる 簡易植物工場**  
ペットボトルで植物工場のモデルをつくらう

申込方法  
募集期間 平成28年7月1日(金)～10日(日)  
事前申し込み、参加希望者を第2希望まで選択し、当チラシの応募欄に必要事項をご記入の上、FAX・郵送・来館(都合あり)にて、ご提出下さい。  
●応募者多数の場合は、抽選にて、当選者のみ7/19(日)までにハガキで通知します。  
●電話での申し込みはできません。  
●お返事、来館の場合は、お多分におひきの返事をお待ち下さい。  
●当チラシ(応募票)は、当館HPでダウンロードできます。 → <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

申込方法 FAX 098-941-2392

応募票	住所 〒	自宅 電話番号	参加希望の教室番号を一つ記入して下さい。
	名前 ふりがな (本人)	年齢 年生	性別 はい・いいえ

沖縄県立博物館・美術館 TEL: 098-941-8200 <http://www.museums.pref.okinawa.jp>  
開館時間 9:00-18:00(休) 休日は25:00まで(休) 休日は25:00まで(休) 休日は25:00まで(休) 休日は25:00まで(休)

沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展  
「港川人の時代とその後—琉球をめぐる人類史の断片と展覧—」関連催事 平成28年度 体験学習教室

# 貝器

矢じり

どんなときに使った道具なんだろう?

沖繩の先史人は、貝殻を加工し様々な道具を作っていました。  
今回は、その中でも真珠貝を加工して、古代の矢じりをつくってみよう!

対象：小1～小6  
参加費：200円

**11月19日(土) 10時～12時**  
場所：博物館実習室 定員：15人  
参加方法：事前申し込み(電話もしくは来館)  
受付期間：10/25(火) - 10/30(日)  
\*応募者多数の場合、抽選後、当選者へ11/6(日)までにハガキで通知します。

世界にひとつしかない、オリジナル矢じりをつくらう!

真珠貝を けずって形を整えて 穴をあけたら完成!

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL: 098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

サンゴの日は博物館へ  
サンサン GOGO!

サンゴ礁ウィーク 2017  
沖縄県立博物館・美術館

**3月5日(日) 参加無料**

小さいお子さんは大人と一緒に参加してね!

サンゴ礁で遊ぼう!  
サンゴ礁の生き物に関するワークショップ  
場所：1階エントランスホール

①サンゴをつくるストラップ

②サンゴとペットボトルでサンゴ礁をつくろう

③サンゴ礁を学ぶ図鑑で遊ぼう

①10:00-11:00  
②11:00-12:00  
③13:00-14:00

10:00-11:00  
14:00-15:00

9:00-16:00 先着100人 \*随時受付  
各回先着10人 \*各回30分前受付開始  
各回先着15人 \*9:00から総合案内にて受付開始

**サイエンスカフェ**  
\*対象：中学生以上  
3階ミュージアムカフェ「茶花」にて  
コーヒーとお菓子で午後のひとときを  
くつろぎながら大人向けのサンゴ談話  
を楽しみましょう。  
講師：大野 良和 氏(琉球大学)  
14:00-16:00 先着30人  
<お電話にて事前申込>  
Tel: 098-941-8200

沖縄県立博物館・美術館  
Chinwa Prefectural Museum and Art Center  
愛称：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会  
〒900-0006沖縄県那覇市おもろまち3-1-1  
[www.museums.pref.okinawa.jp](http://www.museums.pref.okinawa.jp) TEL: 098-941-8200  
[開館時間] 9:00-18:00(金・土は20:00まで)  
[休館日] 毎週月曜日(祝日が休館日の場合は、翌平日)

# 平成28年度 第1回講座

## 博物館体験学習教室

### 『昆虫標本作り』



期日 平成28年7月23日(土) 9:30~12:00  
時間 7月24日(日) 9:30~12:00  
8月20日(土) 9:30~12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

#### 日程

7月23日(土)	受け付け	9:15 ~ 9:30
	開講式	9:30 ~ 9:40
	講座(実習)	9:30 ~ 11:50
	《昆虫捕獲・ライトラップ作製》	
	後片付け・諸連絡	11:50 ~ 11:55

7月24日(日)	受け付け	9:15 ~ 9:30
	開講式	9:30 ~ 9:40
	講座(実習)	9:30 ~ 11:50
	《標本作製》	
	後片付け・諸連絡	11:50 ~ 11:55

8月20日(土)	受け付け	9:15 ~ 9:30
	開講式	9:30 ~ 9:40
	講座(実習)	9:30 ~ 11:50
	《ラベルの作成》	
	後片付け・諸連絡	11:50 ~ 11:55

# 博物館 体験学習教室「昆虫標本づくり」実施計画

2016.7. 教育普及

## 1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

## 2 日時

平成 27 年 7 月 23 日(土) 9:30~12:00  
 7 月 24 日(日) 9:30~12:00  
 8 月 20 日(土) 9:30~12:00

## 3 対象者

小学校3年生~高校生

## 4 募集人員 20名

## 5 場所 博物館実習室

## 6 日程

日時	当日の動き	時間
7月23日(土)	○用具等搬入、全体打合せ(講師、ボランティア)	9:00~
	○1回目(土)受付 (15)	9:15~ 9:30
	◎開講式 <実習室> (10)	9:30~ 9:40
	①始めの言葉 司会 (美ら島財団:大濱)	
	②講師紹介 教育普及担当 (大川)	
	③日程確認	
	■講座 <実習室>	
	<昆虫について、昆虫採集の方法> 講師による解説 (10)	9:40~
	~ 移動 ~ (10)	10:00~10:10
	<新都心公園> (30)	10:10~10:40
	~ 移動 ~ (10)	10:40~10:50
<天久沖縄の杜> (30)	10:50~11:20	
~ 移動 ~ (10)	11:20~11:30	
<ライトトラップ作製> (30)	11:30~11:55	
○次回の連絡 (10)	11:55~12:00	
7月24日(日)	○2回目(日) 講師、ボランティア集合時間	9:00~
	○受付 (15)	9:15~ 9:30
	■講座 <実習室>	
	<昆虫標本のつくりかた> 講師による解説 (30)	9:30~10:00
	<展翅、展足 標本作製> (40)	10:00~11:40
	○後片づけ (10)	11:40~11:50
○まとめ、次回の連絡 (10)	11:50~12:00	
8月20日(日)	○3回目(日) 講師、ボランティア集合時間	9:00~
	○受付 (15)	9:15~ 9:30
	■講座 <実習室>	
	<標本箱のつくりかた> 講師による解説 (15)	9:30~10:30
	<昆虫の分類とラベルのつくりかた> (30)	10:30~11:00
	<ラベルの作成、昆虫を標本箱へ移動> (45)	11:00~11:45
	◎閉講式 (15)	11:45~12:00
	始めの言葉 司会 (美ら島財団:大濱)	
	講師によるまとめ . . . . . 講評	
	記念撮影	
終わりの言葉 司会		

7 講師 山崎 仁也 (生物分野担当学芸員)

8 役割分担

(1) 当日までの役割分担

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ①事業起案         | 大川             |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 美ら島財団          |
| ③受講生受け付け      | 美ら島財団          |
| ④打ち合わせ        | 山崎・大川・渡部・大濱・立松 |
| ⑤説明資料作成       | 山崎・大川・渡部・大濱    |
| ⑥材料・用具等の諸準備   | 山崎・大濱          |
| ⑦ボランティア募集     | 立松             |

(2) 当日の役割分担

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| ①受け付け及び材料費の徴収      | 渡部・大濱・立松  |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 |           |
| 司会：大濱    講師紹介：大川   |           |
| ③講座の進行             | 大濱        |
| ④材料等の準備及び配布        | 博物館ボランティア |
| ⑤記念撮影              | 美ら島財団     |

9 準備するもの (材料・用具等)

◎必要な材料・用具

(1) 講師準備

- ・虫取り網 (20 本) ・発砲スチロール ・ユニパック (1 人=10 枚) ・酢酸エチル  
ハレパネ

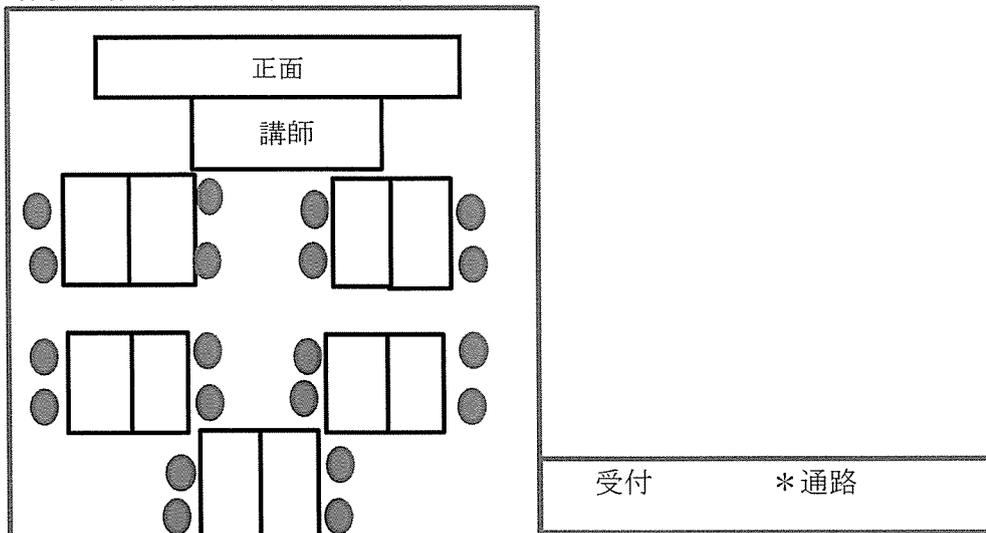
(2) 館側が準備するもの

- ・三角紙 (中 200 枚 (1 人→10 枚)、特大 100 枚 (1 人→5 枚)) ・プラカップ 20 個
- ・展翅テープ (3 種類 5 箱) ・昆虫針 (1・3・5 番：1 人→各 10 本) ・平均台
- ・買い物袋 (20 枚) カッター・はさみ・定規・鉛筆・セロテープ
- ・カッター台 ・穴開けパンチ
- ・ハンガー 20 本・透明下敷き (A4 サイズ 20 枚)
- ・A3 クリアファイル 20 枚・S 字フック 1 人→4 個
- ・まち針 (1 人=100 本) ・透明プラスチック板 (A3 ハードケース)
- ・ピンセット・防虫剤 1 箱 2 個・標本ラベル (A3 を 6 等分) ・ボールペン (細字用)

(3) 受講生への連絡 (準備するもの)

- ・作業ができる服装 ・空き箱
- ・材料費 1 名 (500) 円

10 体験会場 沖縄県立博物館 実習室



## 11 その他確認

- ・配布資料作製・・・山崎
- ・PC準備・・・山崎
- ・昆虫（予備）・・・山崎 立松
- ・ライトトラップ作成・・・山崎

- ・材料費の内訳明細・・・大濱
- ・チラシ作成・・・大濱
- ・応募者への通知・・・大濱  
当選者へハガキにて通知・・・大濱
- ・標本箱・・・大濱  
カッター、はさみ、定規、鉛筆、セロテープ ハレパネ、カッター台

### 準備するもの

#### 1日目

##### ○昆虫採集

- ・虫取り網（20本）・三角紙（中200枚（1人→10枚）、特大100枚（1人→5枚））
- ・ユニパック（1人=10枚） ・買い物袋（20枚） ・穴開けパンチ ・酢酸エチル

##### ○ライトトラップ ・ハンガー20本

- ・透明下敷き（A4サイズ20枚） ・A3クリアファイル20枚
- ・S字フック1人→4個 ・プラカップ20個

#### 2日目

##### ○展翅、展足、標本作製

- ・発砲スチロール ・展翅テープ（3種類5箱） ・まち針（1人=100本） ・ピンセット
- ・ハレパネ ・昆虫針（1・3・5番：1人→各10本）

#### 3日目

##### ○標本箱作製

- ・空き箱（参加者各自持参） ・カッター ・はさみ ・定規 ・鉛筆 ・セロテープ
- ・ハレパネ ・カッター台

##### ○ラベル作成

- ・昆虫針（1・3・5番：1人→各10本） ・透明プラスチック板（A3ハードケース）
- ・平均台 ・防虫剤1人→2個 ・標本ラベル（A3を6等分） ・ボールペン（細字用）

※天候についての確認

博物館体験学習教室

昆虫標本づくり資料

- 1日目 平成28年7月23日(土) 9:30~12:00
- 2日目 7月24日(日) 9:30~12:00
- 3日目 8月20日(土) 9:30~12:00



九州・沖縄の身近な昆虫  
全2542種

南方新社  
『昆虫の図鑑』 抜粋

昆虫はとて多種類が多いので、名前を確認しようと思ったら標本にするのがベストです。また、飼っている虫も死んだら標本にして残しておく、後でいるいるなことを調べることが出来ます。楽しいから、おもしろい形をしているから集めてみよう、という場合でも、標本作りは必要です。せつかく採集してきたものから、きちんとして活用しましょう。

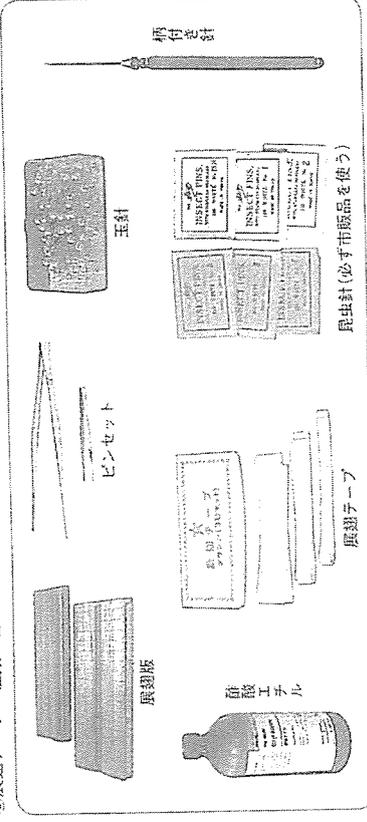
(1) 標本作りに必要な用具

標本を作るためには、最低いくつかの用具が必要です。自分で作れるものもあれば、市販品を買わなければならぬものもあります。

- ① 展翅板(てんしばん)：チョウ、ガ、トンボ、ハチ、バッタなどの羽を広げるためのものです。
- ② 展翅板：甲虫やバッタなどの足、触角をそろえるためのもの。トンボやハチ、アブなどの標本作りにも使えます。市販品もありますが、厚さ5cm程度の発泡スチロールでもよいです。
- ③ 昆虫針：長さ4cm程度の針。頭が玉状になった有頭針とそれがない無頭針があります。昆虫の大きさによって0号(細い)から5号(太い)まであり、種類によって使い分けられます。(必ず買わなければならぬもので、縫い針や虫ピンは後でサビなどがでて、せつかくの標本がためになります)

例：カブトムシ、アゲハなど(5号) カナブン、トンボ、タテハチョウなど(4号)  
コムムシ、シジミチョウなど(3号) 前記以外の小さい昆虫(2~0号)

- ④ 玉針：展翅や展足をするとき固定するために使います。頭に玉がついたものがよく、たくさんあつた方がいいです。
- ⑤ 展翅テープ：種類に合わせて3種類くらいの幅があると便利です。



- ⑥ ペンセット：先のとがったものがよい。
- ⑦ 柄付き針：展翅板を使って昆虫の羽などを整えるのに必要です。昆虫針を割ればしに縫い付けて作ることもできます。
- ⑧ 殺菌エチル：野外で採集した虫を殺すための薬です。(大人の人に薬局で買ってもかまいません)

- ⑨ その他
  - ・タトウ紙(四角紙)
  - ・ポリフォーム
  - ・トンボなどの標本作りには、しっぽが折れないようにするためにエノコログサの穂をよく使われる エノコログサの穂

どイネ科の葉の芯を入れ、秋のうちにたくさん採って乾燥させておくことよいでしよう。  
できあがった標本に採集データラベルを付けるため、平均台があると便利です(202頁参照)。

## (2)標本の作り方

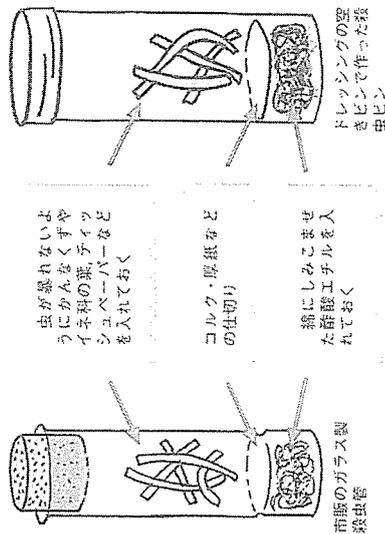
採集してきた昆虫は、殺した後、形を整えてできるだけ早く乾燥させるか、アルコールに浸けて保存する方法(幼虫など)があります。ここでは乾燥させる方法を紹介します。死んだ虫は大ききさによって標本の作り方を変えます。

昆虫を生かしたまま持ち帰りたい時は、1頭ずつに分けて持ち帰るといいです。小さなものはフィルムケースや密閉容器を利用します。直射日光などが当たって中が蒸れたりしないよう気を付ければ、とくに換気用の穴を開ける必要はありません。市販の飼育ケースなどにたくさん入れると中で蒸れたり、虫によっては食べられたりすることがあります。どうしてもいっしょに入れておくと、中に草や木の枝などを入ると、虫同士が触れあわなくなってしまうようにする工夫が必要です。

飼っていた昆虫が死んだのを標本にする時は、死後すぐに標本にします。そのままにしておくと足や頭がとれたり、腐ってにおいがしたりします。

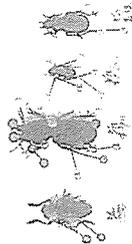
### ①殺虫管を使う

採集した昆虫を標本にする時は、図のようにな殺虫管(ビン)に入れて持ち帰ります。甲虫、カメムシ、ガなどは酢酸エチルを入れた殺虫ビンの中で完全に殺しておきます。薬品がないときは、密閉容器などに入れて冷凍させてもいいです。標本にする時は外に出した後、常温になるまでふたを開けないでそのままにしておきます。標本にする前に水やお湯で洗うとカビが生えにくくなります。

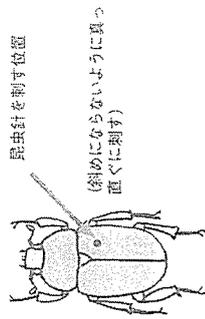


### ②甲虫類(1cm以上のもの)、セミ

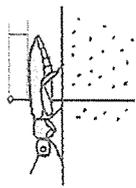
だいたい1cmより大きなものは、図のように右上翅に昆虫針を刺します。セミも特に羽を広げなくても標本が作れます。甲虫と同じように背中のあるところに針を刺して、展足板の上で足を整えて乾燥させます。体の大きいものは乾燥後くるくる回ることを防ぐために、そのときは翼からポンドなどで目立たないように固定します。



翼の中に刺すと壊れやすいので片側に刺す。昆虫は左右対称なので、片方が壊れても反対側が残り、後で残った方を認めることができる。

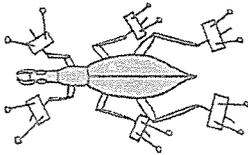


標足図(断面図)

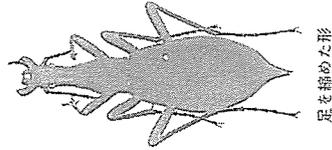


・糸池スチロールに真っ直ぐに、おなかがつくまで刺す。虫の背面に出ている長さをそろえると(1cm前後)、標本箱に入れたときにきれいに見える

展足図(上面図)



足や触角を小さく切った根をまち針で止めて形を整える(足は、あまり広げすぎないようにする)



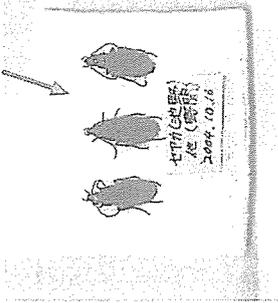
足を縮めた形

### 小さな甲虫

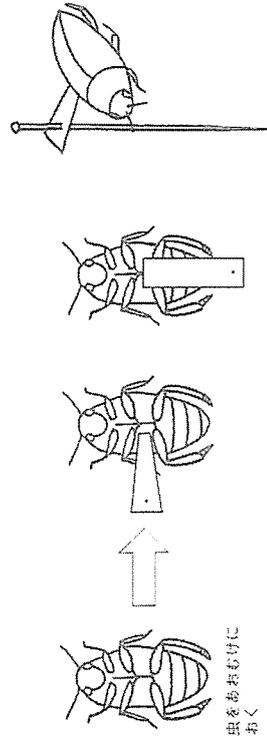
1cm以下の甲虫は、真ん中に四角に切った綿を置いたタトウ紙(四角紙)に包んで乾燥させます。しばらくはピンセットなどで足を整えます。

十分乾燥したら、台紙やプラスチック板に水糊や木工用ボンドなどを使って貼り付けます(後で必要になったら水に水につけるとはがれやすい)。足はきれいに揃えたい場合は、小さく、小さく、紙を使わずに、紙の紙などを切って使ってもいいです。

脱脂綿



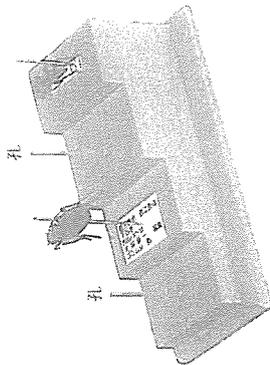
タトウ紙(四角紙)



針を刺した台紙に付けた甲虫

図のように台紙やプラスチック板を付ける

※乾燥した甲虫は、あらかじめ針を刺した台紙などにて潮を蒸ってから付けるとやりやすい  
 ※台紙の高さを揃えるために平駒台を使用し、市販のものもあるが、発泡スチロール板などを切って(1段6mm)、ベニヤ板などに貼り付けてもよい



平駒台に標本をおいて高さをそろえる

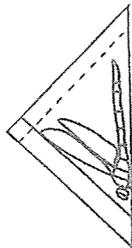
### ③ トンボ類

トンボは死ぬと体色が変化しやすいので早く処理します。でも肉食のため腐りやすいので、採集したら三角紙に入れて生かしたままにしておき、フンを出させます。死んだら腐らないうちに、できるだけ早く標本を作ります。そのとき腹部が曲がり折れたりしないように、エノコログサなどイネ科の草の茎を乾燥させたものを差し込みます。種類に合わせて、いろいろなたさのものを準備しておくといいです(イトトンボにはササミサササなどの細いものを準備しておくといい)。ビニールのほうきやテグスなどを切っても使えます。

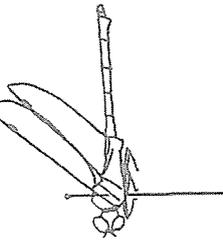


- ・体が柔らかいうちに、裏返して頭を押し下げて胸から入れる
- ・尾端の手前で種類を調べるため傷めないようにする

※芯は外から当てて長さを測り、切ってから入れる



三角紙に入れて餌え死にさせる



横刺しにした標本

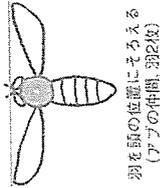
### 横刺しの標本

トンボは胸や腹の標本で固定することが多いため、標本はチョウのよのように羽を広げてもよいが、羽をたまたま横刺しにすることが多い。この方が場所をとらないうちに標本も調べやすい。このとき、針がトンボの体に入れた草の芯を通るようにすると、安定する。

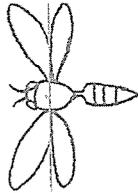
### ④ ハチやアブ

ハエやハチの仲間には、羽が小さく広げにくいので、そのままの状態で針を刺して乾燥することが多いです。羽を広げるときは展翅板を使います。ハチは刺す種もいるので、捕虫網で採集したとき、手で直接つかんではいけません。まず殺虫管のふたを

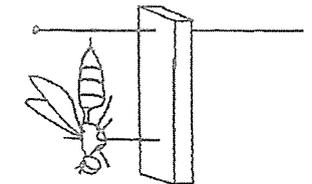
はずして捕虫網の中に入れ、ハチをビンの中に追い込みます。うまく入ったら、一度、網の上からふたをします。動かなくなったら網から取り出し、再度ふたを閉め直します。



羽を胸の位置にそろえる (アブの仲間、羽2枚)



チョウの標本と同じようにする (ハチの仲間、羽4枚)



微針に刺したものの

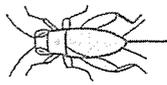
大型種は甲虫と同じように針を刺し、展翅板を使って作るが、小さなものは図のよりに微針(17mm)を使う。小さく切ったホリフォームやコルク片などに微針で虫を刺し、それに昆虫針を刺す。このとき羽はそのままでよい。

展翅板を使って羽を広げた標本を作るときは、図のように羽の位置に気をつける

### ⑤ バッタの仲間

バッタやキリギリスの仲間は腹部が大きくて死ぬと変色しやすいので、早く標本を作る必要があります。採集した虫はできる限り生かしたまま持ち帰るか、殺虫管で殺しても長く入れておかないで早く出すようにします。とくに体が緑色をしているものは、長く入れておくと黄色く変色します。

三草紙などの紙を使って「詰包み」にして持ち帰る



バッタ科やコロギスなど、体が平べったいものは、背中から針を刺す

キリギリスやシヨウリヨウバッタなどと、おなかの大きいものは内臓を取り除く



※1cm以下は小甲虫と同じように台紙等に貼る  
 ※1~3cmは、そのまま背中から針を刺して乾かす

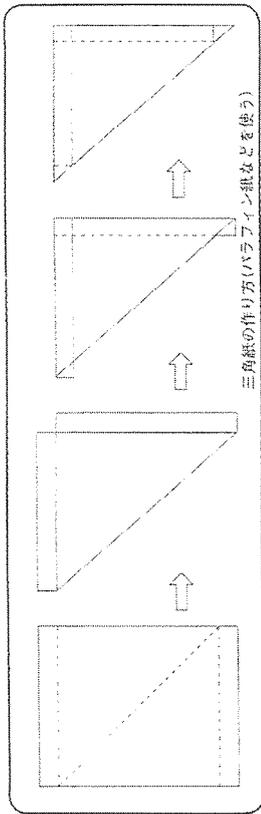
※頭と前胸との間にある柔らかい部分をピンセットで突いて穴を開け、中の内臓を引き出して取り除く。取り除いたあとはおなかへかへこむので、綿を丸めたものを詰める。あとは、頭と前胸を付けておくのと体液でくっつく。



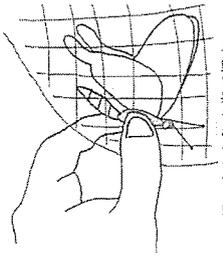
キリギリスのように体が縦に薄いものは、針を胸の横から刺した方がよい  
 ※長い触角は体と平行に後方へ流す  
 ※足の形に注意(片方は曲げ、片方は伸ばす)

### ⑥チョウウエガ

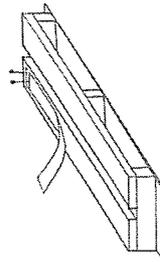
チョウウエガは、採集したら、捕虫網の上から羽をたんだ状態で指で押さえて圧死(気絶)させます。動かなくなったら羽に触れないように胸を持って三角紙に入れ、三角ケースに入れて持ち帰ります。標本作りには、羽を広げて固定する展翅板を使います。



三角紙の作り方(パラフィン紙などを使う)



データを書き替えておく  
三角紙に入れるときは羽を触らないようにする



展翅板と展翅テープ

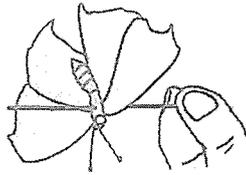
### 三角紙の使い方と保存の仕方

- ①触角を羽の間に隠すように包むと触角が折れない
- ②データを書き替えておく(鉛筆だとぬれでも消えない)
- ③すぐに展翅ができないうちは密閉容器(タッパなど)に入れて冷凍庫に入れる(1ヵ月くらいはもつ)
- ④冷凍庫から出したときは常温に戻すまで、ふたは開けない(すぐに開けると結露する)

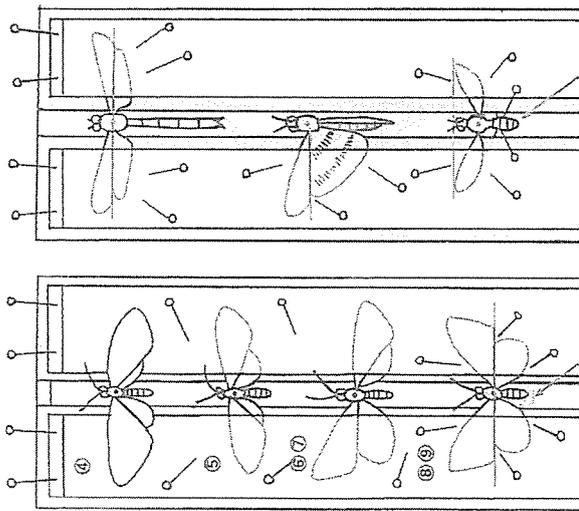
乾燥して固くなったものを標本にするとき

- ①密閉できる容器の底に、水を凍らせた脱脂綿や熱帯魚用の小石を敷き詰める
- ②三角紙のまま、その上に並べる
- ③2~3日くらい冷蔵庫に入れ、羽や触角がある程度動くようになってから出す(胸に熱湯を注射してもよい)。カビに注意
- ④羽を動かす筋肉を横から針で突いてこわす
- ⑤羽の付け根に、薄めた木工用ボンドをしみこませて展翅をする

### 展翅の仕方

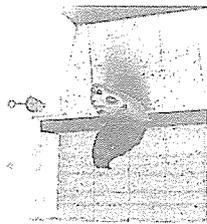


①、②針の刺し方



チョウウエガの展翅の仕方

他の昆虫の展翅の仕方



③、④展翅板への置き方

- ①針を真っ直ぐに背中の中央に刺す
- ②針の半分より深くなるまで刺す
- ③虫を展翅板の高さにそろえるために、背中をピンセットで押し下げ、腹が下がるので脱脂綿などを敷いて支える(上がりすぎにも注意する)
- ④羽を展翅テープで押さえる
- ⑤テープのすき間から、まち針などで羽の脈を引っかけた動かし、羽の位置を決める
- ⑥前羽の下の方が体が対して直角になるようにする
- ⑦後羽は、前羽との重なりが前羽の半分より長くなるようにとめる
- ⑧触角もテープやまち針で固定する(細いテープを線に渡してもよい)
- ※羽に針を刺さないように気をつける

※展翅板は作ってもよいが、市販のものが無難。メーカーによって高さが違うので、大、中、小と同じメーカーのものを選べた方がよい  
※展翅板のサイズは1~6号まである  
例：1号→アガハチヨウ、3号→タテハチヨウ、5~6号→シジミチョウ  
※チョウウエガは展翅板からはずすと、わずかに羽が下がることがある。展翅板が上から外側が上にある種、斜型展翅板を使うとききれいに仕上がる。※展翅テープは、羽の先が出ないくらい広い紙を使う方がよい。パラフィン紙など半透明な紙を利用すると透けて見えるのでよい

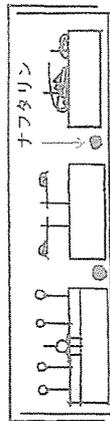
⑦乾燥の仕方

風筒機や風促機を使ってきれいに形を整えても、乾燥がしっっかりできていない場合は、標本箱の中に入れてからカビが生えたり、羽や足が下がってしまうことがあります。しっっかり乾燥させましょう。

乾燥の期間は気温や湿度にもよりますが、夏の晴氏が続いている頃なら2週間くらいを目安にするといいでょう。腹部や大きな足などを針で軽くはじいてみて、固くなっていたら大丈夫です。

乾燥は、風筒機や風促機がゆっくくり入る紙箱等にに入れてふたをします。このとき密封してしまうと、乾燥せずカビが生えます。逆にすぎ間が多いと乾燥にはいいのですが、コキブリなどが食べてしまうことがあります。アリやコキブリがいないようであれば、ふたをしない方が乾燥しやすいです。

急いで乾燥させる必要のあるときは、加熱処理機(乾燥機など)を使うと半日から1日程度で乾燥させることができます。その場合は羽をしっかりと押さえておかないと、反ったりすることがあります。トンボやせみなどは加熱すると羽がギラギラ光ったり、体色の変化がひどくなることもあるので要注意。トンボは三角紙に入れたまま紙の空箱に入れて冷蔵庫に入れ低温乾燥させると、体色変化をある程度抑えることができます。



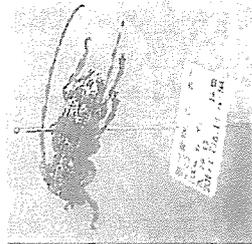
※箱の中にはナフタリンなどをに入れておく

⑧標本ラベルの作り方と付け方

乾燥後は標本箱に入れますが、その前に標本1匹ずつにラベルを付けなければなりません。標本ラベルは画用紙程度の厚さの紙(ケント紙を使うとよい)で、1枚の大きさは縦1cm、横2cm程度。ワープロなどがあれば、小さく印刷してそれを切るときれいです。

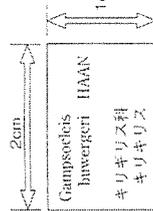
ラベルには、①採集地、②採集年月日、③採集番号の3つは必ず入れます。これらがなくないものは標本としての価値がなく、後で調べるときにも困ります。

その他に、科名や種名などを書いておいたものを付けてもかまいません。1枚の紙に入らないときは上下2枚に分けて付けてください。



ラベルの付け方

鹿児島県 西之表市 若宮 2004年8月3日 大坪 菜々々 採集	Wakamiya Nishinomote-Shi Kagoshima-Ken 2004.3.VIII Leg.N.OTSUBO
---	---



ラベルのサイズは目安です。標本の大きさに合わせて変えてもよい

ラベルの書き方の例

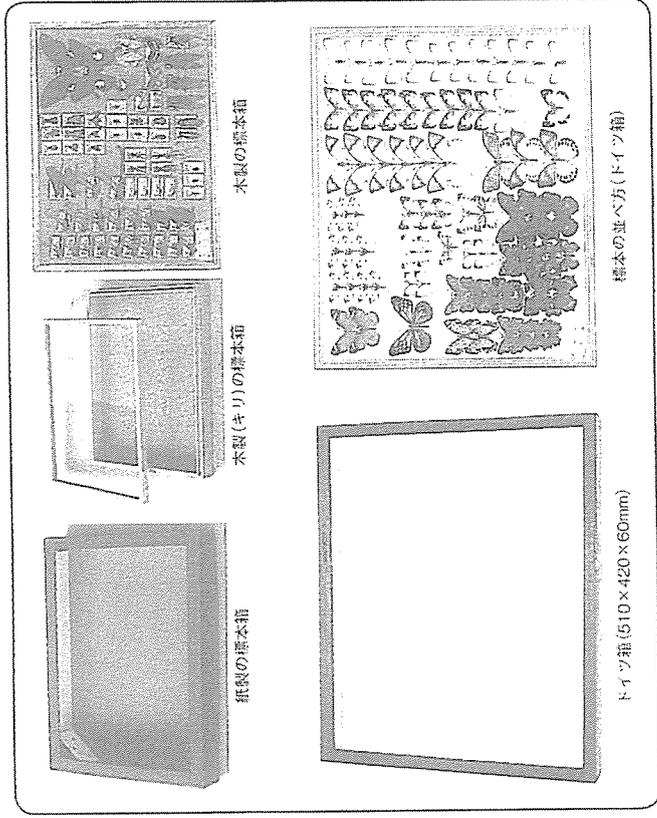
⑨標本の保存や並べ方

標本にラベルを付けたら、次は標本箱に入れます。この標本箱はだいたい、長く保存できたり、すぐにカビが生えたり、虫(カマツオオシムシなどを)に食べられたり、保存状態が違ってきます。

標本箱には木製のガラス箱と紙箱の2種類があります。木製のガラス箱は密閉性もよく長期の保存に適しています。開け閉めに気をつければ、ほとんどカビが生えることはありません。しかし、紙箱はどうしてもすぎ間ができるために、外から湿気や虫が入りやすくなります。

標本箱の中に入れるときは、天気の良い乾燥した日にしましょう。湿度が高いときは、エアコンなどで部屋の湿度を下げてから入れるようにしましょう。そのとき、中に衣類用のナフトアリンを入れておくとかビや虫除けになります。これらは箱の中で乾かさないようにしっかりと止めておきます。(パラジクロールベンゼンは揮発性が高くて長持ちしないし、標本箱の中の白いペーパー板が変質して曲がることがあるので、できるだけナフトアリンを使う方がよい)

標本箱は横長に使い、標本は種類や採集地、季節などのテーマごとに並べます。一般に、チョウ、ウ、ガなどは縦に並べます。できあがった標本箱は、湿度変化のない涼しい所で保管しましょう。そのとき、ガラス面に光が当たらないようにすると、標本の色もほとんど変化せず長持ちします。(光が長く当たると色があせてくる)



※夏休みの宿題用など、長期保存を目的としないのなら、空き箱や木箱に厚めのセロハンやビニール、アクリル板などを貼った自作の標本箱で充分です。

平成28年度 第2回講座

博物館体験学習教室

## 『簡易ペットボトル植物工場』



期日 平成28年8月21日（日） 9:30～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

8月21日（土）	受け付け	9:15 ～ 9:30
	開講式	9:30 ～ 9:40
	講座（実習）	
	《本日の内容についての説明》	9:40 ～ 9:55
	《簡易植物工場作成》	9:55 ～ 11:45
	後片付け・諸連絡	11:45 ～ 12:00

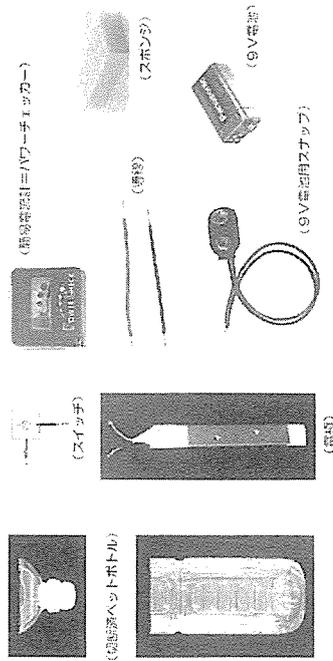


## ペットボトルでつくる簡易植物工場

浅賀 宏昭 (明治大学)

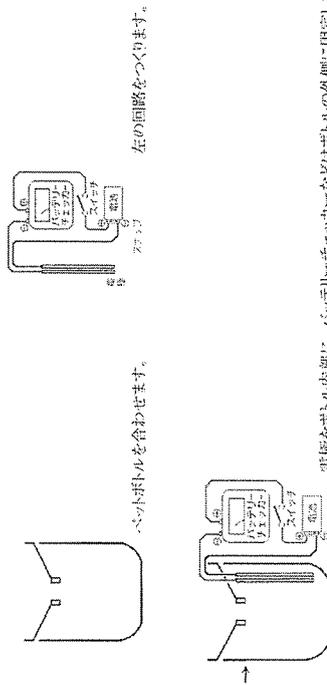
ペットボトルの空きビンに蓋きピンを差液タンクに利用して簡易植物工場を作ってみましょう。これは単なる水耕栽培用の容器ではありません。栽培に用いる養液の濃度を電気伝導度でチェックできる機能を備えている「植物工場」です。これを使えば、無雑慮根や水を節約しながら、良い環境に保って、野菜などを育てることが出来ますので、環境にも悪影響を及ぼしません。まさに未来の食料生産システムモデルなのです。ここで基本原理を学びながら組み立ててみましょう。

材料：

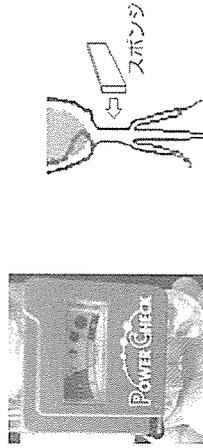


(以上の他に、養液、草摘液、ピペット、野菜の苗も準備します)

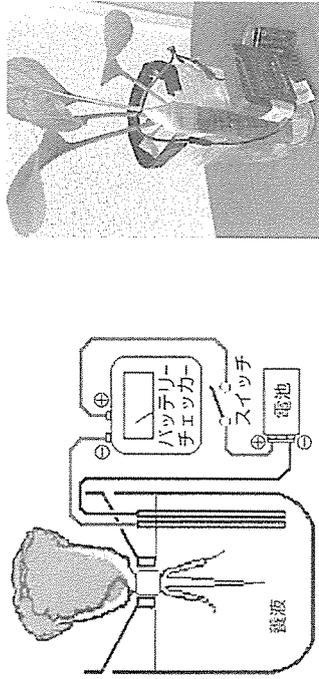
組み立て方：



前図の穴印(一)の高さまで養液を入れ、スイッチを入れて針が振れるのを確認します。



苗の根の上部に細長いスポンジを巻きます。



苗を本体にセットすれば栽培開始です。

野菜などの栽培方法：

- ①置く場所は、明るい室内が適しています。
- ②直射日光が葉に当たってもよいですが、養液には直接当たらないようにしましょう。
- ③1日1回、写真を撮って、生長を記録しましょう。
- ④写真撮影後、スイッチを入れて養液濃度をチェックします。針が右に振れ過ぎたときは、電気が良く流れているので、養液が濃すぎていることを示しています。その場合は、ピペットで水道水をタンクへ少し加えて調整しましょう。針が左の方を指しているときは、電気が良く流れていないので、液が薄くなっていることを示しています。この場合は、ピペットで濃縮液をタンクへ少し加えて調整、針が適切な濃度を指すように調整しましょう。(水面は、矢印(一)の高さが目安)

野菜が育ったら、茎と葉は食べられます。食べて味わってみましょう！

参考文献：

- 浅賀宏昭 (2015) 「未来の食料生産を担う植物工場のモデルを作って野菜を育てよう」『理科の探究』16: 16-19.
- Asaka, H. (2016) "A plant factory-like apparatus as an experimental teaching material for science education: assembly and experimental procedures" *Bull. Ariz. Sci. Teach. Univ.* 509: 117-129.

平成28年度 第3回講座

博物館体験学習教室

『貝器を作ろう』



期日 平成28年11月19日（土） 9:30～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

8月21日(土)	受け付け	9:45 ~ 10:00
	開講式	10:00 ~ 10:10
	講座(実習)	
	《本日の内容についての説明》	10:10 ~ 10:25
	《貝器作成》	10:25 ~ 11:45
	後片付け・諸連絡	11:45 ~ 12:00

# 博物館 体験学習教室「貝器づくり体験」実施計画

2016.10 教育普及

## 1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

- 2 日時 平成 28 年 1 1 月 19 日 (土) 10:00~12:00
- 3 対象者 小学生
- 4 募集人員 ( 15 ) 名
- 5 場所 博物館実習室
- 6 日程

当日の動き	時間
○受付 (15)	9:45~10:00
○開講式 <実習室> 始めの言葉.....司会 (大川) (10) 講師紹介.....教育普及担当 (大川)	10:00~10:10
■講座 <実習室> 《本日の内容についての説明》 (15)	10:10~10:25
《 貝器作成 》 (80)	10:25~11:45
後片づけ・連絡等 (15)	11:45~12:00

## 7 講師

山崎 真治 (沖縄県立博物館・美術館 博物館学芸員)

## 8 役割分担

### (1) 当日までの役割分担

- ①事業起案及び講師依頼.....山崎・大川
- ②マスコミ各社への取材依頼.....美ら島財団
- ③受講生受け付け.....美ら島財団
- ④講師打ち合わせ.....大川・大濱・渡部
- ⑤説明資料作成.....山崎
- ⑦材料・用具等の諸準備.....美ら島財団 博物館ボランティア

### (2) 当日の役割分担

- ①受付及び材料費の徴収.....美ら島 ( )
- ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介  
司会.....大川  
講師紹介.....大川
- ③講座の進行.....美ら島 ( )
- ④材料等の準備及び配布.....博物館ボランティア
- ⑤記念撮影.....美ら島財団

## 9 準備するもの(材料・用具等)

- 必要な材料・用具
- 館側が準備するもの ※材料等については、講師が用意
- 受講生が準備するもの ・材料費 1人 ( 200 ) 円

## 10 体験会場(机・イスの配置) ※省略

2016年11月19日(土) 10:00~12:00

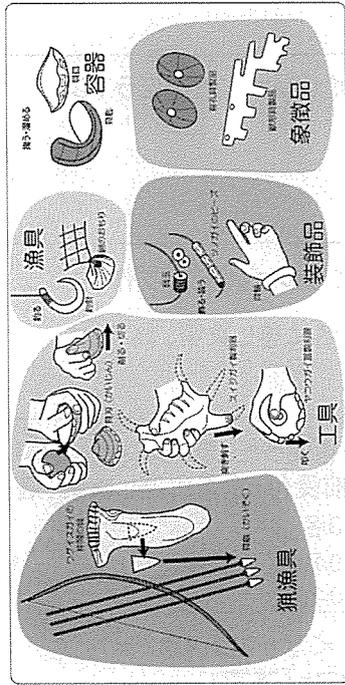
@県立博物館企画普及

ワークショップ①

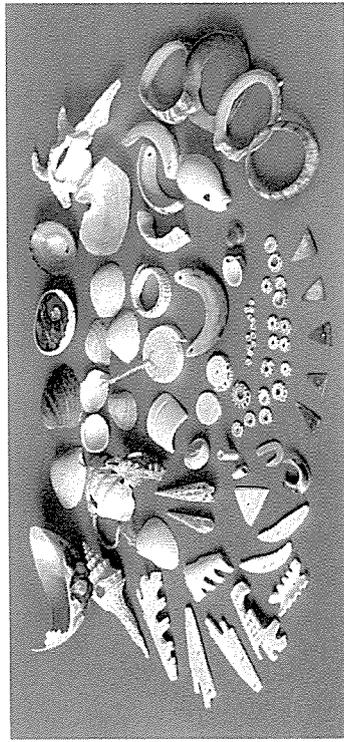
## 貝器をつくろう!

### 1 沖繩の先史人と貝

沖繩の先史人は、さまざまな形で身近な貝を道具として利用してきました。今回は、そうした道具の一つである「貝のやじり」(貝鏝)を製作します。

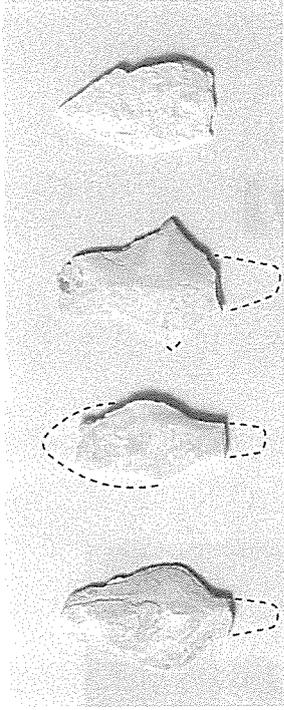


沖繩の先史時代に見られるさまざまな貝器

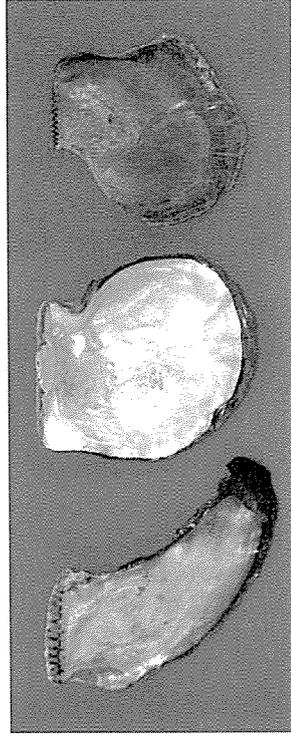


いろいろな貝器 (再現品)

### 2 いろいろな形の貝のやじりと原料



南城市武芸洞遺跡出土の貝のやじり (約7000年前) (左端の長さ約3cm)



貝のやじりの素材となった真珠貝 (左からシモアオリガイ、クロチョウガイ、マクガイ)  
※本講座ではマクガイを使用しています。

平成28年度 第4回講座

博物館体験学習教室

## 『サンゴ礁ウィーク2017』



期日 平成29年3月5日（日） 9:30～16:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 1Fエントランス

日程

8月21日（土）	＜サンゴ礁で遊ぼう！＞	
	第1回目	9:30～12:30
	第2回目	13:00～16:00
	＜サンゴストラップ作り＞	
	定員100名 ※100名に達し次第、終了	
	＜サンゴを使った、ランプシェード作り＞	
	※開始30分前受付・定員に達し次第、各回終了	
	第1回目 定員10名	10:00～11:00
	第2回目 定員10名	11:00～12:01
	第3回目 定員10名	13:00～14:00
	＜サイエンスカフェ＞	
	博物館・美術館 カフェ「茶花」	
	定員30名	14:00～16:00

「サンゴの日は博物館へサンサン GOGO！」実施計画

2017.2 教育普及

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

今回の体験学習教室は、「サンゴ礁ウィーク 2017」関連催事として行った。

2 日時 平成 29 年 3 月 5 日（日） 9：30～16：00

3 対象者 小学生～一般

4 催事名等

(1) 『サンゴ礁で遊ぼう！』 サンゴ礁の生き物に関するワークショップ

①第 1 回・・・9:30～12:30

②第 2 回・・・13:00～16:00

③参加人員・・・当日受付・各回定員に達し次第終了

(2) 『サンゴストラップ作り』 サンゴを用いた、ストラップの作成

○定員 100 名・定員に達し次第終了

(3) 『サンゴを使った、ランプシェード作り』 サンゴを用いた、ランプシェードの作成

①第 1 回・・・10:00～11:00

②第 2 回・・・11:00～12:00

③第 3 回・・・13:00～14:00

④参加人員・・・各回 10 名定員・30 分間に受け付け、達し次第終了

(4) 『サイエンスカフェ』

①時間・・・14:00～16:00

②場所・・・本館 3 F カフェ「茶花」

③講師・・・大野 良和氏 琉球大学大学院

④参加人員・・・事前申込にて募集・30 名定員

⑤参加対象・・・一般

5 場所 博物館・美術館 1F エントランス

6 取り組み

期 日	時 間	場 所	参加したボランティアの活動
3 月 1 日(水)	14:00～16:00	美術館こどもギャラリー	○ボランティアを対象に、当日の打合せ・説明会 ○ランプシェード作り事前学習会
3 月 5 日(日)	9:30～16:00	博物館・美術館 1F エントランス	○ワークショップへの協力 ○サンゴストラップ作りへの協力 ○ランプシェード作りへの協力 ○サイエンスカフェへの協力

7 当日配布の資料

ペーパークラフト サンゴの一生ペン立て

——— きりとリせん  
- - - - - やまおりせん

のりしろ

サンゴの一生

バンドルの産生  
夜から朝になると...

2、3日目で  
プラヌラ幼生

カラダの中に  
浮かせてきて  
5〜8年後  
がマコをつくる

サンゴ豆知識

サンゴって動物なんだよね。その証拠に、赤ちゃんの時はプラヌラ幼生  
の姿でよくおよくよ。バンドルっていうのは卵と精子が混じったボール  
で、海をただよいながらだんだんほどけて、他の卵や精子と受精するん  
だって。受精卵がすくし育ったのがプラヌラなんだね。プラヌラは気に  
いった場所ですくすく育って、一生その岩からはなれなくなる。こんな  
子どもの時に人生の一大事を決めてるって、すごいね！

ペーパークラフト サンゴの一生ペン立て

——— きりとリせん  
- - - - - やまおりせん

のりしろ

ふれあい体験室で  
やってみよう！  
立体サンゴバスル

わたしたちはサンゴのポリプが主食です。

ミスジチョウチョウウオ イッテンチョウチョウウオ

サンゴを食べたいのに  
カニがジャマだなる。

わたしの家  
私の家をこわさせるもんか！

サンゴカニ オニトド

主催：沖縄県立博物館・美術館 協賛：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL:098-941-8200 www.museums.pref.okinawa.jp  
【博物館常設展示場】一般410円、高大260円、小中(課外)100円、小中(課内)・70才以上・障害者手帳お持ちの方と介助者：各無料 【観覧時間】9時～18時(金・土は20時まで) 【休館日】毎週月曜日(花日の場合は翌平日)

## IV 博物館文化講座

### 1 博物館文化講座実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

#### (4) 受講方法 当日先着 220名（事前申込み不要）

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
467	4月16日	「琉球の金工品の世界」	久保 智康	200	88
468	5月21日	「ジョン万次郎・琉球に上陸した真実」	神谷 良昌	200	197
469	6月18日	「亜熱帯域のムラの民俗自然誌 -未完の黒島調査-」	篠原 徹	200	79
470	7月16日	「よみがえる国王の肖像画 -復元模写の現在-」	荒井 経	200	92
471	8月20日	「未来の食料生産の一翼を担う植物工場とは？」	浅賀 宏昭	200	36
472	9月24日	「柳宗悦と沖縄の工芸」	杉山 享司	200	214
473	10月15日	「沖縄の土を知って、これからの環境を考える」	金城 和俊	200	73
474	11月19日	ホモ・サピエンスのユーラシアへの拡散とアジア人の起源	松村 博文	200	143
475	12月17日	シンポジウム 「琉球弧と九州をめぐる人類史の起源と展開」	石堂 和博 西田 巖 島袋 春美	200	130
476	1月14日	「沖縄先史時代の人骨について」	土肥 直美	200	150
477	2月18日	シンポジウム「琉球・沖縄の地図」	安里 進 豊見山 和行 金城 善 仲原 弘哲	200	170
478	3月18日	「琉球国図と地図奉納」	渡辺 美季	200	139

## 2 文化講座の実施状況

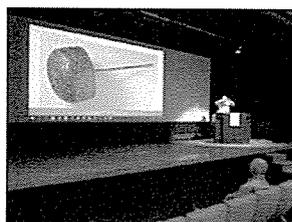
### 第 467 回 文化講座 「琉球の金工品の世界」

日時 2016年4月16日(土) 15:00~17:00 参加者 88名  
講師 久保 智康 (京都国立博物館名誉館員) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂  
講座においては、氏からはご自身の琉球金工との関わりから、琉球における金工の世界について、以下の(1)~(4)において解説がなされた。

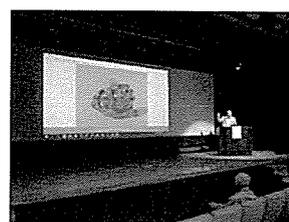
- (1) 琉球独自の簪(かんざし)について
- (2) 発掘された甲冑に見られる、日本本土からの影響
- (3) 仏教の影響による、「禅の教え」からの影響
- (4) 銅製の鏡の出土による、三山成立以前の琉球の様子についての考察



会場いっぱいの参観者



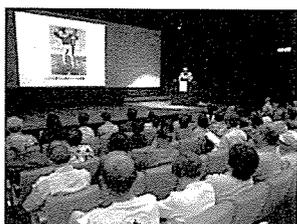
講演を行う久保氏



### 第 468 回 文化講座 「ジョン万次郎 —琉球に上陸した真実—」

日時 2016年5月21日(土) 14:00~16:00 参加者 88名  
講師 神谷 良昌 (糸満市教育委員会総務部長) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂  
講座においては、氏からはジョン万次郎の生涯と琉球上陸に関する研究について、以下の(1)~(4)において解説がなされた。

- (1) ジョン万次郎の生涯、時代背景について
- (2) 万次郎の琉球入りについて。その目的と足跡について。(最初の上陸地は伊是名島か)
- (3) ジョン万次郎と、幕末に活躍した人物達との関わりについて。
- (4) ジョン万次郎の生き方から学ぶこと。



熱心に講義に聞き入る来場者の皆さん



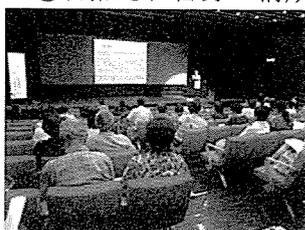
講演を行う神谷氏



### 第 469 回 文化講座 「亜熱帯域のムラの民俗自然史—未完の黒島調査—」

日時 2016年6月18日(土) 14:00~16:00 参加者 79名  
講師 篠原 徹 (滋賀県立琵琶湖博物館館長) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂  
講座においては、氏の研究テーマである“人と自然の民俗学的関係”の見地から講話が行われた。

- (1) 自然を生かす (2) 自然をたわめる (3) 自然を変える (4) 自然を創る
- (5) 3つの環境史と民俗自然史
  - ①人と人の関係性の先にある自然史をめぐる環境史
  - ②自然との直接的な関係をめぐる環境史※生きる方法としての民俗
  - ③自然それ自身の構成要素間の関係をめぐる環境史



黒島での調査について、熱心に聞き入る参観者(左右写真)

### 第 470 回 文化講座 「よみがえる国王の肖像画」-復元模写の現在-

日時 2016年7月16日(土) 14:00~16:00 参加者 92名

講師 荒井 経 (東京藝術大学准教授) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、氏が手がけた修理や復元模写を事例として触れながら、講話が行われた。

修理・・・(大学美術館収蔵品等の修理)

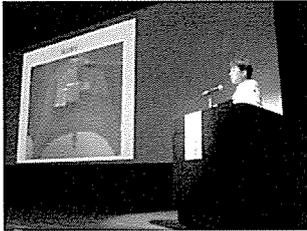
模写・・・(現状模写：古色や剥落までの現状すべてを写し取る模写)

(復元模写：描かれた当初の状態(失われる直前の状態)を描く模写)

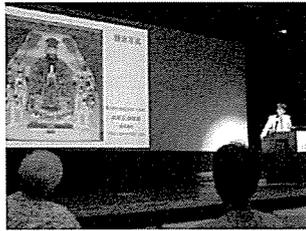
<事例1> 法隆寺金堂壁画の再現模写

<事例2> 山津見神社オオカミ天井絵の復元模写

“文化財”とは何か



講演を行う荒井氏



復元された国王肖像画の解説に聞き入る参観者



会場には多くの方が聴講者に訪れた

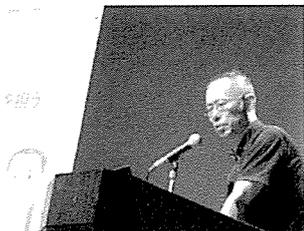
### 第 471 回 文化講座 「未来の食料生産の一翼を担う植物工場とは？」

日時 2016年8月20日(土) 14:00~16:00 参加者 36名

講師 浅賀 宏昭 (明治大学教授) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、氏が研究員として関わっている、「植物工場」による野菜の生産システムについての紹介と現在の課題、今後の世界的人口増加を見据えての食料生産の在り方など、広い視点から講演が行われた。

また、公演後には参観者へ「植物工場」で生産された野菜が配られ、珍しい品種や通常の栽培方法で生産された野菜との比較を行っている場面も見られた。



講演を行う浅賀氏



参観者からは熱心な質問が寄せられた



参観者へ「植物工場」で生産された野菜が配布された



### 第 472 回 文化講座 「柳 宗悦と沖縄の工芸」

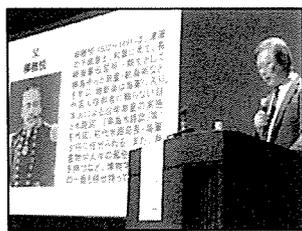
日時 2016年9月24日(土) 14:00~16:00 参加者 214名

講師 杉山 享司 (日本民藝館学芸部長) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

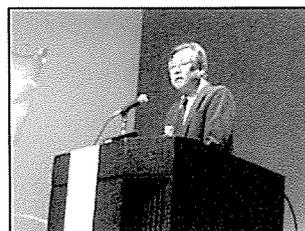
講座においては、氏が学芸部長として関わっている、日本民藝館および創設者の柳宗悦の生涯に触れ、柳と沖縄の民芸との出会いや関わり・沖縄観など、幅広い視野で講演が成された。



会場を埋め尽くす来場者のみなさん



民芸運動と沖縄の工芸との関わりについて貴重なお話を聴かせて頂きました。



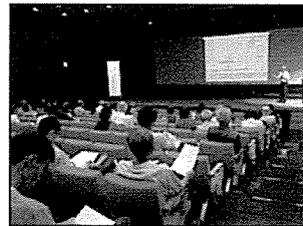
### 第473回 文化講座 「沖縄の土を知って、これからの環境を考える」

日時 2016年10月15日(土) 14:00~16:00 参加者 73名

講師 金城 和俊 (琉球大学農学部准教授) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、氏が研究されている「沖縄の土壌」に焦点を当てながら、講話が行われた。

- (1) 土壌とは (2) 沖縄の土壌について (3) 赤土の流出について
- (4) 農業における土壌について (5) 農業と生態系について
- (6) 土壌が周辺環境に与える影響について (7) 人間と土壌との関わり



金城氏。講座では「沖縄の土壌」を中心に、農業や生態系、人間と環境への関わりなど多岐にわたる内容であった。

### 第474回 文化講座 「ホモ・サピエンスのユーラシアへの拡散とアジア人の起源」

日時 2016年11月19日(土) 14:00~16:00 参加者 143名

講師 松村 博文 (北海道医科大学教授) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、氏が研究されている「ホモ・サピエンスのユーラシア大陸における拡散」に焦点を当てながら、講話が行われた。

- (1) アウト・オブ・アフリカ (2) 東ユーラシアの初期ホモ・サピエンス
- (3) 携帯データが描き出す東ユーラシア先史時代人の系譜
- (4) 新石器時代の農耕拡散とホモ・サピエンスの大移動 (5) 最大の謎は北東アジア人の起源



後援を行う松村氏。

多くの方々が聴講に訪れた。また、会場では、多くの質問が寄せられた。

### 第475回 文化講座 「琉球弧と九州をめぐる人類史の起源と展開」

日時 2016年12月17日(土) 13:30~16:00 参加者 130名※『』内は、研究報告演題

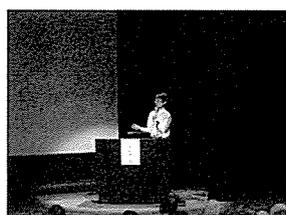
石堂 和博 (南種子町教育委員会) 『種子島の先史文化とその特質』

西田 巖 (佐賀市教育委員会) 『縄文の奇跡！東名遺跡-有明海に沈んだまぼろしの縄文文化-』

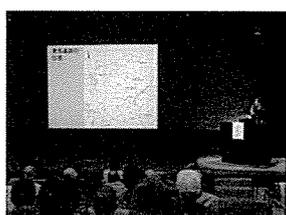
島袋 春美 (北谷町育委員会) 『沖縄先史時代の骨角貝文化』

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、3名の講師が研究されている成果について、それぞれ発表が行われたのち、「琉球弧と九州をめぐる人類史の起源と展開」について、シンポジウムが行われた。



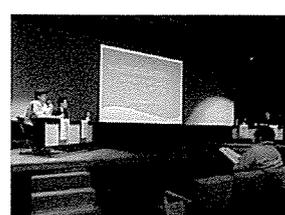
石堂氏の報告



西田氏の報告



島袋氏の報告



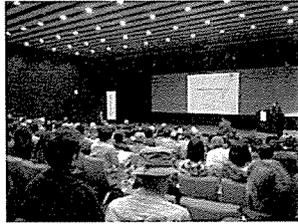
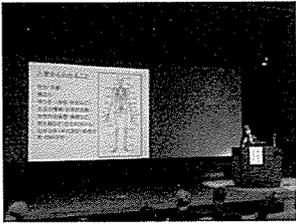
シンポジウムの様子

### 第 476 回 文化講座 「沖縄先史時代の人骨について」

日時 2017年1月14日(土) 14:00~16:00 参加者 150名

講師 土肥 直美 (琉球大学非常勤講師) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座においては、主に氏が研究されている白保竿根田原洞穴遺跡の調査に焦点を当てながら、講話が行われた。



当日には多くの方々が来館され、氏の講演に聴き入っていた。

### 第 477 回 文化講座 「琉球・沖縄の地図」

日時 2017年2月18日(土) 14:00~16:00 参加者 170名

講師 ※『』内は、調査報告演題

安里 進 (沖縄県立芸術大学附属研究所客員研究員) 『琉球の地図製作と鳥瞰図』

豊見山 和行 (琉球大学教授) 『琉球国の土地政策と絵図』

金城 善 (南島地名文化センター代表) 『近代の地図』

仲原 弘哲 (今帰仁村歴史文化センター 前館長) 『土地整理事業の前後について』

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

「琉球・沖縄の地図展」関連催事として、講師各位の調査報告の後、本館館長、田名真之をコーディネーターとして、シンポジウムが行われた。



①安里氏↑

②豊見山氏 →

③金城氏→

④仲原氏→

⑤シンポジウムの様子

### 第 478 回 文化講座 「琉球国図と地図奉納」

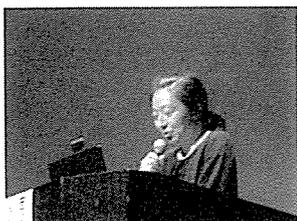
日時 2017年3月18日(土) 14:00~16:00 参加者 139名

講師 渡辺 美季 (東京大学大学院准教授) 場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

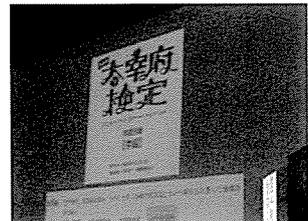
講座においては、本館企画展示「琉球・沖縄の地図展」関連催事として、展示資料の一つである『琉球国図』焦点を当て、講話が行われた。

(1) 「琉球国図」の世界—何が描/書かれているのか— (2) 記載情報のルーツ—中身のナゾ—

(3) 地図成立の事情—外見のナゾ— (4) まとめ—琉球国図と地図奉納—

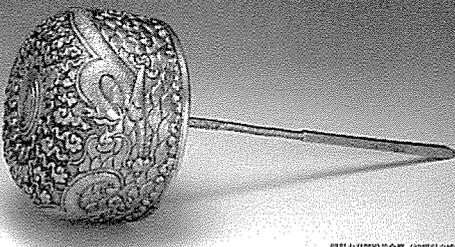


講演を行う渡辺氏



当日には多くの古地図ファンの方々が来館され、氏の講演に聴き入っていた。

開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 467 日開催



開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 468 日開催

# 琉球の金工品の世界

2016年  
**4/16(土)**  
15時~17時  
(開場14時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
3F 講堂

※会場内は撮影が強くおたふ場所がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

**講師：久保 智康 氏**

1958年生まれ。福井県越前市在住。九州大学文学部史学科を卒業後、福井県立博物館、京都国立博物館の学芸員を務める。現在京都国立博物館名誉館員・叡山学院教授・天台宗宗務院住持。専門は東アジア金属工芸史、考古学。著書は天竺教学を通じた仏教工芸の見直し、近代・中世の山科研究を通じて、琉球の歴史と東洋の歴史の関わりにも関心を寄せる。著書『琉球の金工』(日本の美術333) ぎょうせい 2010年

●開館時間：午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 468 日開催



# ジョン万次郎

—琉球に上陸した真実—

2016年  
**5/21(土)**  
14時~16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
3F 講堂

※会場内は撮影が強くおたふ場所がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

**講師：神谷 良昌 氏 (糸満市教育委員会 総務部長)**

1956年生まれ。沖縄県糸満市出身。糸満高等学校卒業後、沖縄県立糸満高等学校、米国清見高等学校を経て米国ペンシルベニア州立大学で、メソアメリカ学を学ぶ。糸満市役所に採用後、経済部、企画部、教育委員会、糸満市国際観光推進委員会への出向を経て、現在は、教育委員会・総務部長。著書：『琉球に上陸したジョン万次郎』共著：『琉球の歴史』(琉球タイムズ出版局)、『琉球二世・サンデー夏子の巻』(琉球新聞社出版)

●開館時間：午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 469 日開催



開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 470 日開催

# よみがえる 国王の肖像画

2016年  
**6/18(土)**  
14時~16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
3F 講堂

※会場内は撮影が強くおたふ場所がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

**講師：荒井 経 氏 (東京藝術大学 准教授)**

日本画家、東京藝術大学大学院 保存修復日本画 准教授。1967年生まれ。筑波大学芸術専門学群日本画の専攻。同大学院修士課程修了。東京藝術大学大学院修士課程修了後、日本画専攻、同博士後期課程修了。博士(文化財)。画家として現代の日本画を専攻するとともに、日本画技法材料の研究者としても活動する。著書に、『日本画と材料—近代以前から現在まで』(2015年 武蔵野美術大学出版局)、『絵巻』(『日本画と材料』) (2010年 武蔵野美術大学出版局) など。

●開館時間：午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 469 日開催

開催日 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 470 日開催

# よみがえる 国王の肖像画

2016年  
**7/16(土)**  
14時~16時  
(開場13時半) **入場無料**

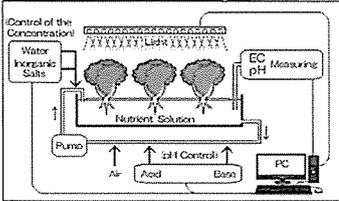
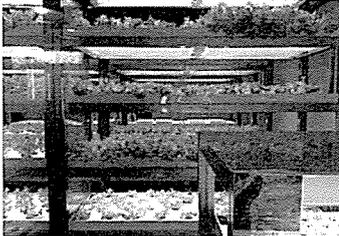
沖縄県立博物館・美術館  
3F 講堂

※会場内は撮影が強くおたふ場所がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

**講師：荒井 経 氏 (東京藝術大学 准教授)**

日本画家、東京藝術大学大学院 保存修復日本画 准教授。1967年生まれ。筑波大学芸術専門学群日本画の専攻。同大学院修士課程修了。東京藝術大学大学院修士課程修了後、日本画専攻、同博士後期課程修了。博士(文化財)。画家として現代の日本画を専攻するとともに、日本画技法材料の研究者としても活動する。著書に、『日本画と材料—近代以前から現在まで』(2015年 武蔵野美術大学出版局)、『絵巻』(『日本画と材料』) (2010年 武蔵野美術大学出版局) など。

●開館時間：午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



未来の食料生産の一翼を担う植物工場とは？

2016年 8/20 (土)

14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂

会場内は冷暖気候、あたる場所がありますので、土着やびき掛けをお持ちください。

日本国内では、未来の野菜とも言われる植物工場野菜の普及が、2009年以降、進んでいます。...

キーワード：植物工場、水耕栽培、養液、農業、結婚、野菜の生産



講師：浅賀 宏昭 氏 (明治大学 教授)

1963年、東京生まれ。東京大学大学院修士課程、筑波大学大学院博士課程修了。理学博士。...

●開催時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL. 098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



柳宗悦と 沖縄の工芸

キーワード：キョーワード 柳宗悦、日本民藝館、民藝運動、沖縄、工芸

2016年 9/24 (土)

14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂

会場内は冷暖気候、あたる場所がありますので、土着やびき掛けをお持ちください。

民藝運動の創始者である柳宗悦が、初めて沖縄を訪れたのは1938年のこと。...

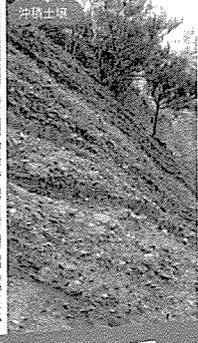
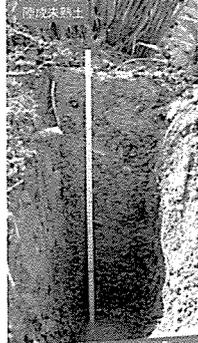
キーワード：柳宗悦、日本民藝館、民藝運動、沖縄、工芸



講師：杉山 享司 (日本民藝館 学芸部長)

日本民藝館学芸部長。1957年生まれ。早稲田大学卒業後、日本民藝館に学芸員として勤務。...

●開催時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL. 098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



沖縄の土を知って、これからの環境を考える

2016年 10/15 (土)

14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂

会場内は冷暖気候、あたる場所がありますので、土着やびき掛けをお持ちください。

「土」という言葉で、何を連想しますか？農業？微生物？森林？または興味がない...。...

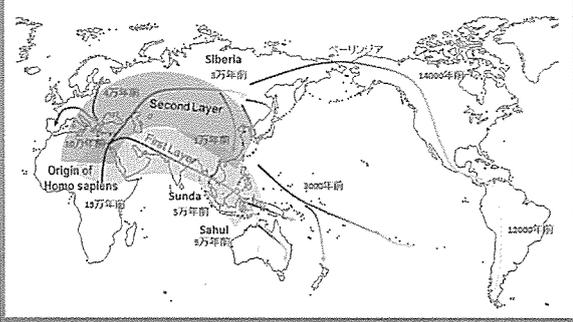
キーワード：土、地球、土の役割



講師：金城和俊 氏 (琉球大学 准教授)

琉球大学農学部 卒業 鹿児島大学連合農学研究所 博士(農学)取得 現在 琉球大学農学部基盤情報森林環境科学科 准教授(土壌学) 専門：土壌学 研究対象：土壌有機物の機能、マングローブ林内土壌、森林土壌、農地土壌、埋戻土壌、堆肥、有機物、赤土流出防止策、土壌生成など。

●開催時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL. 098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



Out of Africa: ホモサピエンスのアジア拡散モデルの再構築

2016年 11/19 (土)

14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂 定員200名(当日先着、予約不要)

会場内は冷暖気候、あたる場所がありますので、土着やびき掛けをお持ちください。

われわれホモ・サピエンスがいかに地球上に拡散したかというテーマは、現代に生きる全人類にとって普遍的な科学テーマであり、世界の人人々から大きな関心が寄せられている。...

キーワード：ホモ・サピエンス 星の北東アジア人 移住 先史遺跡 形態 スダ・サフル人 寒冷地適応と農耕施設



講師：松村 博文 氏 (札幌医科大学)

1984年北海道大学理学部地質学専攻卒業。1988年東京大学理学部地質学専攻修士課程(人地学)修了。理学博士(東京大学)。...

●開催時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL. 098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



## V 博物館学芸員講座

### 1 博物館学芸員講座実施要項

#### (1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間（講座により変更あり）

場 所：博物館講座室を基本とする

#### (4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

回数	期日	演 題	講師名	定員	参加者
1	4月9日	沖縄の民話 — 寄贈テープの保存と活用について—	大湾 ゆかり	80	32
2	5月7日	海へ行きます！ 博物館学芸員と行くジオツアー	宇佐美 賢	15	14
3	6月4日	田中俊雄と”沖縄織物の研究”	與那嶺 一子	80	65
4	7月9日	台湾原住民ブヌ族の骨考古学的調査 — 骨に刻まれた生き様—	片桐 千亜紀	80	47
5	8月6日	博物館バックヤードツアー探検！！	大川 剛	15	11
6	8月27日	実験とは何か ～ゾウムシから STAP 細胞まで～	山崎 仁也	80	28
7	10月1日	「時空を超越えて」 ～柳宗悦と昭和10年代の沖縄～	外間 一先	80	85
8	11月5日	ウチナーンチュは博物館をいかにして 作ってきたか—戦後とともに歩んだ博 物館70年のあゆみをふりかえる—	園原 謙	80	44
9	12月3日	サキタリ洞むかしばなし（秋）	藤田 祐樹	80	100
10	1月7日	沖縄の貝器分化と西太平洋の先史・民 族文化	山崎 真治	80	78
11	2月4日	時空を越えて TSUNAGARU-MAP ～過去から未来への地図の在り方～	石垣 忍	80	60
12	3月4日	琉球王国時代の古地図～「外」からみ た琉球を中心に～	崎原 恭子	80	67

## 2 学芸員講座の実施状況

### 第1回 学芸員講座「沖縄の民話－寄贈テープの保存と活用について－」

日時 2016年4月9日(土) 14:00～16:00 参加者 32名

講師 大湾 ゆかり(民俗)

場所 博物館講座室

- (1) 民話とは ①昔話 ②伝説 ③世間話 ④民俗説明と歌
- (2) 沖縄の民話運動 (3) 遠藤庄治先生の功績 (4) 民話記録の収集活動
- (5) 民話記録の活用 (6) 民話テープの保存 (7) 民話の活用例
- (8) 博物館に寄贈された伝承話音声テープの保存と活用



熱心に聞き入る来館者



解説をする大湾学芸員



新城京美氏の情感あふれる読み聞かせの場面

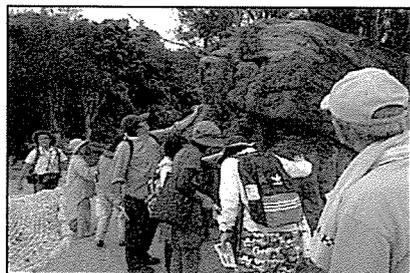
### 第2回 学芸員講座「海へ行きます！博物館学芸員と行くジオツアー」

日時 2016年5月7日(土) 10:00～12:30 参加者 14名

講師 宇佐美 賢(地学)

場所 宜野座漁港

- (1) 沖縄島の地質図 (2) 沖縄島の地質年表
- (3) 嘉陽層・琉球石灰岩～観察から見えてくる大地の歴史～
  - ①宜野座港に見られる嘉陽層
  - ②嘉陽層と琉球石灰岩(異なる2つの地層から堆積環境の変化を考える)
  - ③嘉陽層の褶曲・断層・生痕化石



嘉陽層についての説明。参加者は数千万年かけて作り上げられた自然のダイナミズムに触れた。宇佐美学芸員を囲んでの記念写真

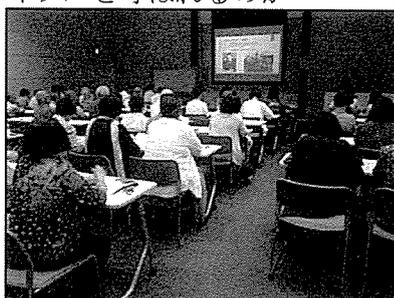
### 第3回 学芸員講座「田中俊雄と“沖縄織物の研究”」

日時 2016年6月4日(土) 14:00～16:00 参加者 65名

講師 與那嶺 一子(美工)

場所 博物館講座室

- (1) 田中俊雄の人物像・生涯 (2) 田中の見た沖縄
- (3) 沖縄織物の研究一何故、バイブルと呼ばれるのか— (4) 田中の残したもの



当日の会場は、染織関係者や愛好者の方々に賑わいを見せた。

田中の足跡をたどりながら当時の民芸復興活動に対する、田中の功績を学ぶことができた。

#### 第4回 学芸員講座「台湾原住民ブヌン族の骨考古学的調査—骨に刻まれた生き様—」

日時 2016年7月9日(土) 14:00~16:00 参加者 47名

講師 片桐 千亜紀(考古)

場所 博物館講座室

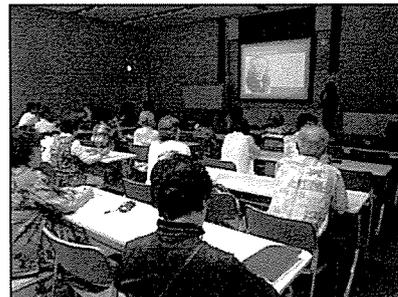
- (1) 台湾・アジア調査の草分け、鳥居龍蔵氏について
- (2) 台湾の原住民、ブヌン族他の抜歯習俗について
- (3) 頭蓋骨・歯から見る当時の生活背景について
- (4) ブヌン族と先史沖縄人との、骨考古学的比較について



講演を行った片桐学芸員



台湾ブヌン族の抜歯習俗について、説明が行われた



鳥居氏の考古学における功績について

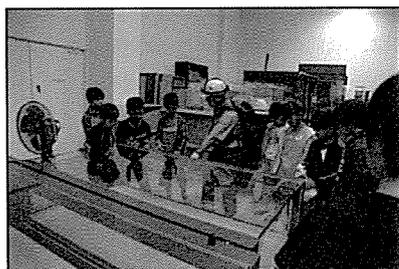
#### 第5回 学芸員講座「博物館バックヤードツアー探検！！」

日時 2016年8月6日(土) 9:30~12:00 参加者 11名

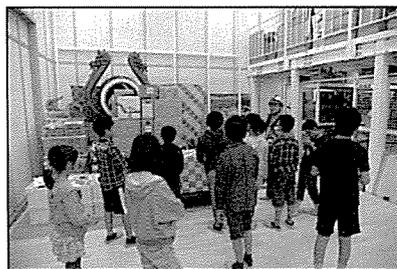
講師 大川 剛(教育普及)

場所 博物館ロビー・バックヤード

- (1) 「博物館探検隊」として、バックヤードツアーを行った。
- (2) 各場所に「指令書」「アイテム(シール)」を置き、説明を聞くだけでなく、探す喜びも加えた。
- (3) ツアー後はロビーにて、ワークシートを作成



展示箱の中から、アイテムを発見!



収蔵庫で説明を受ける様子



ツアー後はワークシートの作成

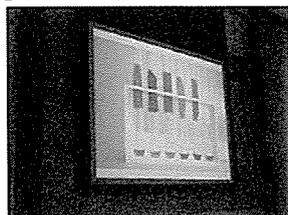
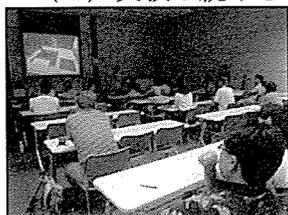
#### 第6回 学芸員講座「実験とは何か ~ゾウリムシから STAP 細胞まで~」

日時 2016年8月27日(土) 14:00~16:00 参加者 28名

講師 山崎 仁也(生物)

場所 博物館講座室

- (1) 実験って何だろう○人の好奇心 ○私の実験体験
- (2) 理科教育としての実験○みんなが博士になるわけじゃない ○自分のオリジナル実験を!  
○好奇心の芽を摘まない STAP 細胞は本当に捏造か
- (3) 動物実験の是非○解剖しないとわからないこと ○動物実験の是非(特に小中高)
- (4) 実験し続ける心○クロードベルナル: 1813-1878年フランスの医師、生理学者



講座では、学芸員自身の体験を踏まえながら、「実験について」の意義とその是非について、考察が述べられた。

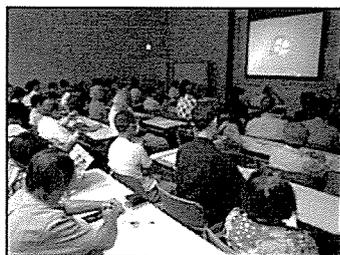
### 第7回 学芸員講座「時空を越えて～柳宗悦と昭和10年代の沖縄～」

日時 2016年10月1日(土) 14:00～16:00 参加者 85名

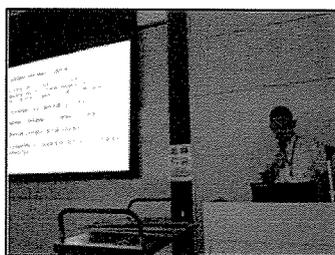
講師 外間 一先(美工)

場所 博物館講座室

- (1) 日本民藝館80周年沖縄の民芸展について (2) 坂本万七について  
(3) 坂本万七と民芸運動 (4) 昭和10年代の沖縄風景



会場には、多くの民芸愛好家が駆けつけた。



講演をおこなう外間学芸員



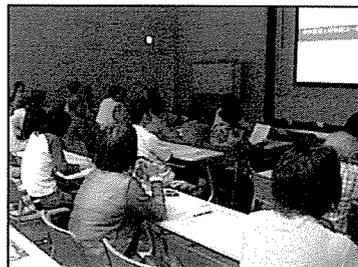
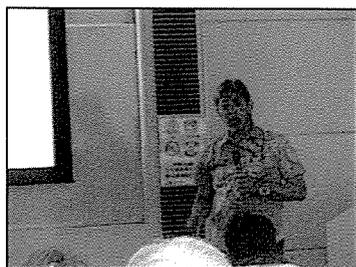
### 第8回 学芸員講座「ウチナーンチュは博物館をいかにして作ってきたかー戦後とともに歩んだ博物館70年のあゆみをふりかえるー」

日時 2016年11月5日(土) 14:00～16:00 参加者 44名

講師 園原 謙(美工)

場所 博物館講座室

- (1) 博物館前史  
(2) 旧博物館時代の博物館活動  
①文化財欠片の収集の時代 ②新館建設(首里当蔵)に伴う収集資料展示公開の時期  
③本格的な博物館活動の時期  
(3) 21世紀の博物館づくりー美術館を加えた大規模博物館へー(おもろまち)



講座では、戦前の沖縄における、教職者による博物館活動の紹介にはじまり、戦後の「沖縄陳列官」「沖縄民政府立恩納博物館」「沖縄民政府立首里博物館」を経ての首里旧館時代のふり返し、来年10周年を迎える新館としての取組などが紹介された。

### 第9回 学芸員講座「サキタリ洞むかしばなし(秋)」

日時 2016年12月3日(土) 14:00～16:00 参加者 100名

講師 藤田 祐樹(人類)

場所 博物館講座室

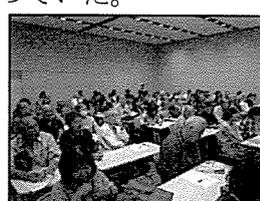
博物館特別企画展の関連催事として、サキタリ洞より発見・発掘された世界最古の釣り針に触れ、それに関連する、沖縄の旧石器人類の生活の様子について、講義が行われた。また、講義終了後には展示解説会が行われ、多くの方々が講師の説明に聞き入っていた。



公演中の藤田学芸員



満員の会場



会場からは、多くの質問が寄せられた



展示解説会の様子

## 第10回 学芸員講座「沖縄の貝器文化と西太平洋の先史・民族文化」

日時 2017年1月7日(土) 14:00~16:00 参加者 78名

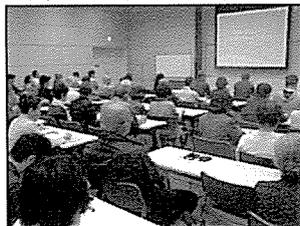
講師 山崎 真治(人類)

場所 博物館講座室

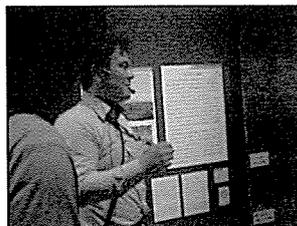
- (1) 沖縄の貝器分化 (2) 西太平洋の先史文化 先ラピタ・ラピタ分化  
(3) 西太平洋の民族文化 メラネシア(クラ交易) (4) まとめ  
(5) 公演後、特別展会場にて、展示解説会が行われた。



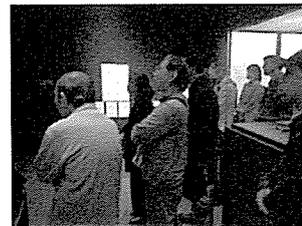
公演中の藤田学芸員



多くの方が来館された



展示解説会の様子



## 第11回 学芸員講座「時空を越えて TSUNAGARU-MAP ～過去から未来への地図の在り方～」

日時 2017年2月4日(土) 14:00~16:00 参加者 60名

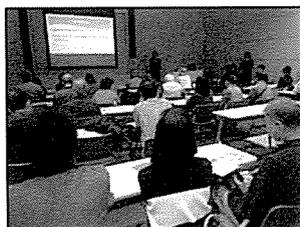
講師 石垣 忍(歴史) 麻生 伸一(沖縄県立芸術大学講師) 奥間 健(コザ高等学校教諭)  
金津 史和(株)ユニバーサルデザイン)

場所 博物館講座室

(石垣) 過去の沖縄～現在までの地図 インターネットを、常設展示資料の詳細、発見場所等を表示するシステムの紹介を行った。

(麻生) 地図アッチャーのシステムの紹介。首里那覇港図屏風絵に描かれた各場所と、現在の地図との関連表示が行える。

(奥間) 「コザ高等学校地域学習プロジェクト」として、TSUNAGARU-MAP を活用しながらの授業作りの紹介及び、高校生2グループによる成果報告が行われた。



- (左) 講演を行う石垣学芸員  
(中) 地図展関連催事に駆けつけて下さった来場者  
(右) 授業の成果報告を行うコザ高生

## 第12回 学芸員講座「琉球王国時代の古地図～「外」からみた琉球を中心に～」

日時 2017年3月4日(土) 14:00~16:00 参加者 67名

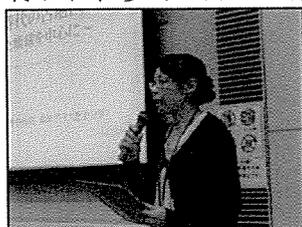
講師 崎原 恭子(歴史)

場所 博物館講座室

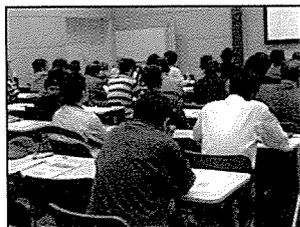
博物館企画展の関連として「外」からのまなざしという視点から、下記の内容にて講演が行われた。

- (1) 中国からのまなざし (2) 朝鮮からのまなざし (3) 日本からのまなざし

(4) 西洋諸国からのまなざし また、講義終了後には企画展『琉球・沖縄の地図展』展示解説会が行われ、多くの方が講師の説明に聞き入っていた。



講演を行う崎原学芸員



学芸員講座に参加した来場者



講座の後には、展示会場にて展示解説が行われた



## 沖繩の民話

— 寄贈テープの保存と活用について —

**博物館学芸員講座**

沖繩各地に語り継がれた民話の数々。沖繩国際大学の遠藤庄治先生らが中心となって1970年代から各地に赴き、地域のお年寄りを訪ねて収集した民話の数は7万6千語にのぼります。それらは、カセットテープに収録され、長い間大切に保管されてきました。一方で、デジタル化も進められ、今回デジタル化された後の一部の民話テープが、沖繩県立博物館・美術館に寄贈されることになりました。

当館ではこの貴重な民話の音声資料を大切に保存するとともに、その活用方法についてもいろいろな計画を立てています。今回の講座では、当館における取り組みの紹介とこれからの計画についてお話しします。

○キーワード：民話、伝承話、民話テープ、しまくとぅば  
ふれあひ体験キット

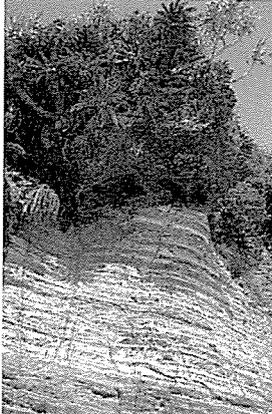
●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館

**博物館学芸員講座**

2016年  
**4/9(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) 入場無料  
一般対象

沖繩県立博物館・美術館  
博物館講座室

大湾 ゆかり (民俗担当)  
80名 (事前申込不要、当日先着)



## 海へ行きます!

### 博物館学芸員と行く ジオツアー

画像：大久保海浜村の真珠層と地球石炭層  
○キーワード：真珠層、地殻変動、琉球石灰岩

海際には、島の原り立ちを知るヒントが沢山あるんですよ!

**博物館学芸員講座**

2016年  
**5/7(土)**  
10時～12時半 (現地集合・解散)  
宜野座村宜野座漁港周辺

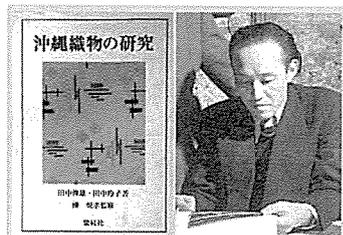
宇佐美 賢 (地学担当学芸員)  
定員：15名 (小3～大人)  
\*但し、小中学生は保護者同伴

申込方法：事前申込制 (電話・来館)  
応募者多数の場合は、抽選後5/2(月)までに当選者のみハガキで連絡。

◎現地集合・解散となります。 ◎小雨決行  
◎参加者には、後日詳細をハガキでお伝えします。

① 小学校3年生以上の健康で体力に自信のある方  
② 沖繩の地形の特徴を体感したい方  
参加費：50円 (1人/保険代)

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館



## 民芸シリーズ2 田中俊雄と “沖繩織物の研究”

○キーワード：民芸、染織、沖繩、織、紡、絞、機織

**博物館学芸員講座**

2016年  
**6/4(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) 入場無料

沖繩県立博物館・美術館  
博物館講座室

與那嶺 一子 (美術工芸担当)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

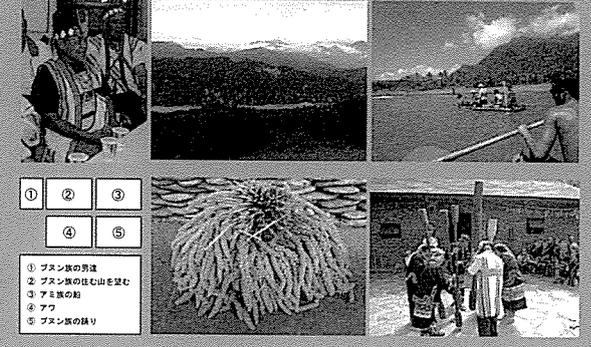
「沖繩織物の研究」(1976年 紫紅社)という研究書があります。それは、1939・1940年と民芸の沖繩調査に同行した田中俊雄 (たなか・としお/1914～1953) が、沖繩の染織を研究分析しまとめたものです。

本の題にもあるように、この本は、今や沖繩織物を研究する者にとって欠かすことのできないバイブルとなっています。

この講座は、それをまとめた田中俊雄と、彼のみた1939・1940年の沖繩、そして、彼の研究の一端を紹介するものです。

願後全てを失った沖繩に、再び織物が花開くことを心に留めながら研究を続けていた田中でしたが、それを見ることなく他界します。田中が込めた沖繩織物へのメッセージを彼の生涯と研究から考えていきます。

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館



## 台湾原住民ブヌン族の骨考古学的調査 — 骨に刻まれた生き様 —

① ブヌン族の男達  
② ブヌン族の住む山を望む  
③ アム族の船  
④ アフ  
⑤ ブヌン族の織り

**博物館学芸員講座**

2016年  
**7/9(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) 入場無料

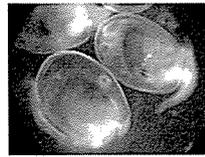
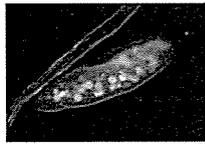
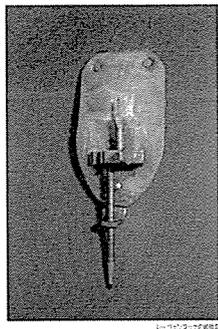
沖繩県立博物館・美術館  
博物館講座室

片桐千亜紀 (考古担当)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

「台湾原住民」は、近世に中国福建省が移民して来る以前から台湾に居住していた先住民の呼称である。これまで、いくつかの台湾原住民の集落を訪ねる機会があり、現地調査を実施した。また、国立台湾大学医学院には、蔡錫圭名教授によって発掘されたブヌン族の骨が多数保管されており、その人骨の研究によって骨に刻まれた彼らの生活実態を知ることができた。その結果について、沖繩先史時代の人骨やスペインが植民地とする以前のフィリピンの人骨の例などを交えながら発表する。

○キーワード：台湾原住民、ブヌン族、骨考古学、人骨、生活痕

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館



## 実験とは何か～ゾウリムシからSTAP細胞まで～

この夏の企画展では、過去～現在のさまざまな生物の実験を展示し、科学において実験・観察が重要であること、科学の発展が実験・観察とともにあることを紹介した。

そもそも実験とは何だろうか。古くはアリストテレスやバヌツールの時代から遠慮と受け継がれてきたものは何なのか。学校等で現在行われている実験は方法を提示し、その通りを行うことで想定されたような結果から考察に導くものが多い。これを抑えて「レシビ実験」「Cookbook chemistry」などという。

科学を学ぶ過程において、このようなレシビ実験は大変効果的で効果的だが、高校生にもなると、まだ、その枠を出ない日本の理科教育は、どこかゆがんでいる。本来の実験の持つ興味を問い直し、皆さんとともに考えたい。

○キーワード：ゾウリムシ、STAP細胞、レシビ実験、実験の失敗

博物館学芸員講座

2016年  
**8/27(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室  
山崎仁也(生物担当)  
80名(事前申込不要、当日先着)

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



## 時空を超えて 柳宗悦と 昭和10年代の沖縄

「琉球島」(撮影者 坂本万七)

左から2人目が坂本万七、3人目が柳宗悦



柳宗悦は4度沖縄を訪れています。昭和13年から15年にかけて、濱田庄司や河井寛次郎、芹沢桂介、田中俊雄らとともに来航し、沖縄各地を調査しました。最も大きな調査は昭和14年の暮れから翌15年にかけて約26名による「琉球観光団」であり、旅行中に坂本万七や土門拳らによる写真撮影も行われています。柳らの調査は、沖縄の工芸のみならず文化全般にわたって行われ、柳の著書「琉球の窟」から沖縄の工芸及び文化の豊かさ、美しさを目の当たりにした驚きと賞賛を読み取ることができます。「歴史は古く人文の跡が豊かに残されている」「驚くべき財源をもつ国」「こんな土地が今なお地上に残されていることを奇蹟の如くに感じました」とし、「琉球よ、榮あれ」という言葉で締めくくっています。彼らが目にした当時の沖縄の姿とは？坂本万七の写真資料と、それらの場所が現在どのように変化し、何が残っているのかなどを紹介いたします。

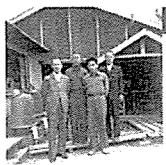
○キーワード：柳宗悦、民芸、工芸、坂本万七

博物館学芸員講座

2016年  
**10/1(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室  
外間一先(美術工芸担当)  
80名(事前申込不要、当日先着)

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



## ウチナンチュは 博物館を いかにつくってきたか

一戦後とともに歩んだ  
博物館70年のあゆみをふりかえる～



「沖縄県立博物館/沖縄県立歴史民俗資料館(石川憲昭)」

博物館学芸員講座

2016年  
**11/5(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室  
園原謙(沖縄県立博物館・美術館  
博物館監事)  
定員80名(事前申込不要、当日先着)

○キーワード  
海軍軍政府 沖縄県政府 琉球政府  
琉球文化財 戦災文化財  
東恩納 首里 おもろまち

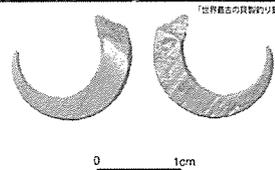


「1945年6月頃に首里城で収集された旧首里城正殿鐘」

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



## サキタリ洞 むかしばなし(秋)



0 1cm

世界最古の釣り針で世間を沸かせるサキタリ洞遺跡。洞窟の隅がりでデマデマと掘り続け、掘りあげた土を熱く洗い、目をしょぼしょぼさせながら細かい動物骨を選び分け、いろいろな人の助けを借りながら分析を進め…。幾年にもわたる地道な努力を続けた結果、沖縄旧石器人の生活はいかに解明されたのか。もう、だいたいニュースになってしまったので今さら悲しむめないが、担当学芸員がかなり主観的にお届けするお気楽極楽な沖縄旧石器暮らし。名付けて「サキタリ洞むかしばなし(秋)」。



「むかしむかしのことじゃった…」と始まる例のアレ(あるいは、アレのパクリ)ですよ。どこまで本気が、聞かばわかる。

○キーワード  
サキタリ洞、旧石器人、動物骨、食べ物、むかしばなし、アニメ

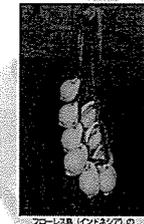
博物館学芸員講座

2016年  
**12/3(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館  
博物館講座室  
藤田 祐樹(人類担当)  
定員80名(事前申込不要、当日先着)

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# 沖縄の貝器文化と西太平洋の先史文化



フーリス島（インドネシア）のタカラガイ貝器群（図65資料）

沖縄先史時代らしい貝器群（写真提供）



**博物館学芸員講座**  
2017年  
**1/7(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

石器や骨角器を多用する日本列島の先史文化とは異なり、沖縄では旧石器時代以来、さまざまな種類の貝器が利用されてきた。こうした貝器を多用する「貝器文化」は、沖縄の南に位置する台湾やフィリピンを経て、メラネシア、ミクロネシアといった大規模なサンゴ礁を擁する西太平洋地域の島々にも広く分布している。こうした「貝器文化」の広がりの背景に、直接的な関連性があるかどうかはわからないが、海に囲まれた島嶼という環境の中で、特色ある文化が育まれていったと考えられる。

本講座では、旧石器時代以降の沖縄の「貝器文化」について紹介するとともに、西太平洋地域の先史文化との比較を通して、沖縄の「貝器文化」の特質について考えてみたい。

○キーワード  
沖縄 西太平洋 旧石器時代 先史時代 貝器文化

●開館時間:午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日:月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# 時空を超えて TSUNAGARU-MAP

～過去から未来への地図あり方～



時空を超えて TSUNAGARU-MAP のスクリーンショット



コザ高校授業実践

**博物館学芸員講座**  
2017年  
**2/4(土)**  
14時～16時  
(開場13時半) **入場無料**

現代の地図の活用という点、インターネットやスマートフォンの地図サイトの利用が頻繁に、いつでもどこでも行われています。

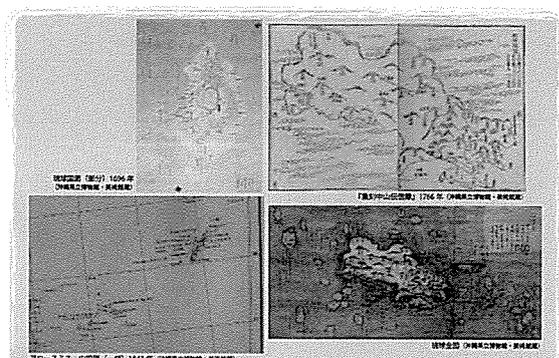
今回の「琉球・沖縄の地図展」では、現代の新たな地図の利用の紹介ということでWeb上に琉球王国時代から大正、昭和、米軍統治時代等の地図を重ねた各時代ごとの地図を制作しました。さらに、常設展示と結びつけて、展示解説やその地図を利用したコザ高校の授業実践の紹介など、過去から未来への地図のあり方を紹介します。

○キーワード  
インターネット、スマートフォン、地図を重ねる、高校の授業での取り組み 首里那覇港回

●開館時間:午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日:月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# 琉球王国時代の古地図

～「外」からみた琉球を中心に～



琉球王国時代（約15～19世紀）には、琉球の内外で琉球を示す様々な地図が製作されました。18世紀末頃の琉球において、現在の地図と比べても遜色のない地図が製作される一方、琉球以外で製作された地図では島のかたちが大きく異なるものも作られました。しかし、これらの地図（古地図）には製作された目的があり、当時の時代背景や状況をとらえる歴史的な情報が詰め込まれています。

2月1日から開催されている「琉球・沖縄の地図展」と連動して、特に琉球王国の「外」で製作された地図を中心に、それらを生み出した時代背景や歴史的な位置づけを紹介し、「外」からみた琉球へのまなざしを探索します。

○キーワード  
琉球王国時代、琉球の歴史と地理、琉球王国と中国・韓国・日本、西太平洋地域の東アジアの歴史と地理「琉球史観（かいつうしよこく）」と「琉球史観」

**博物館学芸員講座**  
2017年  
**3/4(土)**  
14時～16時  
(開場13時30分) **入場無料**

琉球王国時代、琉球の歴史と地理、琉球王国と中国・韓国・日本、西太平洋地域の東アジアの歴史と地理「琉球史観（かいつうしよこく）」と「琉球史観」

●開館時間:午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日:月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

## VI 常設展示解説会

### 1 博物館展示解説会実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

#### (4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

#### (5) 日程

	日 程	分 野	講師名	参加者	ボランティア
1	4月14日（木）	美術工芸	園原謙	15	5
2	5月12日（木）	歴史	石垣忍	9	4
3	6月9日（木）	美術工芸	外間一先	7	4
4	7月14日（木）	民俗	大湾ゆかり	13	7
5	8月11日（木）	地学	宇佐美賢	5	2
6	9月15日（木）	歴史	崎原恭子	20	4
7	10月13日（木）	考古	片桐千亜紀	13	4
8	11月10日（木）	人類	藤田祐樹	11	3
9	12月8日（木）	人類	山崎真治	13	1
10	1月12日（木）	生物	山崎仁也	11	2
11	2月9日（木）	教育普及	大川剛	7	4
12	3月9日（木）	美術工芸	与那嶺一子	5	5
合計人数				129	45

## 2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員が展示解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約35%を占め、その他年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回129人（定員なし、平均参加人数11人）の参加を集めた。

企画展・特別展における展示解説会では、全10回225人（定員なし、平均参加人数23人）の参加者があった。博物館特別展「港川人の時代とその後 琉球弧をめぐる人類史の起源と展開」では全7回123人（定員なし、平均参加人数18人）が参加し、南城市サキタリ洞を始めとした沖縄における近年の調査研究成果等について、展示物と共にわかりやすく解説した。また、博物館企画展「琉球・沖縄の地図展」では、全3回102人（定員なし、平均参加人数34人）が参加し、パネル文だけでは補えない情報や展覧会開催にまつわるエピソードなどについて詳しく解説した。

学芸員による展示解説会 定員なし

平成28年度 博物館企画展・特別展付帯催事 展示解説会

	日 程	展覧会名	講師名	参加者
1	11月20日（日）	博物館特別展 「港川人の時代とその後 琉球弧をめぐる人類史の起源と展開」	山崎真治	19
2				11
3	11月23日（水）			18
4				11
5	12月3日（土）		藤田祐樹	21
6	12月8日（木）		山崎真治	11
7	1月7日（土）			32
8	2月26日（日）	博物館企画展 「琉球・沖縄の地図展」	崎原恭子・石垣忍	43
9	3月4日（土）		崎原恭子	33
10	3月20日（月）		崎原恭子・石垣忍	26
合計				225

## Ⅶ バックヤードツアー

### 1 バックヤードツアー実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

#### (2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館バックヤード

#### (4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定 員：12名（当日先着順）

#### (5) 実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室(書庫)～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的病害虫管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行客を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回107名(定員12名、平均参加人数8名)の参加があった。

(大瀨萌子)

#### (6) 日程

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	4月23日	人類	山崎真治	12	5
2	5月14日	人類	藤田祐樹	12	12
3	6月25日	美術工芸	與那嶺一子	12	12
4	7月23日	歴史	石垣 忍	12	12
5	8月27日	歴史	崎原恭子	12	13
6	9月24日	考古	片桐千亜紀	12	13
7	10月22日	民俗	大湾ゆかり	12	0
8	11月26日	教育普及	大川 剛	12	4
9	12月24日	地学	宇佐美 賢	12	12
10	1月28日	生物	山崎仁也	12	8
11	2月25日	美術工芸	外間一先	12	10
12	3月25日	民俗	大湾ゆかり	12	
合計人数				144	101

## Ⅷ 夏休み！博物館学芸員教室

### 1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項

#### (1) 趣旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

#### (2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通した、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

#### (3) 実施方法

対象：県内の小学生・中学生

実施日：平成28年7月26日（火）から7月29日（金）まで

時間：10:00～16:30 ＊1教室およそ90分程度（教室によって変更あり）

定員：各分野20名程度（事前申込制） ＊教室によって変更あり

参加料：無料 ※材料費は実費・・・講座により異なる

場所：実習室を中心に行う。

#### (4) 受講方法

①各分野の担当学芸員の日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。

②事前申込制 ※応募者多数の場合抽選。

③各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

### 2 実施状況

時間帯	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)
10:00～ 11:30	(人類)藤田祐樹 動物の歯と食べ物を調べよう 参加者 16人	(美工)與那嶺 一子 折り紙で琉服をつくろう! 参加者 15人	(民俗)大湾ゆかり ハブグァーを作ろう! 参加者 15人	(歴史)崎原恭子 オリジナルの家系図をつくろう! 参加者 6組
13:00～ 14:30	(人類)山崎真治 貝器づくり体験 参加者 10人	(地学)宇佐美 賢 砂の中から宝を探せ!! 参加者 17人	(考古)片桐千亜紀 神が宿る石、勾玉を削り出そう! 参加者 18人	(美工)外間一先 漆喰シーサーを作ろう! 参加者 18組
15:00～ 16:30	(歴史)石垣 忍 印じゃなあーい? 参加者 7人	(生物)山崎仁也 レインボーゾウリムシをつくろう! 参加者 20人		

## ☆動物の歯と食べ物を調査せよ！

動物の歯をじっくり観察することから、食べ物による歯の構造の違いに気づき、肉食動物？雑食動物？と参加者は興味を持ってスケッチに取り組んでいました。



## ☆貝器づくりに挑戦

貝器づくりでは、真珠貝を砥石やサンドペーパーで削り、貝のアクセサリーや釣り針、ヤジリなどの道具づくりを行いました。



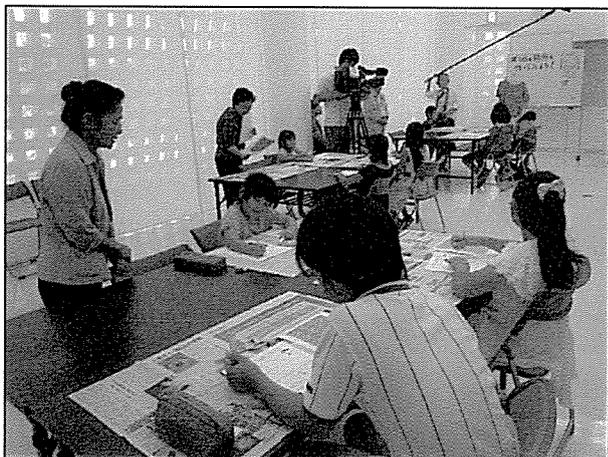
## ☆印じゃな—い？

印じゃな—いでは、普段気に留めることのない、書や絵、文書に押されている印の役割について考え、好きな文字で印作りが行われました。



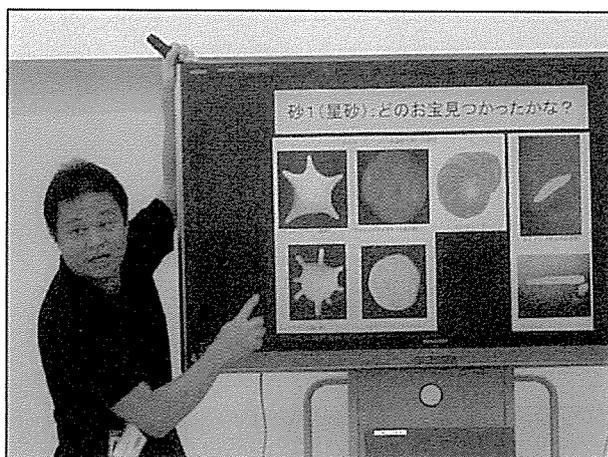
## ☆折り紙で琉服をつくろう！

折り紙を組み合わせて琉服を工作することを通して、昔の沖縄の着物の仕立ての仕方、構造を学ぶことができました。



## ☆砂の中から宝を探せ！

砂の中から宝を探せでは、星砂と呼ばれる砂が実は 有孔虫の遺骸で、海砂には他にも生物遺骸が含まれていることを実体顕微鏡で海砂を観察し発見することができました。



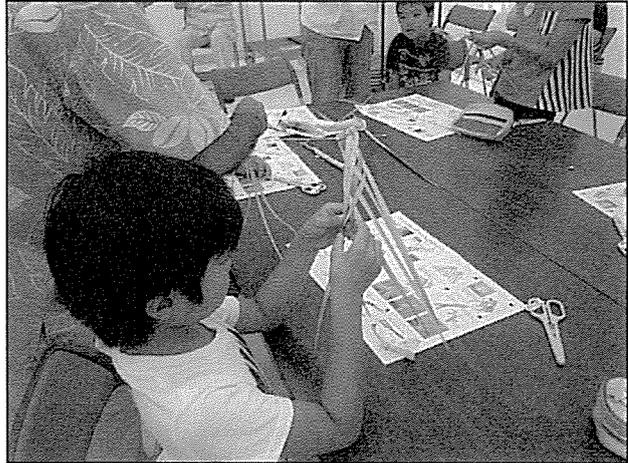
## ☆レインボーゾウリムシを作りだそう！

顕微鏡でのぞく、不思議ワールドでは、顕微鏡の種類と特徴、使い方を学びその後チリメンモンスター、ゾウリムシの観察と、7色に染める実験を行いました。



## ☆ハブグラーを作ってみよう！

ハブグラー作りでは、本物のアダン葉を使ったハブグラー作りが行われました。沖縄の天然素材を使ったおもちゃ作りは、昔の玩具を知る機会となりました。



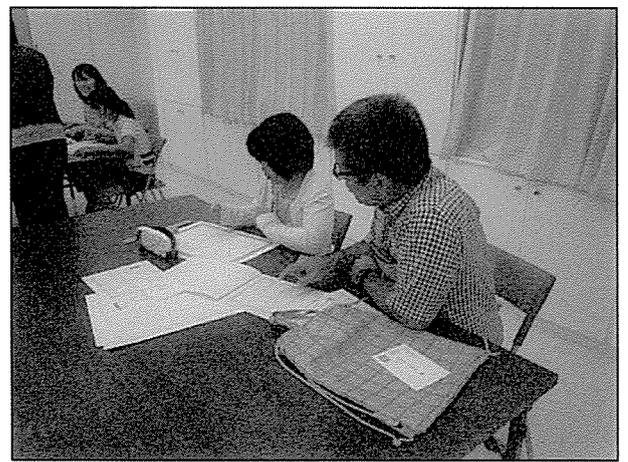
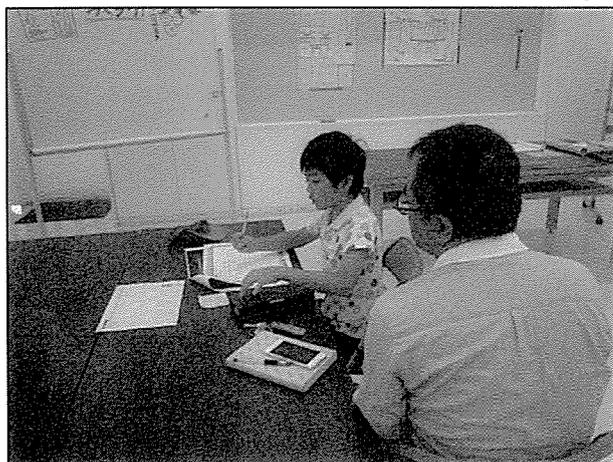
## ☆神が宿る石、勾玉を削り出そう！

国内に最後に残る勾玉を祭祀に使用する文化。それを学びながら、石を削り出して勾玉を作り、その形や美しさに触れることができました。



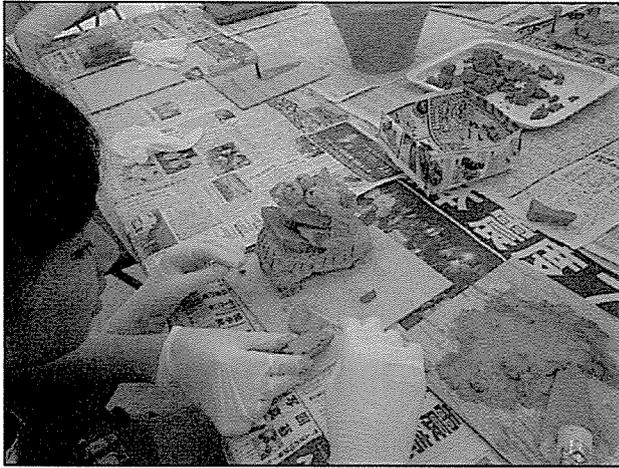
## ☆オリジナルの家系図をつくろう！

オリジナルの家系図づくりでは、身近な家族の広がり調べて、「家系図」を作り自由研究にするヒントを学びました。

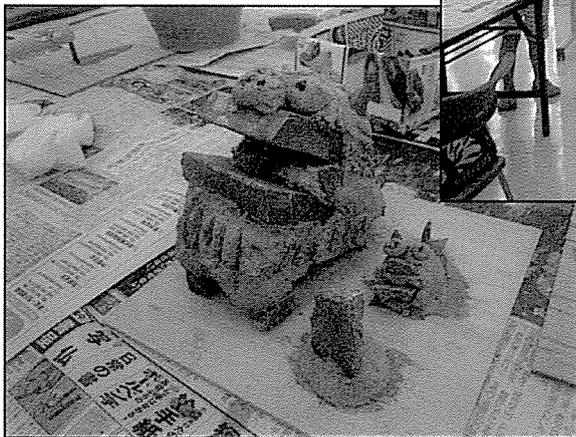


## ☆漆喰シーサーを作ろう！

漆喰シーサー作りでは、博物館に展示されているシーサー見学や漆喰シーサー作りから、魔除けとしてのシーサーについて色々知ることができたようでした。



☆☆☆ 楽しかったよ！学芸員教室！！ ☆☆☆



## Ⅸ ふれあい体験室

### 1 ふれあい体験室の概要

#### (1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

#### (2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

#### (3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

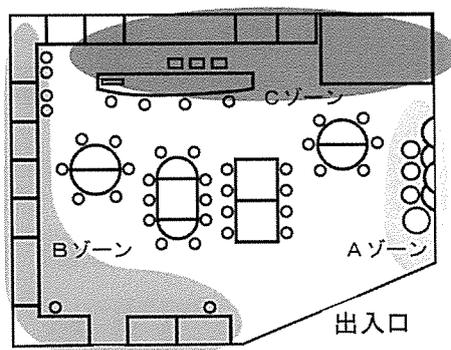
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

#### (4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

見取り図（ゾーニング図）

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ <b>A</b>	<b>【見る・触る】</b> ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ <b>B</b>	<b>【聞く・比べる・聞ける・押す】</b> ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ <b>C</b>	<b>【組み立てる・作る・分類する】</b> ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。



## 2 体験キットの種類

番号	タイトル	分野	小テーマ	中テーマ	大テーマ
1	サインを見のがすな!	自然史	きみはだあれ?	生物界	自然のしくみ・先人の知恵
2	小さな生き物の大きな仕事				
3	耳をすませば				
4	この骨だれの?				
5	サンゴと生きる				
6	いろいろなタネ				
7	いろいろな木と草		自然のすがた		
8	いろいろな石と砂				
9	見える星座・見えない星座				
10	化石 ～生きたあかし～		地史	地下に ねむる歴史のなぞ	
11	港川人研究所				
12	土層と遺物からわかること	考古			
13	石で築く ～石積みの知恵～				
14	ヌチグスイ	民俗	食の知恵	人々のくらし	
15	イノー ～海の食料庫～				
16	御三味				
17	いろいろな道具				
18	島々のコトバ				
19	いろいろな玩具				
20	いろいろな楽器	美術工芸	シマの心		
21	衣からわかること				
22	焼物 ～かたちのわけ～				
23	漆～飾るたのしみ～				
24	印かんってなあに?	歴史	色 ひみつ・ 形のふしぎ		
25	島のかたち				
26	記録のくふう				
27	国々とのおつきあい				

●平成26年度・平成27年度 沖縄県立博物館・美術館 魅力アップ事業  
「ふれあい体験室機能強化事業」制作 体験キット

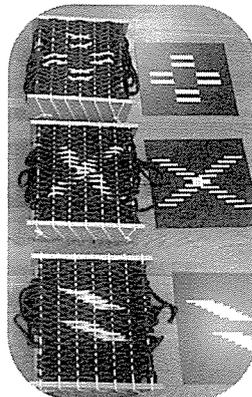
番号	タイトル	分野
28	サンゴとカッチュウソウの深～い仲	自然史
29	コロコロ生態系	
30	岩石観察	
31	化石組み立て体験	
32	絣のしくみ	美術工芸
33	三線のかたち (1)・(2)	
34	仁王像	民俗
35	沖縄の昔話	
36	チュンジー	歴史
37	万国津梁の鐘	
-	琉球玉手箱 歴史文箱	
-	琉球玉手箱 自然史箱	自然史



31 かせまく た たいけん  
化石組み立て体験



32 かすり  
絣のしくみ



34 におう そら  
仁王像



### 3 体験キットの補助ツール

#### (1) 体験のてびき「ふれたいシート」

(平成 22 年度博物館教育力向上支援事業)

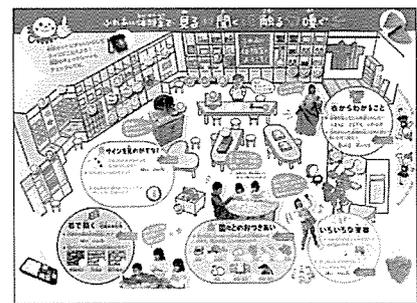
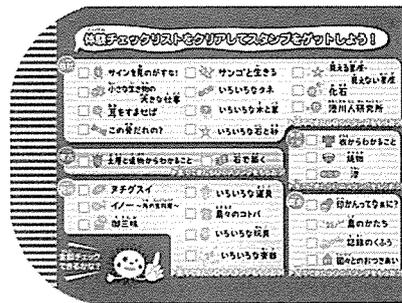
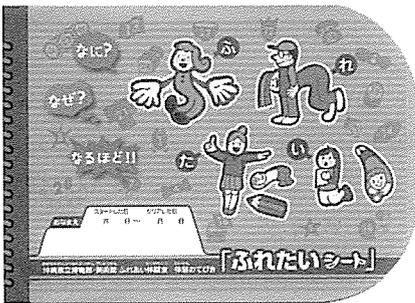
平成 23 年度から活用を始めた「ふれたいシート」は、ふれあい体験室の案内リーフレットでありながらワークシートとしても楽しめるアイテム。シートの内側は室内の鳥瞰図をイラストで描き、体験キットの配置場所を示した配置図と分野別に出題されたワークシートになっている。外側は体験チェックリストを設け、分野毎のチェックを全て埋めるとスタッフがスタンプを押すしくみになっている。また、首から下げられるよう紐通しの穴を開けたり、ミシン目を入れたマスコット「ふれたいスタッフちゃん人形」をつけるなど遊びの要素も取り入れ、より楽しく学べる仕掛けを施した。体験をクリアするまで繰り返し使えるよう、室内に「預け箱」を設置し、今年度は、1,804 人分のワークシートを預かっている。

配布期間：平成 23 年 7 月から部数がなくなり次第終了

配布場所：1 階ふれあい体験室

配布枚数：10,000 部（平成 25 年度増刷 5,000 部）

作 成：宜壽次美智（フリーデザイナー）



#### (2) 多言語体験キット紹介アプリ「沖縄ふれあい体験AR」

(平成 26 年度・平成 27 年度沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業)

近年増加傾向にある外国人観光客への言語と聴覚に対するバリアフリーを目指し、日本語、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、スペイン語の 5 カ国語に対応したアプリを作製した。アプリには、AR (Augmented Reality: 拡張現実) と呼ばれる方法を導入した。アプリをインストールしたスマートフォンやタブレットのカメラを各体験キットのアイコンにかざすと、キットの使い方が表示されるしくみになっている。アプリは Google Play でダウンロードできる。ふれあい体験室では 5 台の貸出用タブレットを用意している。言葉の壁を越えて多くの来館者がキットを楽しめることを期待している。



### (3) 体験キット点字解説シート

(平成26年度・平成27年度沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業)

ふれあい体験室では、ハンズ・オン展示資料を利用して、視覚障がい者も触察を通し、体験を楽しんでいる。ユニバーサルデザイン向上の一環として、平成27年度から全ての体験キットに点字解説シートを追加した。盲学校をはじめ個人の来館者へも点字での案内が可能になり、体験キットの活用幅が広がっている。



## 4 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（指定管理者）とボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤職員1名とアルバイトスタッフ4～6名の「ふれあいスタッフ」を配置し、来館者への体験キットサポート、室内の安全管理や体験キットの整理・修繕などを担っている。が活動している。ふれあい体験室のアットホームな「ふれあい空間づくり」には、博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアの支援が大きな力となっている。

## 5 利用者状況

今年度の来場者は、53,018人（1日平均177人／3月26日現在）。県民をはじめ、県外・国外から訪れる観光客など親子連れの利用者が大半を占めている。外国人観光客の中には、近年増加傾向にある中華系観光客や10月に県内で開催された「第6回世界のウチナーンチュ大会」の参加者が多く来場した。

体験キットは、小学3年生程度から理解が深まる内容となっているが、家族やスタッフとの関わりの中で幼少の子どもから楽しめる操作性を備え、子ども達の成長に合わせて活用されている。毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ」【6-(1)】は、体験キットの学びを深める機会として3ヶ月ごとにテーマとなる体験キットを選定し、プログラムを実施している。観光客が多い当館では、当日受付で短時間参加型のプログラムを意識しており、見学時間の限られた来館者も気軽に参加している様子が窺える。また、新たなプログラムを楽しみにするリピーターも定着している。ワークショップで仕上げた製作物を自宅に持ち帰ることで、博物館での体験を思い出して記憶に残すツールとなること、リピーターに対して飽きさせない環境づくりや次の来館を促すきっかけへと繋がることを目指している。

5月からは平成26年度・平成27年度の2年間に取り組んだ「ふれあい体験室機能強化事業」によって制作した新規体験キット12件（2体験キットの種類 No.28-37、自然史・歴史玉手箱）の運用を開始した。新たな体験を心待ちにしていたリピーターの喜ぶ姿も見られ、外部への貸し出しやアウトリーチ活動も始めている【XI-4】。同事業によって、体験キットの展示エリアを体験室前のエントランスホールまで広げ、外観から認知しやすい施設サインを設置したことで、以前よりも来館者を室内へ誘導しやすくなっている。

12月には、利用者が博物館で経験した学びについて、来館後、博物館での体験が日常の暮らしの中にもどのように残されていたのかを聞き取る追跡調査を実施した。その結果「普段、自宅にある三線や着物に関心を寄せていなかった子が、博物館での体験後、自ら取り出して触れるきっかけになった」、「島コトバの体験キットに登場するお婆ちゃんのキャラクターを真似てウチナーグチで家族と会話をしようとしていた」などの学習効果が検証できた。また、次に来館する際、どのような体験キットやプログラムを求めているのかを伺ったところ、「自分で知ることの楽しさ」、「拾ってきた自然物などの分類方法や調べ方を知りたい」、「博物館・美術館という場所で作品や体験の成果を発表したい」という意見を聞くことができ「体験キットNo.15 イノー」の貝殻の展示を改良した。【6-(4)】今後もふれあい体験室では、来館者の体験に寄り添い、プログラムの充実・運営の向上を目指したい。

## 6 ふれあい体験室の取組み

### (1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットの充実・発展を目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布し、カードを集める楽しさを取り入れながら学びを深めてもらった。(主催：一般財団法人 沖縄美ら島財団)

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール

講 師：ふれあい体験室スタッフ1名

(一般財団法人 沖縄美ら島財団：前川貴子、平良尚人、比屋定智子、金城絵舞、嶺井良子、小柳果野子)

対 象：小さなお子さん～大人(5才以下、保護者同伴)

参加者数：1,149人／一日平均23人



#### ① ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マーニー(クロツグ)やアダンの葉でつくった昔のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープで作製した。

日 時：4月～6月の毎週土曜日

1回目 10:00「カジマヤー」

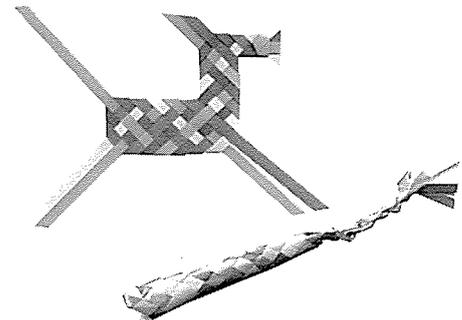
2回目 10:30「馬グワー」

3回目 11:00「星コロ」

4回目 11:30「ハブグワー」

参加費：100円

参加者数：396人(開催日数13日／一日平均30人／各日定員40人)



#### ② ふれたい博士の「土器文様調べ」

内 容：体験キットNo.12「遺物からわかること」から、土色の紙粘土を使って土器に文様をつけた方法を考え、文様から読み取れる土器の年代を調査しながら、「土器のカケラ風チャーム」を作製した。

日 時：7月～9月の毎週土曜日 \*9/3(土)休館

1回目 10:00／2回目 10:30

3回目 11:00／4回目 11:30

参加費：150円

参加者数：228人(開催日数12日／一日平均19人／各日定員40人)

指導協力：片桐千亜紀(考古担当)／山崎真治(人類担当)／崎原恒寿(恩納村教育委員会)



③ ふれたい博士の「星空影絵」

内 容：体験キットNo.9「見える星座・見えない星座」から、画用紙とカラーセロファン紙で星座の影絵シートを作成した。暗闇の中で星座の影絵をして星座の形、位置や動き方を学んだ。

日 時：10月～12月の毎週土曜日  
1回目 10:00 / 2回目 10:30  
3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：100円

参加者数：198人（開催日数13日／一日平均15人／各日定員40人）

指導協力：宇佐美賢（地学担当）



④ ふれたい博士の「びんがたデザイン」

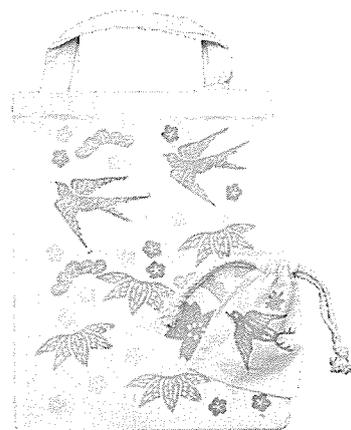
内 容：体験キットNo.21「衣からわかること」から、紅型模様のスタンプでオリジナルの手さげ袋を作製し、色々な紅型の図柄を調べた。

日 時：1月～3月の毎週土曜日  
1回目 10:00 / 2回目 10:30  
3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：手さげ袋300円 / 巾着200円

参加者数：327人（開催日数12日／一日平均27人／各日定員40人）

指導協力：與那嶺一子（美術工芸担当）



(2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

① 琉球大学留学生クラスのみなさんとハブグワーツづくり

内 容：団体見学に合わせたワークショップの開催申込を受け、アダン葉細工の「ハブグワーツ」をカラフルなソフトテープで作製した。

日 時：6月1日（水）13:30～15:00

場 所：博物館実習室

講 師：前川貴子（沖縄美ら島財団）  
博物館ボランティア10人

対 象：琉球大学留学生クラス沖縄事情の学生

参加費：100円 参加者数：57人



② 天体望遠鏡で月・惑星・星を見てみよう！

内 容：10月から12月のふれあい体験室ワークショップ「ふれたい博士の星空影絵」に関連し、天体観測会を開催した。

日 時：10月8日（土）19:00～20:00  
11月5日（土）18:00～19:00  
12月3日（土）17:30～18:30

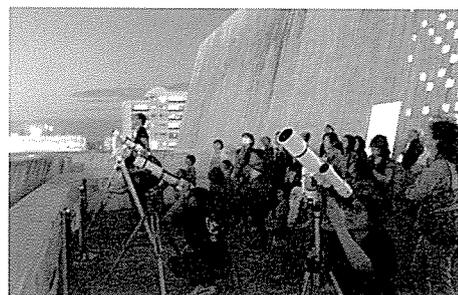
場 所：当館屋上（3階講堂側）

講 師：宇佐美賢（地学担当）  
学生ボランティア12人

（沖縄国際大学、名桜大学、西原高等学校）

対 象：小さなお子さん～大人（小学生以下、保護者同伴）

参加費：無料 参加者数：202人



毎週 土曜日

2016年4・5・6月は  
ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

いろいろな玩具 から、マニー（クロツグ）やアタンの扇でつくった音のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープでつくります。ものづくりの知恵や工夫が込められた、おもちゃづくりに挑戦してみよう！

カジマヤー ①10:00～  
星グラー ②10:30～  
星ココロ ③11:00～  
ハブグラー ④11:30～

日にち: 4/2・9・16・23・30  
5/7・14・21・28  
6/4・11・18・25

時間: 1回目 10:00 カジマヤー  
2回目 10:30 星グラー  
3回目 11:00 星ココロ  
4回目 11:30 ハブグラー

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階ふれあい体験室前

受付: 当日先着 40人 (各回10人)

対象: 5さい～大人

参加費: 各回 100円

TEL.098-941-8200

ふれあい体験室ワークショップ

毎週 土曜日 2016年7・8・9月

ふれたい博士の  
土器と遺物からわかること  
「土器文様しらべ」

土器は、土をこねたあと、器の形にして焼いたものだ。おもに、数々の道具として使っていたんだ。ほかに、食糧を入れたり貯めたりするものもあるよ。土器には、時代によっていろいろな文様があるんだ。卒業でおぼされた縄文時代の土器にはどんな文様があるかな？ どうやって文様をつけていたのかな？ 土色の粘土土を使って土器に文様をつけた方法を考え、文様から読み取れる土器の年代を測定しながら、「土器のカラフルなチャーム」をつくらせて、ペンダントや壁掛けにしよう。

日にち: 7/2・9・16・23・30  
8/6・13・20・27  
9/10・17・24

時間: ①10:00/②10:30  
③11:00/④11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)  
\*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん～大人  
\*5才以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回150円

1回1つ、袋まで10センチ×約7センチ、巾着

TEL.098-941-8200

ふれあい体験室ワークショップ

毎週 土曜日 2016年10・11・12月

ふれたい博士の  
ほしぞら  
「星空影絵」

天体望遠鏡で  
月・惑星・星を見てみよう！  
講師: 宇佐美 賢 (地学博士 宇佐美 賢)  
11/5 (土) 18:00～  
12/3 (土) 17:30～  
場所: 沖縄県立博物館・美術館  
定員: 先着40人  
(小学生以下、大人1名)  
受付: 開催日の1週間前より電話  
にて事前申込。  
定員に達し次第受付終了。  
TEL: 098-941-8200  
参加無料 両者中止

見える星座・見えない星座

夜空に輝く星が動いて見えるのはなぜだろう？  
みんなの誕生日の星座は、いつの夜空で観察できるかな？  
星座の位置と動き方を知り、星座の影絵シートを作って、  
暗闇に星空を映しだそう！

日にち: 10/1・8・15・22・29  
11/5・12・19・26  
12/3・10・17・24

時間: ①10:00/②10:30  
③11:00/④11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)  
\*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん～大人  
\*小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回100円

1回1つ、大きさ: B5サイズ

ふれあい体験室ワークショップ

毎週 土曜日 2017年1・2・3月

ふれたい博士の  
衣からわかること  
「びんがたデザイン」

紅型とは、沖縄に昔から伝わる布に模様を染める方法のことだよ。紅型模様のスタンプでオリジナル手さげ袋をつくらせて、色々な紅型の図柄を調べよう！

日にち: 1/7・14・21・28  
2/4・11・18・25  
3/4・11・18・25

時間: ①10:00/②10:30  
③11:00/④11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)  
\*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん～大人  
\*5才以下、大人といっしょに参加

参加費: 手さげ 300円  
巾着 200円

手さげ袋  
約 25x高さ 31センチ  
巾着  
約 幅 10x高さ 13センチ

### (3) 博物館特別展「港川人の時代とその後」展 関連展示

平成 28 年度博物館特別展に関連し、古代の人々が使った貝の道具（再現品）を室内に展示した。アクセサリや釣り針のハンズ・オン資料に触れながら、当時の人の美意識、暮らしの様子や加工方法などを想像し、古代人の営みについて対話を交えて体験する来館者の様子が見られた。

展示期間：2016 年 12 月 7 日（水）～2017 年 1 月 15 日（日）

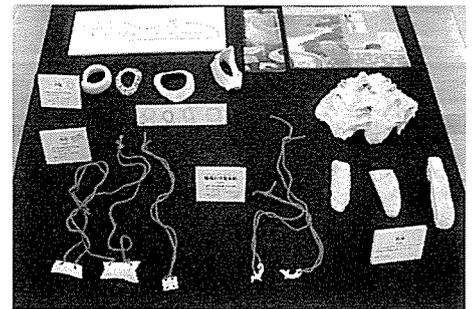
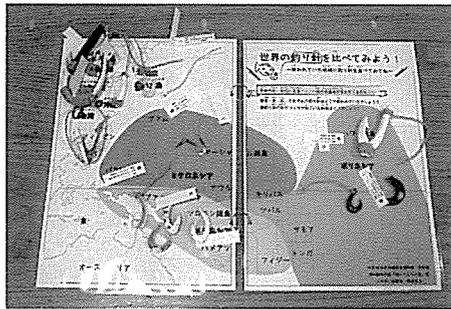
監 修：山崎真治（人類担当）

#### ① 「世界の釣り針を比べてみよう！」

内 容：世界の釣り針と、展覧会の目玉となるサキタリ洞（南城市）で発見された「世界最古の釣り針」（再現品）を地図上に並べ、素材・形・年代を比較しながら、南洋諸島～沖縄～アジアの国々における文化の共通点を探った。

#### ② 「古代のひとたちが身につけていた貝のアクセサリをつけてみよう！」

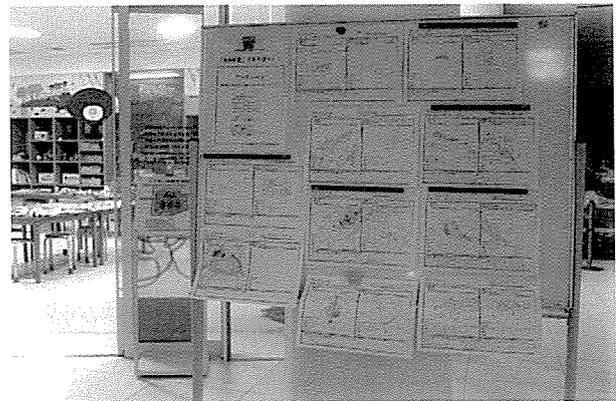
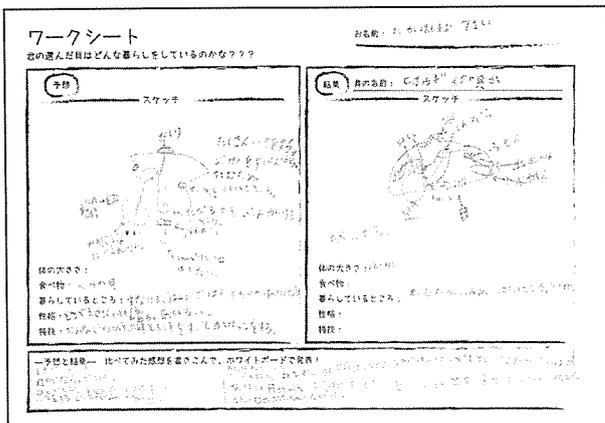
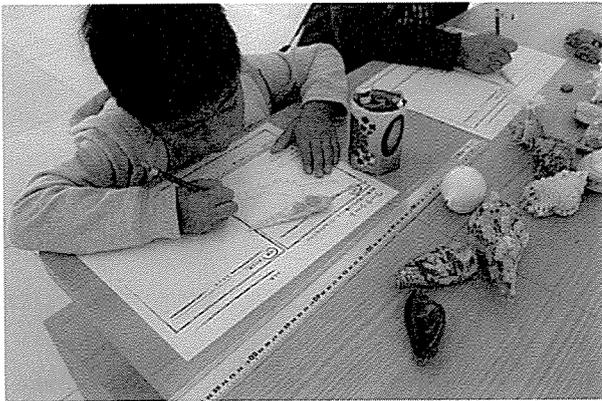
内 容：沖縄の出土品とも共通点の多い、鹿児島県南種子町 広田遺跡から発見された古代の貝のアクセサリ（再現品／広田遺跡ミュージアム所蔵）を身に付けて当時の人々の営みについて考えた。



### (4) 「貝体新書」であそぼう

体験キットNo.15「イノー～海の食料庫～」の実物に触れる資料として展示していた貝殻の展示方法を改良した。これまでは食用の海の生物を探る体験キットの一部として、来館者自身が常設展示室や図鑑で貝を調べられるように、貝殻の種別、名前や生息地などの情報を表示せずに展示を行ってきた。しかし、ふれあい体験室利用者がどのような体験キットやプログラムを求めているのかを知るために実施したアンケートの声から、貝の展示方法にいくつかの改善点が見えてきた。来館者が体験室に求めていることは、収集物の分類やまとめ方を学ぶためのツール、学んだことを発表する場所の必要性、また、自ら探求することに面白さを感じている様子が窺えた。そこで、貝を単に調べるだけではなく、観察を通して考えを巡らせながら学びが深まるプログラム「貝体新書」の方法を取り入れた展示の改善を試みた。貝の体のつくりについて他者との対話を交え、予想を立てて考察しながら調べるための、新たなツールとして「推理・観察・討論・確かめ」ができるワークシートと、分類の仕方をフローチャートから調べるシートを作成した。ワークシートを実践した来館者からは、「巻貝の渦巻きを利用してドリルのように砂の中に身を隠しごはんを待つんびり屋の貝」、「息をたくさん吸って吐き出す力で泳ぐ貝」などのユニークな推理も挙がった。まとめとして、予想と貝を調べた結果を比較し、新たな発見を探った。完成したワークシートを発表ボードに掲示することで、他者の発表から様々な視点に目を向けて、さらに考えを巡らせている来館者の姿も見られた。今後は、より、討論が活発になるように、複数の参加者を集めたワークショップ形式でも実践していきたい。

監 修：山崎仁也（生物担当）



(前川貴子)

## X ボランティア養成事業

### 1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日

館長決済

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第 1 号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿(第 2 様式)へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証(第 3 号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。



・登録証交付式

平成28年10月21日（金）

7 養成講座の日時・場所

- ・A博物館ボランティア：毎週水曜日、金曜日 14:00～16:00 ※開講式5月11日（水）
- ・Bふれあい体験室専属ボランティア：土曜日 9:30～12:00 ※開講式5月14日（金）

8 博物館ボランティア養成講座〈日程表〉

(1) Aボランティア養成講座

A ボ ラ ン テ ィ ア 養 成 講 座	回数	日時・場所	内 容	時 間	担 当
	1	5月11日（水） （博講室）		開講式	14:00～14:45
博物館活動について				15:00～15:30	博物館班長：園原 謙
IPMについて				15:30～16:00	IPM担当：大湾ゆかり
2	5月13日（金） （博講室）		博物館ボランティアについて	14:00～15:00	教育普及担当：大川 剛
3	5月20日（金） （博講室）		自然史／人類／地学	14:00～14:40	生物担当：山崎仁也
				14:40～15:20	人類担当：藤田祐樹
				15:20～16:00	地学担当：宇佐美賢
4	5月27日（金） （博講室）		考古／歴史	14:00～14:50	考古担当：片桐千亜紀
				15:00～15:50	歴史担当：石垣・崎原
5	6月1日（水） （博講室）		民俗／美術工芸	14:00～14:50	民俗担当：大湾ゆかり
				15:00～15:50	美工担当：與那嶺・外間
6	6月8日（水） （博講室）		ボランティア実習	14:00～14:50	教育普及担当：大川 剛
				15:00～15:50	（渡部）
7	6月24日（金） （博講室）		ボランティア実習 養成講座修了証交付式	14:00～14:50	教育普及担当 大川・立松・渡部
				15:00～15:50	教育普及担当：大川

(2) Bふれあい体験室専属ボランティア講座

B ふ れ あ い 体 験 室 専 属 ボ ラ ン テ ィ ア 養 成 講 座	回数	日時・場所	内 容	時 間	形 態・担 当
	1	5月14日（土） （実習室）		開講式／博物館活動について 博物館ボランティアについて IPMについて	9:00～10:00
10:00～11:30					
11:30～12:00					
2	5月21日（土） （実習室）		博物館ボランティア実習① ふれあい体験室について 体験キットについて 常設展示室との関連について	① 9:00～12:00	◇実習 ○教育普及担当
3	6月18日（土） （実習室）		ボランティア実習② ふれあい体験室での来館者を 想定した実施研修 意見交換・感想など 閉講式・登録証交付式	② 9:00～11:30	◇実習 ○教育普及担当
				11:30～12:00	

平成28年度 第7期 博物館ボランティア養成講座A 開講式及び説明会（実施要項）

I 養成講座開講式・説明会

1 趣旨	ボランティア募集に応募した参加者に、博物館のボランティア活動の趣旨や今後の日程などを含めた確認事項等を説明し、周知徹底を図る。		
2 場所	沖縄県立博物館・美術館 講座室		
3 日時	平成27年5月11日(水) 14:00~14:45		
4 開講式次第	司会 大川 剛		
(1)館長挨拶	沖縄県立博物館・美術館 館長	田名 真之	(5)
(2)職員紹介	沖縄県立博物館・美術館 博物館班 班長	園原 謙	(10)
	沖縄美ら島財団	統括 大城 慧	(10)
(3)終わりのことば	司 会		
5 説明会			
(1)日程確認等	教育普及担当	大川 剛	(5)
(2)講座中の諸注意	//	//	(10)
(3)質疑	//	//	(5)

II ボランティア登録までの流れ

- 1 募集・・・・・・・・・・・・・・・・平成28年4月末
- 2 養成講座・・・・・・・・・・・・・・・・平成28年5月11日~6月24日(計7回)
- 3 養成講座修了証交付(仮登録)・・・平成28年6月24日
- 4 正式登録(専門講座受講者)・・・・9/16~10/21 専門講座終了後、申請書提出→正式登録

III 養成講座日程表

5月11日(水) (博講室)	開講式(45)	14:00~14:45	教育普及担当:大川 剛
	博物館活動について(30)	14:55~15:25	博物館班長 :園原 謙
	IPMについて(30)	15:35~16:00	IPM担当 :大湾ゆかり
5月13日(金) (博講室)	博物館ボランティアについて(60)	14:00~15:00	教育普及担当:大川 剛
	自然史(50)	15:10~16:00	生物担当:山崎仁也
5月20日(金) (博講室)	人類(40)/地学(40)	14:00~14:40	人類担当:藤田祐樹
		14:50~15:30	地学担当:宇佐美賢
5月27日(金) (博講室)	考古(50)/歴史(50)	14:00~14:50	考古担当:片桐千亜紀
		15:00~15:50	歴史担当:石垣・崎原
6月1日(水) (博講室)	民俗(50)/美術工芸(50)	14:00~14:50	民俗担当:大湾ゆかり
		15:00~15:50	美工担当:與那嶺・外間
6月8日(水) (博講室)	ボランティア実習(50)(50)	14:00~14:50	教育普及担当:大川 剛
		15:00~15:50	(渡部)
6月24日(金) (博講室)	ボランティア実習(50) 養成講座修了証交付式(50)	14:00~14:50	教育普及担当 大川・立松・渡部
		15:00~15:50	教育普及担当:大川 剛

- ※博物館への出入りの際は、名札を提示して下さい。
- ※台風時の講座については、バスの運行があれば実施します。
- ※飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。(ガムを含む)



平成28年度 博物館ボランティア専門講座、総合展示部門解説ガイド養成講座実施計画（案）

H28年年度 博物館班教育委普及

1 目的

- (1) 本講座は、博物館の第7期ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点しながら、ふれあい体験室の体験キットや「博物館学習ノート(ワークシート)」の作成意図を理解し、学校団体対応におけるボランティア活動を円滑に行えるようにする。
- (2) 来館者へのサービス向上やニーズに対応するため、一般来館者（修学旅行生含む）向けのボランティア展示解説ガイドを実施できるようにする。

2 対象 沖縄県立博物館・美術館 博物館第7期ボランティア研修生

3 期日・時間

平成28年9月16日(金)～10月21日(金)  
14:00～16:00 (2時間)

4 場所 博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

5 内容

展示室、ふれあい体験室、実習室等の三ヶ所でそれぞれの学芸員が解説する。  
受講生は35分単位で、まとまって移動する。

○ **展示室**：ボランティアが学校団体の支援に入った時を想定し**展示室の見どころ**を紹介する。

\*「博物館学習ノート(ワークシート)」「ガイドマニュアル」を活用

○ **ふれあい体験室**：体験キットの解説を行う。\*体験キットと展示室との関連

6 日程表

回数	期日	分野・内容 <各35分>		
		A [展示室]	B [ふれあい体験室]	C [実習室]
◎タイムスケジュール		14:00～14:35(35分)	14:35～15:10(35分)	10分 15:20～15:55(35分)
1	9月16日(金)	考古－片桐	考古－片桐	トイ レ 休 教育普及(学校団体受入①) 教育普及(学校団体受入②) 教育普及(民具体験C) 教育普及(民具体験B)*美ら島 教育普及(スタッフ業務)*美ら島 *車両登録についての説明等 <b>登録証交付式～引き続き ボランティア全体会 (新旧顔合せ)</b> 15:20～16:30
2	9月21日(水)	歴史－石垣/崎原	歴史－石垣/崎原	
3	9月30日(金)	美工－與那嶺/外間	美工－與那嶺/外間	
4	10月5日(水)	生物－山崎(仁)	生物－山崎(仁)	
5	10月14日(金)	地学/化石－宇佐美	地学/化石－宇佐美	
6	10月19日(水)	人類－藤田/山崎(真)	人類－藤田/山崎(真)	
7	10月21日(金)	民俗－大湾	民俗－大湾	

7 総合展示部門 解説ガイド養成講座

日程表 開催時間14:00～16:00

1	10月28日(金)	開講式、ガイド心得、実習①
2	11月2日(水)	実習②
3	11月9日(水)	実習③
4	11月11日(金)	実習④
5	11月16日(水)	実習⑤ 閉講式、ガイド証交付

☆研修生への連絡事項

- ※ 『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。
- ※ 『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。
- ※ 台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。
- ※ 飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)
- ※ 専門講座の補講は、設定しません。一欠席者はレポートを提出します。

## 2 平成28年度 博物館ボランティア各種講座一覧

### (1) 平成28年度 第7期博物館ボランティア

- ①募集・・・・・・・・・・平成28年4月末
- ②養成講座・・・・・・・・・・平成28年5月11日～6月24日（計7回）
- ③養成講座修了証交付（仮登録）・・・平成28年6月24日
- ④正式登録（専門講座受講者）・・・9/16～10/21 専門講座終了後、申請書提出→正式登録
- ⑤講座の日程表

回数	期日	分野・内容	時間	担当
1	5月11日(水) (博講室)	開講式	14:00～14:45	教育普及担当：大川 剛
		博物館活動について	14:55～15:25	博物館班長：園原 謙
		IPMについて	15:35～16:00	IPM担当：大湾ゆかり
2	5月13日(金) (博講室)	博物館ボランティアについて	14:00～15:00	教育普及担当：大川 剛
		自然史	15:10～16:00	生物担当：山崎仁也
3	5月20日(金) (博講室)	人類/地学	14:00～14:40	人類担当：藤田祐樹
			14:50～15:30	地学担当：宇佐美賢
4	5月27日(金) (博講室)	考古/歴史	14:00～14:50	考古担当：片桐千亜紀
			15:00～15:50	歴史担当：石垣・崎原
5	6月1日(水) (博講室)	民俗/美術工芸	14:00～14:50	民俗担当：大湾ゆかり
			15:00～15:50	美工担当：與那嶺・外間
6	6月8日(水) (博講室)	ボランティア実習	14:00～14:50	教育普及担当：大川 剛
			15:00～15:50	(渡部)
7	6月24日(金) (博講室)	ボランティア実習 養成講座修了証交付式	14:00～14:50	教育普及担当： 大川・立松・渡部
			15:00～15:50	教育普及担当：大川 剛

### (2) 博物館ボランティア専門講座

- ①期日：平成28年9月16日(金)～10月21日(金) 14:00～16:00(2時間)
- ②博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室
- ③内容展示室、ふれあい体験室、実習室等の三ヶ所でそれぞれの学芸員が解説する。受講生は35分単位で、まとめて移動する。
- ④展示室：ボランティアが学校団体の支援に入った時を想定し展示室の見どころを紹介する。
- ⑤ふれあい体験室：体験キットの解説を行う。\*体験キットと展示室との関連
- ⑥講座の日程表

回数	期日	分野・時間			
		分野	A 展示室	B ふれあい体験室	C 実習室
1	9月16日(金)	考古	14:00 ～ 14:35 (35分)	14:35 ～ 15:10 (35分)	15:20 ～ 15:55 (35分)
2	9月21日(水)	歴史			
3	9月30日(金)	美術工芸			
4	10月5日(水)	生物			
5	10月14日(金)	地学			
6	10月19日(水)	人類			
7	10月21日(金)	民族	14:00 ～ 14:35 (35分)	14:35 ～ 15:10 (35分)	登録証交付式 ボランティア全体会 (新旧顔合せ) 15:20～ 16:30

(3) 総合展示部門 解説ガイド養成講座について (各位任意での受講となります)

①「第3回 博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座」 日程表1

ア) 期日:平成28年9月16日(金)~10月21日(金) 14:00~14:35

イ) 博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

ウ) 講座の日程表

回	開催日・場所	内容	担当者	時間
1	9月16日(金)	考古分野の展示解説(常設展示室)	片桐	14:00~14:35
2	9月21日(水)	歴史分野の展示解説(常設展示室)	崎原・石垣	14:00~14:35
3	9月30日(金)	美術工芸分野の展示解説(常設展示室)	外間・與那嶺	14:00~14:35
4	10月5日(水)	生物分野の展示解説(常設展示室)	山崎仁也	14:00~14:35
5	10月14日(金)	地学分野の展示解説(常設展示室)	宇佐美	14:00~14:35
6	10月19日(水)	人類分野の展示解説(常設展示室)	藤田・山崎真治	14:00~14:35
7	10月21日(金)	民俗分野の展示解説(常設展示室)	大湾	14:00~14:35

②「第3回 博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座」 日程表2

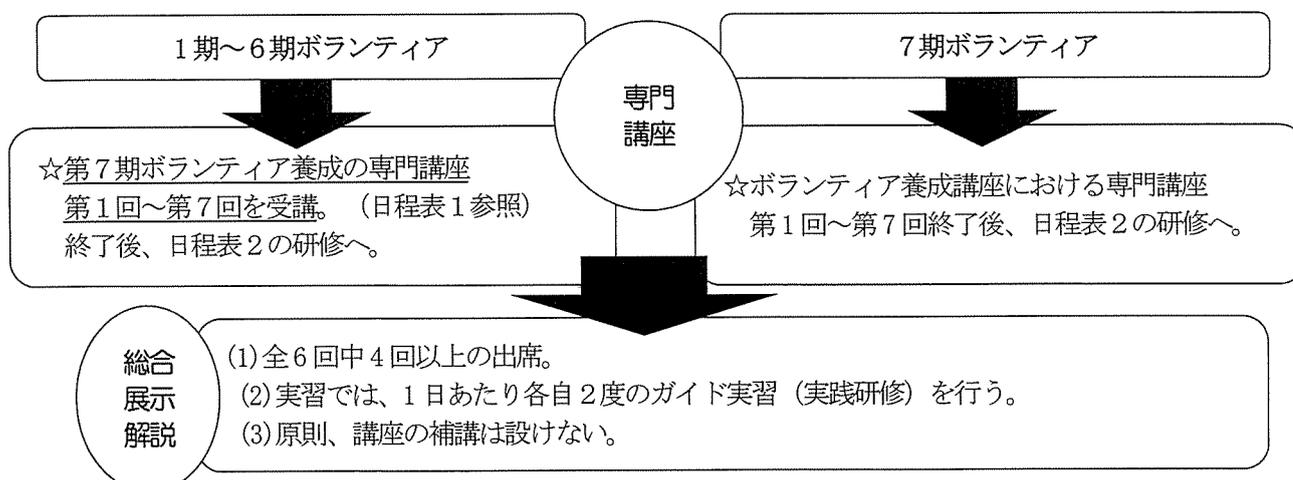
ア) 期日:平成28年10月28日(金)~11月16日(水) 14:00~16:00(2時間)

イ) 博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

ウ) 講座の日程表

回	開催日・場所	時間	内容	担当者				
1	10月28日(金)	14:00~14:10	開講式	大川、立松				
		14:10~14:30	ガイド心得 <b>必ず参加ください</b>					
		14:30~15:00	総合展示室について					
		15:10~16:00	実習Ⅰ 先輩ボランティアに学ぶ					
2	11月2日(水)	14:00~14:50	実習Ⅱ ※2つのグループに分かれて行います。 グループ1(50分程度) 分野①→②→③(後半④⑤へ) グループ2(50分程度) 分野④→⑤(後半①②③へ)	大川、立松				
		15:00~16:00			※グループ1・2 2部構成			
3	11月9日(水)	14:00~14:50		※11/2・9・11・16 開催 この3回中2回以上参加をお願いします ※受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論(10分程度)	この2、3、4の日程から 選択して、一回以上参加してください			
		15:00~15:50				(前半)		
4	11月11日(金)	15:00~15:50				※11/2・9・11・16 開催 この3回中2回以上参加をお願いします ※受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論(10分程度)	この2、3、4の日程から 選択して、一回以上参加してください	
		14:00~14:50						(後半)
5	11月16日(水)	14:00~14:50	閉講式 ガイド証交付式 <b>必ず参加ください</b>					大川、立松
6	11月16日(水)	15:00~16:00						

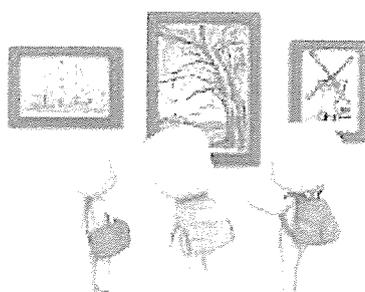
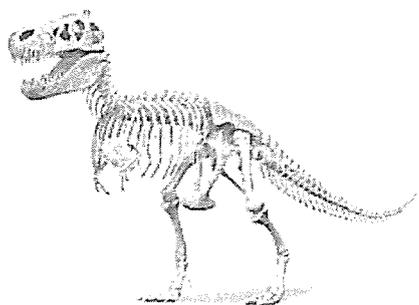
③講座修了までの流れ



平成28年度（2016年度版）  
博物館ボランティアのてびき

ボランティア活動テーマ

**来館者がよろこぶ博物館に！**



沖縄県立博物館・美術館  
博物館ボランティア

## 1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

## 2 活動の方針

- (1) 生涯学習・
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

## 3 ボランティアの活動内容

### (1) ボランティアの種類

◇博物館ボランティア      ◆ふれあい体験室専属ボランティア

### (2) 活動の種類

◇博物館ボランティア

- ・展示解説ガイド    ・体験学習サポート    ・資料整理活動    ・その他
- ・総合展示部門解説ガイドボランティア

◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室支援 ⇒ 土・日・祝日における活動

### (3) 活動の内容

#### ①展示解説ガイド

- ア 学校団体向け常設展示解説補助（主に学習プログラム対応）  
総合展示部門・各部門展示解説補助
- イ 総合展示部門解説ガイドボランティア（学校団体/一般来館者）  
「総合展示部門」における展示解説

#### ②体験学習サポート

- ア 学校団体対応  
誘導、民具体験学習の支援
- イ ふれあい体験室支援  
ふれあい体験室における活動支援
- ウ 体験学習教室支援  
体験学習・各種講座・移動展等における補助
- エ 各種行事の際の補助

#### ③資料整理活動

新聞スクラップ整理

#### ④その他

ボランティア間の連絡・各種刊行物の発送業務・沖縄美ら島財団（指定管理者）主催催事支援  
ふれあい体験室 I P M 清掃 ※原則：毎月第4月曜日 13：20～

### (4) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	常設展示室	サポート=数名	1人
②	学校団体対応	常設展示室 ふれあい体験室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=数名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=数名	1～2人+外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=数名	なし

(5) 運営体制

〔ボランティアの構成〕

- ① ボランティアは、博物館ボランティアとふれあい体験室専属ボランティアから成ります。
- ② ボランティアは、博物館養成講座(P.5の8(1)参照)履修のボランティアとします。

〔活動日・曜日班〕

- ① 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。  
※月曜日が祝日で開館する場合は、ふれあい体験室専属ボランティアを中心にふれあい体験室の支援活動を行います。
- ② 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。
- ③ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の世話係は、活動の連絡を行います。

〔分野別勉強会〕

- ① 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。
- ② 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の世話係は活動の連絡を行います。

〔連絡会〕

- ① 博物館担当者、分野及び曜日の世話係、沖縄美ら島財団、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15:00～

(6) 経費

- ① 博物館は、ボランティアの活動に際する事故などに備え、ボランティア保険に加入します。  
※保険は毎年3月に更新、保険期間は1年とします。
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。  
※破損・紛失した場合は、博物館教育普及担当者及び沖縄美ら島財団担当者までお申し出下さい。

(7) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、1回で3時間程度とします。※場合によっては考慮します。
- ③ 活動回数は、月に2回以上とします。

(8) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従って下さい。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行って下さい。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないで下さい。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないで下さい。

(9) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアがケガをした場合は、ボランティア保険の対象となります。  
※館が認めるボランティア主催の館外勉強会等も含まれます。
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身はその責を負うことになります。

4 ボランティア活動の各組織

(1) 博物館教育普及

担 当	総 括	副担当
	◎ 大川	立松

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

### (3) 曜日班

曜日班は、ボランティア間の連絡（連絡網を作成する）や、館におけるボランティア活動の諸情報を収集する場であり、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 博物館ボランティアは、必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の定例の曜日班会議に出席します。
- ② ボランティアの活動を活性化させるために、曜日班に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、曜日班内で選任されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は、ボランティア連絡会での情報を、曜日班会議の中で班員に伝えます。  
※曜日班定例会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 定例の曜日班会議は、世話係の進行でボランティア室で開催します。
- ⑦ 曜日班は月曜を除く、6つの班で編成します。

班	定例会	時間帯	班	定例会	時間帯
火曜日班	第 火曜	00:00~00:00	金曜日班	第 金曜	00:00~00:00
水曜日班	第 水曜	00:00~00:00	土曜日班	第 土曜	00:00~00:00
木曜日班	第 木曜	00:00~00:00	日曜日班	第 日曜	00:00~00:00

※ふれあい体験室専属ボランティア・・・希望者は土/日いずれかの班への加入も可能。

### (4) 分野別勉強会

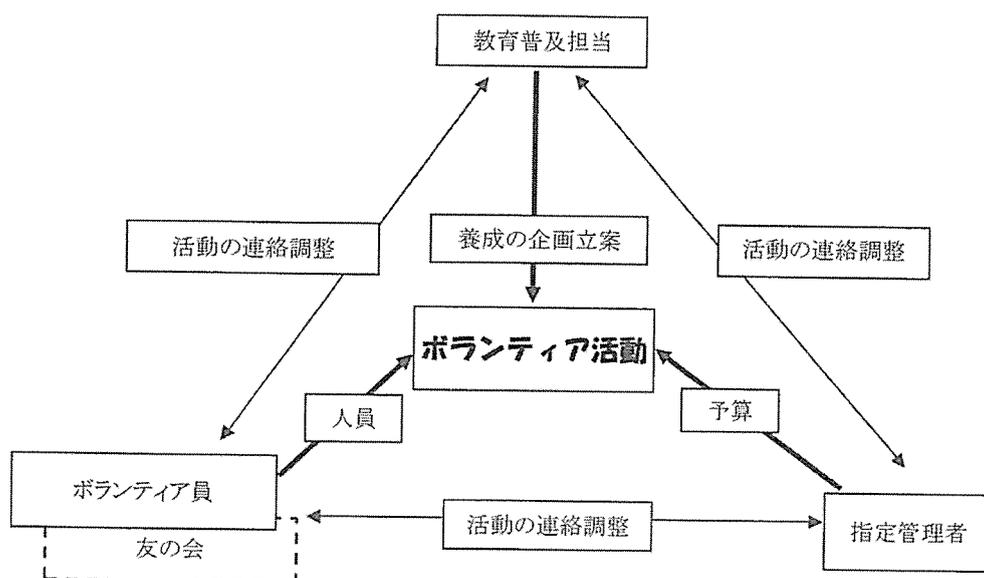
分野別勉強会は、ボランティアが自己研鑽として学習する場の提供と、継続したボランティア養成の補完的役割を担い、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① すべてのボランティア員（ふれあい体験室専属ボランティアを含む）は、分野別勉強会へ自由に参加でき、複数の勉強会への参加も可能です。  
※活動は自立的で、協力的であること。勉強会参加を希望する者は、ボランティア室に掲示する参加者名簿に記名をおこない、勉強会への出席に責任をもつこと。
- ② ボランティアの活動を活性化させるため分野別勉強会に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、勉強会内の選任で選出されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は各分野の学芸員と連携を取り、研修内容の調整や企画をおこないます。  
※分野別勉強会は、ボランティアの自己研鑽の場であり、ボランティア養成の補完的役割を担います。
- ⑥ 分野別勉強会の世話係は、ボランティア室において、全ボランティアに研修計画を告知します。

分野	定例会	時間帯	分野	定例会	時間帯
人類学・自然史	第 土曜	00:00~00:00	美術工芸	第 土曜	00:00~00:00
歴史・考古	第 土曜	00:00~00:00	民俗	第 土曜	00:00~00:00

※開催日時は、諸事情で変更になることがあります

## 5 ボランティア組織図



※ボランティア活動は、自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みを目指します。

## 6 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 仮登録  
「養成講座」修了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。

- (2) 本登録

### ◇博物館ボランティア

「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を修了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。

### ◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

### ○総合展示部門解説ガイドボランティア

総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

- (3) 登録の更新

登録の活動期間は1年とします。但し、P.2の(7)活動、時間、回数(8)遵守事項に示す活動の条件を満たし、継続を希望する者は、更新することができます。

※館の定めた各種研修会並びに全体会等へ不参加（連絡なしの欠席）の者、P.2の(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に登録更新を行うものとします。

- (4) 申請時の提出

次年度、博物館ボランティア活動、ふれあい体験室専属ボランティア活動の継続を希望する者は、指定の申請書に必要事項を記入し、申請の手続きを行います。

- (5) 登録証

- ① 登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。
- ② ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとします。

- (6) 登録の抹消

登録期間中であってもボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することがあります。

## 7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らし、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それに基づいてボランティア活動改善計画の作成に資することを目的とします。

※評価様式は別に作成する。

活動  
の  
評価  
基準

- ① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- ② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- ③ 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- ④ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。
- ⑤ 月に2回以上（1回3時間程度）の活動ができたか。

※P.6の(4)に示す、活動記録簿の記録に基づき、達成状況を判断します。

## 8 その他

### (1) 研修プログラム

#### ◇博物館ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋1日2時間で2日間（実習） 合計約14時間  
例：(副)館長講話、沖縄の歴史・文化講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） 合計約14時間  
例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室(体験キットの解説)、発問の研究など
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習  
例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など

#### ◆「ふれあい体験室」専属ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間（講義）＋2日4時間（実習） 合計約6時間
- ② 更新研修…レポート提出（例：ボランティア活動の復習等）
- ③ 臨時研修…スキルアップ研修等

#### ○総合展示部門解説ガイドボランティア

- ① 養成講座…1日3時間で3日間（講義） 合計約9時間  
例：館長講話、ガイド心得、沖縄の歴史・文化等の講座、沖縄の自然等の講座、実地研修など
- ② 実践研修…1日2時間で2日間（演習） 合計約4時間  
例：総合展示部門での実践形式演習
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習

### (2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として、ボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、ボランティア活動にふさわしい服装とします。
- ③ ボランティア登録証を常に身につけるものとします。

※博物館ボランティア登録証・・・水色      ふれあい体験室専属ボランティア登録証・・・緑色  
ストラップ・・・緑色

### (3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、博物館教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
  - ア P.1の3(2)～(5)に示す活動に関する使用
  - イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
  - ウ ボランティア活動のための用具類の保管及び使用
  - エ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究
  - オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物を持ちこまないで下さい。  
※個人の持ち物は、自己の責任で管理して下さい。
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用した者が片づけ（整備・清掃）をするものとします。

### (4) ボランティア活動記録簿の記入について

- ① 活動終了後ボランティアは、ボランティア室にある活動記録簿に、活動の記録をおこないます。
- ② 分野別勉強会への参加は“ボランティア活動の評価基準”にそぐわないため活動記録簿には記入できません。  
※各勉強会のボランティアの参加状況は、各勉強会の世話係が記録（名簿管理や出席状況等）をおこない、12月にまとめて、博物館教育普及担当へ提出します（全体会にて勉強会参加者名簿配布）。
- ③ 「その他」の欄は、P.1の(3)④その他など、館が臨時召集した内容等を記録します。
- ④ 「会議」の欄は、館が主催する会議への参加を記録します（全体会、曜日班定例会、ボランティア連絡会など）。
- ⑤ P.2の(7)②に示す1回の活動時間の目安は3時間とします。
- ⑥ 1日で6時間以上の活動をおこなった場合。  
例：午前＝学校対応3時間、午後＝ふれあい体験室支援3時間、出席簿の記入は、2カ所の記入を認めます。  
※但し、短時間で2カ所の活動を実施してのカウントは認めない（例：1.5時間×2カ所）
- ⑦ 都合により館でのボランティア活動が不可能になる場合、博物館教育普及担当へ活動休止の理由の電話連絡を入れるとともに、活動記録簿にも活動休止のメモを記入します。  
(例：7/5～8/31まで活動休止します。)

### (5) 欠席時の連絡について

活動当日、都合で来館が不可能になった場合、登録証の裏面に示す番号へ連絡を入れて下さい。

- ①博物館教育普及（大川、立松） TEL 098-851-5401（内線253）
- ②沖縄美ら島財団教育普及（大瀨、中島、渡部） TEL 098-941-8200（代表）  
098-941-1232（直通）  
内線151（大瀨） 155（渡部、中島）
- ③友の会事務所（座波、野里） TEL 098-868-2722（内線113）  
※曜日班ならびに勉強会の問い合わせについては、各世話係りへお願いします。

### (6) 台風時の対応

台風時の活動は、館の開館状況に準じます。

- ①午前7時現在、暴風警報（以下「警報」）が発令されているときは、午前中閉館とします。
- ②正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- ③開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。

※安全面が確認された時のみ、来館をお願いします。

# 博物館

4月25日発行 第103号(H28 5月)

# ボランティア通信

## ●平成28年度 博物館班メンバー紹介

副館長	むらやま つよし 村山 剛
班 長	まのひろ けん 園原 謙

歴史	いしがき しのぶ 石垣 忍	人 類	まじた 裕樹 藤田 祐樹	おぼわん	大 滝 勇 哉
歴史	さきばら きょうこ 崎原 恭子	人 類	やまもと しんじ 山崎 真治	かまきり 千恵紀	片桐 千恵紀
美術工芸	よなみわ いちご 與那嶺 一子	地 学	すけみ 貴 賢 半佐美 貴	さきぞき だいご	三枝 大悟
美術工芸	ほのかま かずゆき 外間 一先	生 物	やまもと じん也 山崎 仁也		

教育普及	あけが 剛 副
普及補助	登松 有幸

平成28年度のボランティア登録者  
博物館ボランティア 57名  
ふれあい体験室専属ボランティア 11名  
新年度もご協力よろしくお願致します！！

## ●教育普及班 着任のあいさつ

【教育普及 大川 剛(おおかわ つよし)】



金城さんの後任として赴任いたしました、大川 剛です。前の勤務は西表島のジャングルに囲まれていましたが、今度は都会のジャングルに囲まれて、たくましくやっつけていこうと思っています。「明るく、楽しく、感謝して」をモットーに、頑張っていきます。  
宜しくお願いいたします！

【教育普及業務補助員 立松 有季(たてまつ ゆかり)】



比嘉香織さんの後任として赴任することになりました、立松 有季です。今年の1月末まで石垣島で観光業に携わってまいりました。慣れない業務ばかりでボランティアの皆様にご迷惑にさせていただきましたことばかりだと思います。一日も早く業務に慣れるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

一般財団法人  
沖縄美ら島財団  
Okinawa Churashima Foundation

# 博物館 ボランティア通信



博物館  
教育普及メンバーです

伊島 アリサ  
渡部 真子  
森 尊



## 中島 アリサ

宜原はるなさんの後任として、沖縄美ら島財団で教育普及を担当することになりました  
中島アリサと申します。初めての経験が多く、ボランティアの皆さまには教えていただくことばかりだと思います。少しでも早く慣れるようにがんばっていききたいと思います。  
どうぞよろしくお願致します。

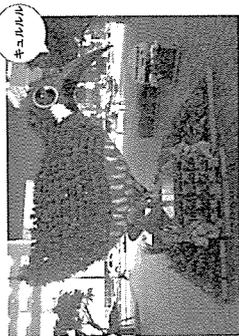
## 渡部 真子

今年度のボランティア通信はどんなことを書こうかなあと考えてみました。昨年度、1回だけマンガを読ませましたが、もっと、しっかりオチをつけるセンスを磨いて、新しい体験キットの話などのマンガシリーズに挑戦したいと思っています。ぜひ皆さんに見てもらって、感想をいただけたら嬉しいです。

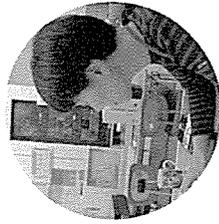
## 大瀧 萌子

今年もボランティアさんとの日々の会話の中から、博物館を舞台に繰り広げられる面白い楽しい・驚きエピソードなど、さまざまな情報を一緒に共有したいと思います。そして、活動に関わるメンバーと一緒に博物館での活動を楽しめるよう仕掛け作りを考えたいと思います。

ボランティア通信では、  
私たち 3人が毎月リレー形式  
でコラムを書きます！



美術担当の 保久村 慧



沖縄県立博物館

5月25日発行 第104号(H28 6月)

# ボランテア

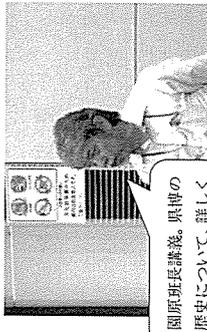
通信

期日	内容 14:00~16:00
5/11	開講式、博物館・IPM 講座
5/13	ボランテアについて・自然史講座
5/20	人類・地学講座
5/27	考古・歴史講座
6/01	民俗・美術工芸講座
6/08	ボランテア実習①
6/24	ボランテア実習②・閉講式

## 第七期 ボランテア養成講座 平成二十八年度ふれあい体験室専属ボランテア養成講座始

沖縄では五月十六日に梅雨入り  
豊雨が発表されました。皆様には  
足下の悪い中、ボランテアへ  
日々励ま運んで下さり、感謝申し  
上げます。

さて、去らば五月十一日(水)  
第七期ボランテア養成講座がス  
タートいたしました。期間は六月  
二十四日まで、参加者は十三名  
初日は当館館長から「県立  
博物館の設立・歴史」について、  
講義がなされました。講座のスチ  
ュールは左の通りです。



館長講話。県博の  
歴史について、詳しく  
講義してくれました



ふれあい専属ボランテア養成講座

五月十四日(土)平成二十八年  
度ふれあい体験室専属ボランテ  
ア養成講座がスタートいたしまし  
た。期間は六月四日まで。参加者  
は三名  
新体験キット導入の話し、目録キ  
ットをさして聞き入っています  
講座のスチュールは下記の通り  
です。

期日	内容 9:30~12:00
5/14	開講式、ボランテア活動について講義
5/21	実習①(体験キット、寄附品四選)
6/04	実習②、閉講式、登録証授与式

### ふれあい体験室専属ボランテア の皆様へのお知らせ

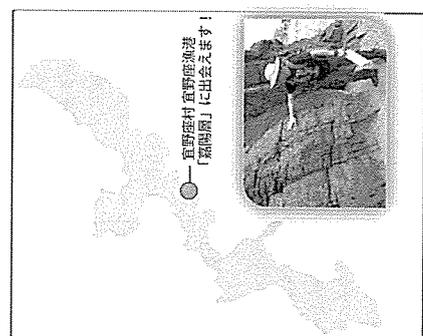
新島のふれあい専属ボランテアの顔合  
せを下記の日程で行います。  
ご参加をお待ちしております。

日時：平成28年6月4日(土)  
11:00~11:45  
場所：博物館実習室(1階)  
対象：ふれあい専属ボランテア

一般財団法人  
沖縄美ら島財団  
Okinawa Churashima Foundation

沖縄県立博物館  
ボランテア  
通信

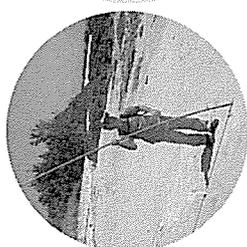
博物館学芸員講座(地学)5/7(土)「学芸員と行くジオツアー」実施しました!



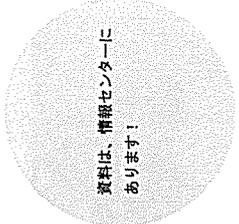
宜野座村 宜野座海邊  
「類焼跡」に出発します!



湿度90%の蒸し暑い中、小学3年生~60代まで  
幅広い年齢層の方たち13名が参加しました。現場  
で実際に触れながら学芸員の解説を聞く体験に、「場  
所を変えて同じ講座をまたやってほしい」という声  
がたくさん寄せられました。



青空の下、大川さんのこん  
な姿もキャッチしました。  
技があると歩きやすいの  
だそうです。(笑)



資料は、情報センターに  
あります!

★ふれあい体験室定期清掃のお知らせ：6月27日(月)13:20から15:00  
ご協力をお願い申し上げます。



# 沖縄立博物館

沖縄立博物館・美術館  
TEL: 098-851-5401  
FAX: 098-941-3650

8月1日発行 第106号 (H28 8月)

## ボランティア

通信

### 仙居にいらてきました！

北石組分立て新キルト大人会！

六月二十五日(土) 二十七日(日)

仙居ミニアムキッズフェア

※委員の藤田・木川が仙居で行われた「ミニシアムキッズフェア」に参加してきました。

会場は仙居駅近くの御町(おごまち)カンファスタ。東日本大震災を経て、東北の子どもたちを応援する目的で五年前から始まった催しです。

二日間で六千人あまりが来場し、全国から五十あまりのブースが並んで、各館自慢の体験カリキュラムが堪能できるイベントでした。

当館からは、新キルト「北石組み立てキルト」や「骨スーツ」ほかを体験・販売・展示もタニエーを出品しました。

参加して初めての正直な感想は「参加してよかった！」でした。

子どもたちがキラキラ目で、化石のバズに挑戦する姿や、骨スーツを照れくさそうにしかしまんざらでもない笑顔をばす姿に、とても癒やされました。

教育普及 大川



夢中で組み立てにチャレンジ



旧石器人と骨スーツ体験

～8月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

対象: 博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

※民俗勉強会・・・8/6(土) 10:00～ 場所: ボランティア室  
民俗展示物の学習一村立てから来訪神へー 新里 喬

※歴史勉強会・・・8/13(土) 10:00～12:00 場所: ボランティア室  
石居学芸員による解説「薩摩の琉球支配と王国」

※美工勉強会・・・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。

※自然勉強会・・・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。

☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

沖縄立博物館

## 沖縄美ら島財団

Okinawa Churashima Foundation

## ボランティア

☆ふれあい体験室 IPM 清掃ご協力をお願い

※集用紙をボランティア室へ掲示します。

日程	時間	募集内容	募集人数
8/22(月)	13:20～15:00	展示物のほごり落としなど	5～6名
9/1(月)	10:00～12:00	ふれあい体験室養生(補蒸前作業)	5～6名
9/9(月)	10:00～12:00	ふれあい体験室回復(補蒸後作業)	5～6名
9/26(月)	13:20～15:00	展示物のほごり落としなど	5～6名

☆今後の日程お知らせ

期日	内容	備考
8月1日(傍)～8日(傍)	10年研修 3名 2日	
8月14日(日)	【神戸大 杉本真樹氏特別講演会】	16:00～18:00 3F 講堂

8月の総合展示部門解説ガイドは、  
毎週4日 シンポジウム対応を美し!

## 火水金日

14:00-16:00 総合展示室内



夏休みに入りましてねー☆

7/23(土)「昆虫標本作り」を実施。バッタだけを集める子、蝉や蝶を集める子など、今年も個性豊かな標本になりそうです。それ以外に夏休みには様々な講座を予定しています☆そして、子どもだけでなく、大人向け企画「サイエンスカフェ」も実施。山崎学芸員によるマニアックな話も好評でした！子どもから大人まで楽しめる企画っていいですねー★



# 沖縄県立博物館

9月1日発行 第107号 (H28 9月)

## 通信 ボランティアア

沖縄県立博物館・美術館  
TEL: 098-851-5401  
FAX: 098-941-3650

ボランティアの皆様、ありがとうございます！  
 ↓夏休み学生員教室↓  
 ↓目からウロコ展・関連催事↓



七月二十六日



藤田教室



山崎(北)教室



石垣教室



七月二十七日



宇佐美教室



興那嶺教室



山崎(南)教室



七月二十八日



大湾教室



片桐教室



外間教室



七月二十九日



崎原教室



ハッパードライブ一探隊



大川探検隊



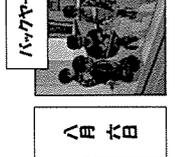
八月六日



ハッパードライブ一探隊



大川探検隊



外間教室

### 目からウロコ～関連催事



七月十六日

実験であそぼう



七月十八日

サイエンスカフェ



八月六日

カーンジャー



八月十一・十三日

カエルの解剖



体験学習教室



七月三三三三四月十日

昆虫標本づくり



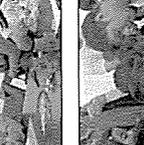
七月十七日

魚の解剖教室



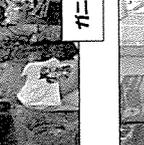
七月三十日

カニの手ロボット製作



八月七日

カニカニ教室



八月十五日

フランカムの採取



八月二日

簡易ペットボトル工場



八月二日

簡易ペットボトル工場



八月二日

簡易ペットボトル工場

民具体験 (小学校3・4年生) ご協力よろしくおねがいします。

対象: 博物館ボランティア  
 ※募集用紙は随時ボランティア室に張り出し致します。  
 ○10月7日(金) 兼城小民具体験・・・9時半～12時  
 ○10月12日(水) 員志頭小民具体験・・・10時～11時半  
 ○10月18日(火) 玉城小民具体験・・・9時半～12時



講座・全体会のお知らせ

○ボランティア養成専門講座: 第7期が始まります。

スケジュール	A (展示室)	B 展示体験室	C 実習室
①9月16日(金)	【巻古】片桐	【巻古】片桐	15:20～15:55
②9月21日(水)	【歴史】石垣/崎原	【歴史】石垣/崎原	学団体受入①
③9月30日(金)	【美工】興那嶺/外間	【美工】興那嶺/外間	学団体受入②
④10月5日(水)	【生物】山崎(仁)	【生物】山崎(仁)	民具体験C
⑤10月14日(金)	【地学】宇佐美	【地学】宇佐美	民具体験B
⑥10月19日(水)	【人類】藤田/山崎(真)	【人類】藤田/山崎(真)	スタッフ業務
⑦10月21日(金)	【民俗】大滝	【民俗】大滝	車両登録説明 登録証交付式

※総合展示室ラッシュ希望者は、A・B室講

○ふれあい専属ボランティア全体ミーティング 9月24日(土) 午前10時～12時  
 対象: ふれあい専属ボランティアの全員 ※参加が出来ない方は必ずご連絡ください。

○ボランティア秋の全体会 10月21日(金) 午後3時20分～4時半  
 対象: 博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアの全員  
 ※参加が出来ない方は必ずご連絡ください。

○総合展示部門解説ボランティア養成講座が始まります。

- ①10月28日(金)・・・午後2時～4時まで
- ②11月2日(水)・・・午後2時～4時まで
- ③11月9日(水)・・・午後2時～4時まで
- ④11月11日(金)・・・午後2時～4時まで
- ⑤11月16日(水)・・・午後2時～4時まで

～☆～9月の勉強会日程 (詳細は掲示板をご確認ください)～☆～

- 民俗勉強会・・・9/10(土) 10:00～12:00 場所: 民俗展示室  
「サバニ」について 松川 潤一郎
- 歴史勉強会・・・9/10(土) 10:00～12:00 場所: 3F 研修室  
展示解説パネルとガイドマニュアルの読み合わせ  
(予定) 展示解説: 戦後沖縄の博物館の歩み 石垣学芸員
- 美工勉強会・・・①9/24(土) 14:00～16:00 場所: 3F 講座室  
文化講座: 沖縄の工芸について ※定例会を文化講座の購読とする。  
②9/27(火) 館外学習: 読谷北寮の火入れ見学 (申込締切 9/24)
- 自然勉強会・・・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。

☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。  
 ☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

一般財団法人  
**沖縄美ら島財団**  
 Okinawa Churashima Foundation

沖縄県立博物館  
**ボランティア通信**

8/13(土) 美術館 夏休み子どもフェスタから



★ 写生大会

博物館・美術館周辺で写生大会を開催しました。入り口付近でシーサーを大胆に描く子や民家の瓦を丁寧にスケッチする子、画面いっぱいに新都心公園の樹木を描写する子など、自由に表現する子どもたちの姿が印象的でした。



★ 中庭が水族館

子どもから大人まで参加し、にぎわいを果たしたワークショップ。カラフルな海の生き物たちが県民キヤラリー中庭の窓ガラスいっぱいには広がりました。

「博物館学芸員教室」や「体験学習教室」など、博物館では、今年も夏休み期間中に盛りだくさんの催事がありました。イベントでは、多くのボランティアのみなさんが関わってくださりありがとうございました。  
 美術館でもイベント「夏休み子どもフェスタ2016」を開催し、ボランティアのみなさんの活躍がありました。暑い中、子どもたちに声をかけてくださったり、安全面でのサポート等ご協力いただきました。  
 今月は、博物館ボランティアのみなさんと同じく、館の運営を支えてくださっている美術館ボランティアの方々の活動について紹介しました。(中島)



# 沖縄県立博物館

11月1日発行 第109号 (H28 11月)

沖縄県立博物館・美術館  
TEL: 098-851-5401  
FAX: 098-941-3650

## ポランテア

通信

### 第7期ポランテア専門講座修了 これからよろしくお願ひします！

十月二十一日(金)第七期ポランテア専門講座が修了を迎えました。四月から講座を受講されてきた十九名の皆さん、おめでとうございませう。そして、受講ありがとうございました。

これからは先輩のポランテアの皆さんと共に「博物館の窓口」として、来館者の皆様にご案内と学びを与える人材として、大きく羽ばたいて頂きたいと願っています。

来年は新館のオープンから十周年の節目です。みんなの力で、博物館を盛り上げていきたいと思います。ご協力をお願いします！



9月16日考古分野



9月21日歴史分野



9月30日美工分野



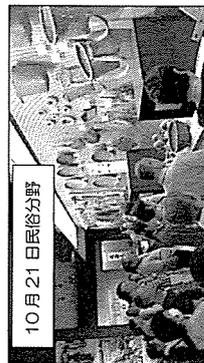
10月5日地学分野



10月14日生物分野



10月19日人類分野



10月21日民俗分野

### 専門講座

民具体験(小学校3年生) ご協力よろしくおねがいします。  
※募集用紙は随時ポランテア室に張り出します。

- 11月18日(金) 天妃小学校・・・9時30分～11時30分
- 11月22日(火) あげな小学校・・・9時30分～12時
- 11月24日(木) 城南小学校・・・9時30分～11時20分
- 11月30日(水) 金崎小学校・・・9時30分～11時45分
- 12月1日(木) 光洋小学校・・・9時30分～12時
- 12月6日(火) 鹿安小学校・・・9時30分～11時50分
- 12月7日(水) 佐敷小学校・・・10時～12時

対象：博物館ポランテア

#### 体験学習教室

- 目録をつくらう 11月19日(土) 午前10時～12時 場所：実習室(1階)
- ※事前勉強会への参加が必須です。
- 事前勉強会：11月17日(木) 午後2～3時 場所：県民アトリエ(美術館1階)
- ※募集用紙は随時ポランテア室に張り出します。

対象：博物館ポランテア

#### 連絡会・全体会のお知らせ

- ポランテア連絡会 11月15日(火) 午後3時～4時
- 対象：博物館ポランテアお世話係

対象：博物館ポランテアお世話係

#### ふれあい体験室IPM 清掃

- 11月28日(月) 午後1時20分～3時 場所：博物館ポランテア・ふれあい体験室
- ※展示物のほこり落としなど、5～6名募集します。

対象：博物館ポランテア・ふれあい体験室専属ポランテア

～☆～11月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～☆～

- 対象：博物館ポランテア・ふれあい専属ポランテア
- 歴史勉強会・・・11/12(土) 10:00～12:00 場所：3F 研修室  
カイトマニユアル最新版について/展示ガイド&ワークショップの勉強会等
- 美工勉強会・・・11/26(土) 10:00～12:00 場所：3F 研修室(予定)  
学芸員講座：与那嶺学芸員
- 民俗勉強会・・・11/5(土) 場所：海の文化資料館(うるま市)・浜比嘉島  
館外見学 ※詳細は調整中
- 自然勉強会・・・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。
- ☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

対象：博物館ポランテアお世話係

総合展示部門解説ガイドポランテアさんの活動の様子を



**ちよこつとのぞいてみましょう！**  
 毎週水・金・日曜日に活動中の総合展示部門解説ガイドのポランテアさんは、不定期ではありますが、修学旅行や老人会など団体への対応も実施しています。  
 去る10月23日(日)には、介護福祉施設のお客様に向けて30分程度のガイドを実施しました。

「貝塚時代の人々の暮らし」  
 ポランテアさん「このような食べ物を食べていたようです。」



お客様：  
 「いらぶちやーも食べていたわけ?ごちそうだねいいはずよー!」  
 「この時代の人々は、結構グルメだったんですね(笑)うらやましいです!」  
 「私の母は、こんな風に料理しよったけど昔の人ほどどんな風にして食べていたのかね〜?」

ひとつの展示物だけでなく、お客様から様々な気づきや疑問が聞こえてきます!そこに耳を傾けると

ガイドポランテアさんは、お客様との会話を楽しみながら展示物を解説します。一方でお客様は、自分の体験と照らし合わせながら解説を聞いている様子です。そのため、時にはお客様の体験談から新たな発見や学びに繋がることもあります!先月から総合展示部門解説ガイドの養成講座も始まりました!新編ポランテアの皆さまも、ガイド登録後には、一緒に活動を楽しみましょう♪  
 まずは、ジブンボックスでガイドを聞いてみるのもいいかもしれませんね☆

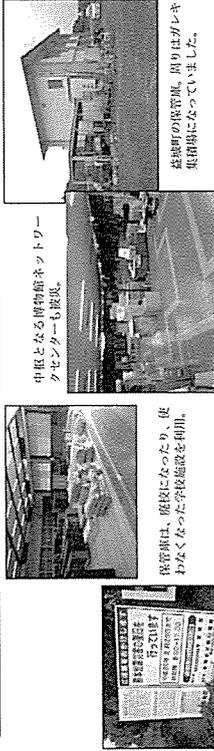
総合展示解説ガイド18名誕生!



今回新たに十八名の方々が、総合展示解説ガイドポランテアとして、無事開講式を迎えました。  
 新編ポランテア(第七期)の方々に關しては、五月の養成講座から始まった研修は半年以上に渡る長丁場でした。  
 今後、来館されるお客様には博物館の顔としての活躍を期待致します。おめでとうございます!

熊本県文化財レスキューに行ってきました! 大川

残らず斜めに傾いた迫迫の電柱。未だ倒壊し撤去のめどが立っていないおびただしい数の家屋。最初におり立った益城町で目にした光景でした。  
 平成二十八年十一月十四・十五日の二日間、私は熊本文化財レスキュー事業に随ませさせていただきました。  
 私に与えられた仕事内容は、益城町、水川町二箇所にある「二時保管庫」の環境整備でした。保管庫の溝路から逆光の設置だけでなく、溝在中行し指示して下さった九博の方からも、災害後から今までのレスキューに係る様々な体験なども伺うことが出来、短いながらも勉強になることばかりでした。  
 私たちが住む沖縄県においても、今後東北や熊本のような災害がいつ起こることもわかりません。本事業への参加は、今後の沖縄の文化財保護の在り方非常時の対応などについて深く考えさせられるものでした。



中原となる博物館ネットワーキングセンターも控裏。

益城町の保管庫。周りはガレキ集積場になっていました。

保管庫は、廃校になったり、使わなくなった学校施設を利用。

**民具体験（小学校3年生）** ご協力よろしくおねがいします。

対象：博物館ボランティア

※募集用紙は随時ボランティア室に張り出し致します。

○12月 6日（火）座安小学校・・・9時30分～11時50分

○12月 7日（水）佐敷小学校・・・10時～12時

**連絡会・全体会のお知らせ**

対象：博物館ボランティアお世話係

○ボランティア連絡会 12月27日（火）午後3時～4時

対象：博物館ボランティアお世話係

**ふれあい体験室IPM 漕網**

対象：博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア

○12月26日（月）午後1時20分～3時 ※展示物のほこり落としなど、5～6名募集します。

～☆～12月の勉強会日程（詳細は掲示板をご確認ください）～☆～

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

○歴史勉強会・・・12/10（土）9：30～16：30（集合9：15）

館外学習：南部史跡巡り ※11/25申込締切済

○民俗勉強会・・・12/3（土）10：00～12：00 場所：ボランティア室

学校対応の『展示解説』の勉強

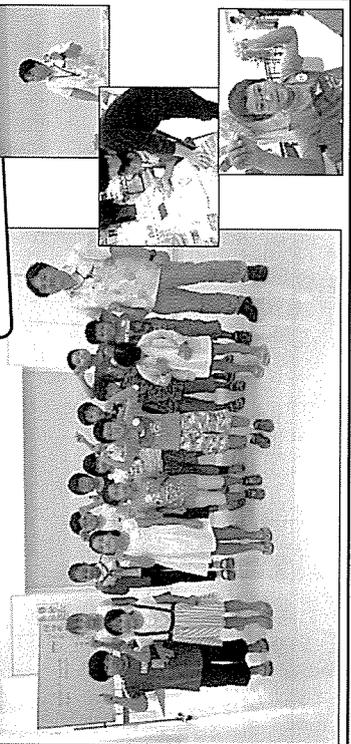
○美工・自然勉強会・・・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。

☆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

☆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

ボランティアご苦労様でした！11月19日（土）体験学習教室

民器を作ろう！ 山崎真治



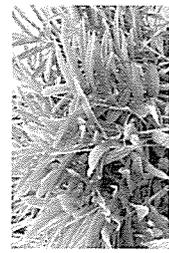
一般財団法人  
**沖縄美ら島財団**  
Okinawa Churashima Foundation

沖縄県立博物館  
**ボランティア通信**

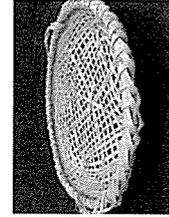
**12/24（土）**

講師に松本嘉代子先生を  
お招きして

「親子でムーチーをつく  
ろう！」を開催します。

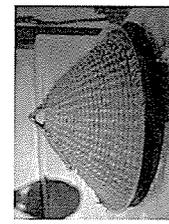


★月桃の葉



★ムチンブサー

竹でできた蒸し網



★カマンタ

網の蓋

当日は、当館屋外展示場にある民家の土間に実際に使って、ムーチーを蒸します！月桃の葉  
っぱ800枚が必要になるため、「家の庭にたくさん生えているよ！」という方がいらっしゃ  
いましたら、ぜひご提供ください。新鮮な葉が必要なため、22日（木）か23日（金）に中  
島が前川までよろしくお願いたします！ムチンブサーとカマンタがそれぞれ1個づつ足  
りない状況です。家に眠っているムチンブサーとカマンタがありましたら、ぜひお貸しくだ  
さい！



あらたまの年を迎えて

沖縄美ら島財団 統括 大城 慧

博物館ボランティアの皆様、明けましておめでとうございます。

昨年度から沖縄県立博物館・美術館の指定管理者となり、この1年間、館の管理運営にあたって参りました。この間、ボランティアの皆様には、展示解説、文化講座や講演会、研修会、移動博など多岐に亘って御支援をいただき博物館業務を推進してまいりました。

改めて、職員一同、衷心よりお礼を申し上げます。  
特に体験教室や教育普及の面におきまして、多角的に関わっていただき、博物館学芸員の強力なパートナーとして、日々の協力と連携があつてこそ成り立っているものと実感しております。ボランティアの皆様には、他館のボランティアとの交流や研修など学芸員との協力を得ながら充実した活動になることを期待しております。

また、これまで同様に沖縄美ら島財団へも連携協力していただけたらと考えております。  
昨年以上に、今年がボランティアの皆様にとってますますご多忙で幸多かりし一年になりますように。

### かざやで風節

あらたまの年に炭と昆布飾て  
心から姿若くなゆさ

### 「第9回 移動展 in 座間味島」を実施しました！

今年は、座間味島だけでなく阿嘉島や慶留間島でも様々なイベントを開催しました。来場者も450人と島民の約半分が足を運んでくださり盛況でした。ご協力いただきました友の会・ボランティアの皆さんありがとうございました。

3日限りの移動展。普段当館  
で展示していない貴重な資料  
も公開！



## 沖縄県立博物館

沖縄県立博物館・美術館  
TEL: 098-851-5401  
FAX: 098-941-8650

2月1日発行 第112号 (H29 2月)

# ボランティア通信

民衆体験(小学校3年生) ご協力よろしくおねがいします。 対象：博物館ボランティア  
※募集用紙は随時ボランティア室に張り出します。

- 2月 2日 (木) 9:30~12:00 泊小学校
- 2月 3日 (金) 9:30~11:30 安謝小学校
- 2月 7日 (火) 9:30~12:00 鏡刈小学校
- 2月 8日 (水) 10:00~11:30 小禄小学校
- 2月 9日 (木) 9:30~11:30 那覇小学校
- 3月 1日 (水) 9:30~12:00 真嘉比小学校
- 3月 2日 (木) 9:30~11:30 大連小学校

### 連絡会・全体会

対象：博物館ボランティアお世話係  
○ボランティア連絡会 2月14日(火) 午後3時~4時 場所：ボランティア室

### いれあい体験室(PM)選抜

対象：博物館ボランティア・いれあい体験室専属ボランティア  
○2月27日(月) 午後1時20分~3時 ※展示物のほこり落としなど、5~6名募集します。

~☆~2月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)~☆~

- 対象：博物館ボランティア・いれあい専属ボランティア
- 自然史勉強会・・・2/10(金) 集合 9:15 場所：実習室  
※詳細は掲示板をご確認ください。
- 歴史勉強会・・・詳細未定
- 民俗勉強会・・・2/4(土) 10:00~12:00 場所：ボランティア室  
『海と折』をテーマに勉強 解説：島袋(美)
- 美工勉強会・・・2/25(日) 場所：ボランティア室  
琉球漆器について 外間学芸員
- ☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

### 退職のご挨拶

私事で恐縮ですが、3月に出産を控えており、この度退職することとなりました。  
年度の途中で皆様にご迷惑をおかけし申し訳ございません。  
短い間でしたがボランティアの皆様を支えられて、とても楽しく仕事をすることができました。いつも優しい笑顔で迎えて下さったこと、心から感謝しております。  
皆様のご健勝をご活躍を今後には違わず立場からではありますがお祈りいたします。  
博物館班 教育普及補助 立松有季

民衆体験(小学校3年生) ご協力よろしくおねがいします。 対象: 博物館ポランティア  
※募券用紙は朝時ポランティア室に張り出し致します。

- 3月1日(水) 9:30~12:00 真嘉比小学校
- 3月2日(木) 9:30~11:30 大道小学校
- 連絡会・全体会 対象: 博物館ポランティアお世話係
- ポランティア連絡会 3月14日(火) 午後3時~4時 場所: ポランティア室
- ふれあい体験室IPM 演播 対象: 博物館ポランティア・ふれあい体験室専属ポランティア
- 3月27日(月) 午後1時20分~3時 ※展示物のほこり落としなど、5~6名募集します。

~☆~3月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)~☆~

対象: 博物館ポランティア・ふれあい専属ポランティア

- 自然史勉強会・詳細未定
- 歴史勉強会・3/11(土) 10:00~12:00 3F 研修室  
①展示ガイドスキルアップの為の勉強会・②崎原先生による展示解説(予定確認中)  
③新世話係選出
- 民俗勉強会・3/4(土) 10:00~12:00 場所: ポランティア室  
ポランティア室活動のまとめとゆんだく会
- 美工勉強会・詳細未定

☆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。  
☆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

おしらせ 県教育普及より(博物館ポランティア・ふれあいポランティア共通確認)

①H29年4月より、今までの「1回活動3時間×月2回」から、  
→「月6時間程度を目安に活動」へ変更となります。  
☆月6時間の活動を、各位にて時間配分しての活動が可能になりました。  
☆確認済みの解説ガイド(ジブンBOX)での活動もカウントに入れて下さい。  
②上記①の変更により、「活動記録簿」の様式が変わります。  
☆ポランティア室の壁に、記入方法・例を掲示しています。各位確認下さい。  
☆ふれあい体験室専属ポランティアは、3月に周知の機会を持ちたいと思います。  
③案内マニュアル等、4月の全体会において全員へ配布致します。

ふれあい体験室  
ワークショップ  
「貝体新書」で  
あそぼう!

ふれあい体験食室の  
前には何が  
貝がたち

貝の選んだ  
目はどんな  
暮らしをしているのかな??

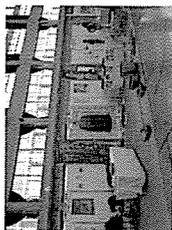
目は生き物だよ  
生きるためには何をやる?  
ごはんを食べる  
何を食べるかな?  
歯は必要かな?  
どうやってごはんを採  
るかな? 貝は  
どうやってウツナに  
なるのかな?

たぶんいざな  
ごはんを食べて  
寝たかな  
かいちいさな  
貝がたち  
おなかの中へ  
はいりこ  
まかせよう  
おなかの中へ  
はいりこ  
まかせよう

調べた結果

① 当たるところは発見したところ  
ふれあい体験室  
がね?

② 目が  
新しく目  
プログラム  
はじめました



「八重瀬  
八景フェスタ」  
に参加しました！

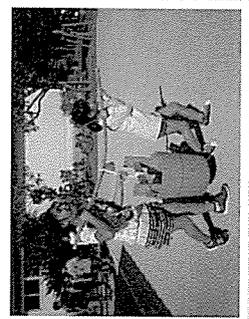
2月19日(日) 東風平運動公園体育館で八重瀬町主催の催事に初参加しました！当日会場には、約1万人が来場。八重瀬町の紹介のほか、子どもから楽しめるワークショップや沖縄の文化歴史を伝えるブースが展開していました。博物館・美術館のファンも訪れており、民具体験やチェンジーを楽しんでいました。

★新しい体験キッズが大活躍！チェンジーがとっても人気でした！

★今年度の民具体験も3/1(水)、3/2(木)の残り2回となりました。来年度も合わせて、ご協力よろしくお願ひいたします。



着衣体験の様子



ターグやかつぎ棒を使って水の運搬を体験する様子

沖縄県立博物館

4月1日発行 第114号 (H29 4月)

沖縄県立博物館・美術館  
TEL: 098-851-5401  
FAX: 098-941-3650

ポランティア通信

4月ポランティア連絡会は、下記総会をもって行います。

ポランティア総会 ※ポラ証交付・全員の参加をお願い致します。  
04月21日(火) 午後3時~4時 場所:ポランティア室

ふれあい体験室IPM 携揚 対象:博物館ポランティア・ふれあい体験室専属ポランティア  
04月24日(月) 午後1時20分~3時 ※展示物のほこり落としなど、5~6名募集します。

- ☆4月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください) ☆
- 自然史勉強会・4/14(金) 10:00~12:00 場所:ポランティア室 10:00~11:00 年間計画 11:00~詳細は掲示版でご確認ください。
  - 歴史勉強会・4/8(土) 10:00~12:00 3F 研修室 ①平成29年度世話係選出 ②新年度活動計画について
  - 民俗勉強会・4/1(土) 10:00~12:00 場所:ポランティア室 新年度の年間計画とゆめたく会
  - 美工勉強会・4/22(土) 10:00~12:00 場所:ポランティア室 ①琉球漆器について ②年間計画

☆ 参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。  
☆ 内容が変更する場合もありますので、事前にご確認ください。

お知らせ 県教育普及より(博ポランティア・ふれあいポランティア共通確認)

- ①「活動記録簿」の様式が変わります。  
☆ポランティア室の壁に、記入方法・例を掲示しています。各位確認下さい。
- ③案内マニュアル等、4月の全体会において全員へ配布致します。  
☆現任親本し、渡せるよう、手配を行っています。ご協力いただいたポランティア皆様、有り難うございました。

退職のご挨拶  
産休に入られた立松さんの後任として、2か月間という短い期間ではありましたが、大変お世話になりました。年度の途中ということで、初めはとて緊張してはいたのですが、ポランティアの皆さまの温かい人柄に助けられ、癒されながら、楽しく実りある2か月間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

博物館班 教育普及補助 木野 沙央里

沖縄県立博物館

# ボランティア通信

一般財団法人  
沖縄美ら島財団  
Okinawa Churashima Foundation

サポートありがとうございました

サンゴ礁ウィーク 2017  
「サンゴの日」は博物館へサンサン GOGO !

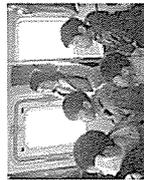


隣さんも一緒に  
お手伝い♪

ボランティアさんたちは、おそろいのサンゴ礁ウィークジャンパーを着てサポートしました！  
小さな子どももおとなまでそして海外のお客様ともふれあいがながら、サンゴのワークショップを実施！

## 「琉球・沖縄の地図展」関連催事 子ども向けの体験教室はこんなことをしていました！

測量船「おきしお」の見学会



測量体験



講師は、  
土地家屋調査士の皆さん  
国土地理院の皆さん  
海上保安庁第十一管区のみなさん  
でした！

大人子どもも  
大満足でした！

引は続き  
「琉球・沖縄の地図展」  
お楽しみください

## XI その他

### 1 移動展

名称：第9回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 座間味島

会期：平成28年12月16日（金）～18日（日）

開催時間：午前9時～午後7時（金曜日は10時から）

開催地：座間味村（座間味離島振興支援センター）

対象：一般

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・美術館、座間味村、座間味村教育委員会  
一般財団法人沖縄美ら島財団

協力：県立博物館友の会、県立美術館支援会 happ



#### 趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

#### 展示内容

##### (1) 博物館展示

- ①「世界の化石と輝く石」恐竜の骨格標本、岩石の展示
- ②「沖縄の自然、歴史、文化」地学・生物・歴史・民俗・考古・美術工芸に関する総合展示

##### (2) 美術館展示

- ①「沖縄の映画」県出身映画監督作品を上映
- ②パネル展示

総入館者数 450人

内訳

○16日（金）/164人（70歳以上9人、一般105人、高大0人、小中43人、未就学児7人）

○17日（土）/174人（70歳以上2人、一般107人、高大0人、小中40人、未就学児25人）

○18日（日）/112人（70歳以上2人、一般76人、高大0人、小中20人、未就学児14人）

##### ①館長による講座「座間味の歴史と文化」 参加者数：43人

実施日：12月16日（金）19：00～20：30 座間味離島振興支援センター

講師：田名 真之（沖縄県立博物館・美術館 館長）

##### ②座間味島フィールドワーク「夜の海岸生物観察」 参加者数：23人

実施日：12月17日（土）0：00～2：00 座間味島内

講師：山崎 仁也（生物担当）

##### ③阿嘉島ジオツアー 参加者数：28人

実施日：12月17日（土）12：00～14：00 阿嘉島内

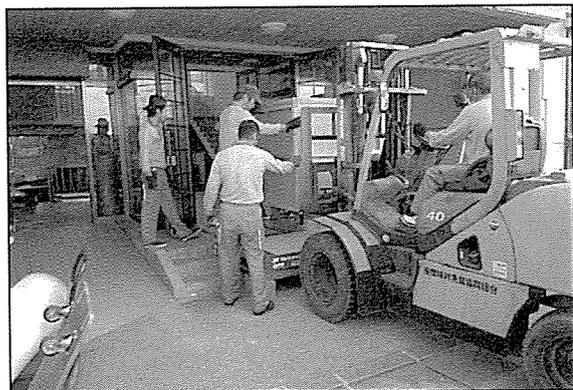
講師：宇佐美 賢（地学担当）

##### ④学芸員講座「地図からみた慶良間諸島」 参加者数：13人

実施日：12月16日（金）19：00～20：30 阿嘉島離島振興支援センター

講師：崎原 恭子（歴史担当）

移動展開催準備・当日の様子



01 展示資料搬入風景



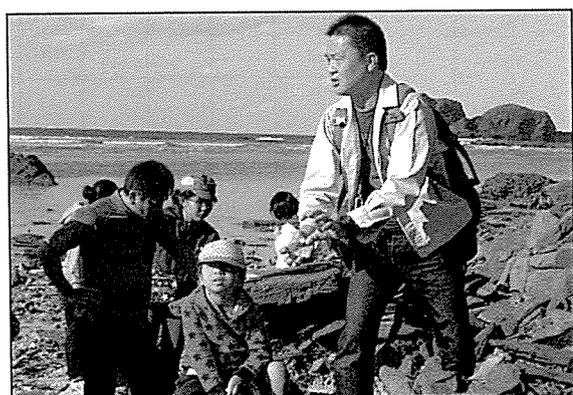
02 開会式テープカット



03 展示会場全景



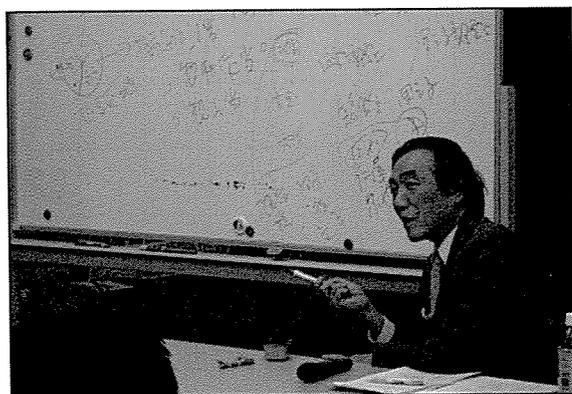
04 骨スーツ



05 宇佐美学芸員による阿嘉島ジオツアー



06 山崎学芸員による、夜の生物観察会



07 田名館長による講演会



08 崎原学芸員による講演会

## 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

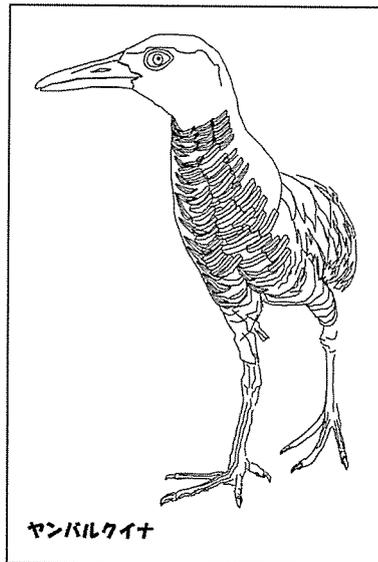
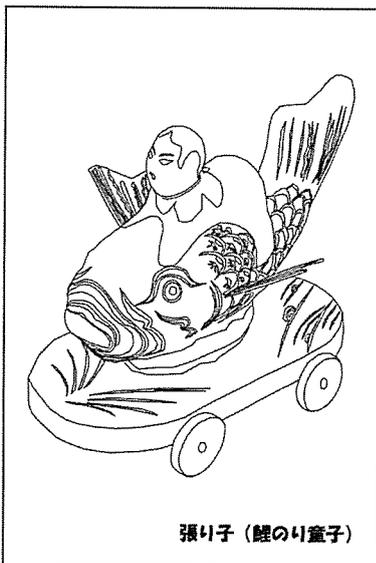
利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。

(大瀨萌子)

【表紙】

【裏面】

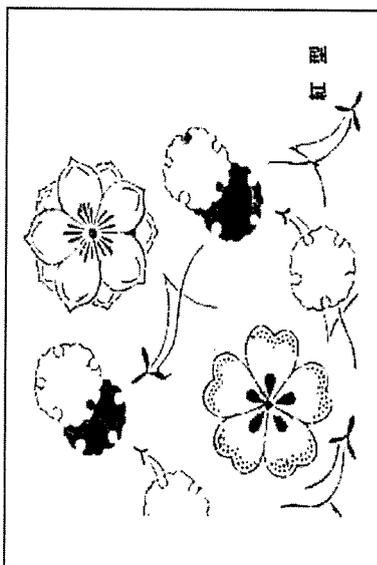


沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 \_\_\_\_\_ 学校名 \_\_\_\_\_ 校長印 \_\_\_\_\_

スタート!!				
				10
				ちゅうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 \_\_\_\_\_ 学校名 \_\_\_\_\_ 校長印 \_\_\_\_\_

スタート!!				
				10
				ちゅうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!

### 3 職場体験

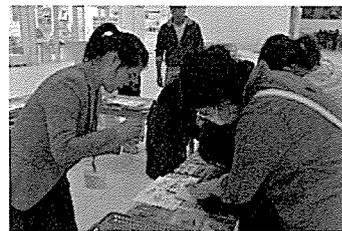
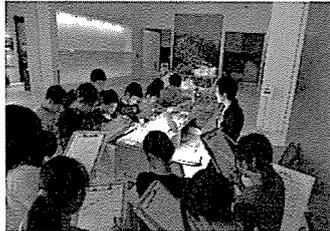
指定管理者が窓口となり、職場体験およびインターンシップを受け入れた。

平成 28 年度は、小・中学校や高等学校 4 校 77 人の他、琉球大学より留学生（中国）を 1 名受け入れた。学生たちは、もぎりやミュージアムショップでの接客業務や情報センターでの資料整理他、ふれあい体験室における対応やワークショップの下準備等を体験した。また、博物館・美術館職員による学芸業務の紹介やバックヤード見学なども実施。博物館・美術館に関わる様々な職種を体験することができた。

体験内容：もぎり(入場券の確認)、ふれあい体験室(ワークショップの準備)、ミュージアムショップ(接客、商品の管理)、情報センター(新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、博物館・美術館班(バックヤードおよび学芸業務の見学)

受入校：5 校 78 人(小学校 2 校、中学校 1 校、高等学校 1 校)、琉球大学 1 人

- ① 多良間村立多良間小学校(1 人)6 月 16 日(1 日)
- ② 那覇市立金城中学校(1 人)6 月 29 日～30 日(2 日)  
(3 人)2017 年 2 月 2 日～3 日(2 日)
- ③ 沖縄県立沖縄工業高等学校(2 人)9 月 13 日～15 日(3 日)
- ④ 南風原町立北丘小学校(70 人)11 月 2 日(1 日)
- ⑤ 琉球大学 交換留学生 (1 人) 2017 年 2 月 28 日～3 月 6 日 (6 日)



(沖縄美ら島財団 保久村)

#### 4 普及資料の活用

##### (1) 平成 28 年度普及資料貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	デイサービス うらら	豆腐づくり	実習おける懐古療法	6月14日～20日
2	富山県 中央植物園	ふれあい体験室備品	企画展”沖縄展” 展示・着衣体験	7月22日～9月25日
3	沖縄美ら島財団	琉球玉手箱（歴文箱） 琉球玉手箱（自然史箱）	夏休み子ども自由研究 展示・体験資料	7月29日～8月2日
4	熊谷和・着物 専門学院	ふれあい体験室着付け 体験資料	作品展示会における 参考展示	9月22日～28日
5	沖縄市立 美原小学校	ふれあい体験室備品 ・染織の道具見本 ・布見本	図画工作授業における 提示資料	10月25日～29日
6	沖縄アミークス 国際小学校	むかしむんキット	図画工作授業における 提示資料	11月14日～25日
7	那覇市立 天久小学校	むかしむんキット	授業における 民具体験学習	11月28日～12月5日
8	那覇市立 松川小学校	むかしむんキット	授業における 民具体験学習	1月31日～2月10日
9	那覇市立 真嘉比小学校	サトウキビ圧搾機	サトウキビ搾り体験	2月1日～8日
10	那覇市 立松川小学校	民具体験用洗濯板	授業における 民具体験学習	2月10日～17日
11	浦添市立 宮城小学校	むかしむんキット	授業における 民具体験学習	2月14日～16日
12	那覇市立 城岳小学校	民具体験用洗濯キット	授業における 民具体験学習	3月10日～17日

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。平成 28 年度の貸出団体数は 12 件であった。

##### (2) 平成 28 年度普及資料の活用

	開催地	活用資料	活動内容	期日
1	沖縄コンベンションセンター	琉球玉手箱（歴文箱） 琉球玉手箱（自然史箱）	夏休み子ども自由研究 アウトリーチ活動	7月29日～8月2日
2	沖縄市民体育館	主に自然史系体験キット	サイエンスフェスタ アウトリーチ活動	11月26日
3	東風平町運動公園 体育館	琉球玉手箱（歴文箱） 民具体験用資料	八重瀬八景春フェスタ アウトリーチ活動	2月19日

博物館の教育普及関係資料等を活用し、学校団体以外にもアウトリーチ活動を展開した。平成 28 年度の貸出団体数は 3 件であった。

## 5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。

まず、民俗部門展示室においては、民俗勉強会のボランティア有志メンバーが中心となり、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子供たちを対象に解説ガイドを実施している。来館当日は、指定管理者のスタッフが引率教員と担当ボランティアとを引き合わせるが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導し行っている。今年度は、合計5校70人を受け入れた。

そして、総合展示部門解説ガイドは平成26年度から本格実施し、今年度は17団体852人を受け入れた。こちらは、県外の修学旅行や一般団体の他、県内では小学校以外に地域の老人会やデイサービスなど、一般・70歳以上の団体もあり、幅広い年齢層の来館者へガイドを実施した。また、昨年度から引き続き、週3回（8月は週4日）午後待機型ガイドも実施した。こちらは、2,268人（150日中）に対応した。

広報については、県内外の旅行会社へ向けた説明会の他、ホームページ掲載を行っている。また、団体受付窓口の情報センターから直接案内することもあり、年間を通じて実績を残すことが出来た。これらは、リピーターによる依頼のみならず、口コミなどで情報が発信している様子も窺える。

今後の課題としては、対象に応じた時間配分や言葉選び、コース選定などについてボランティア同士、担当職員間で研究する必要がある。

（大濱）

### (1) 民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

（FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません）

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。（先着順）

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえました。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができます。

Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能です。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできませんが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは可能です。（ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度です。ご了承ください）

## (2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：30分～60分

③対象：県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。  
(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【30分】「総合展示部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示部門<琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナンバープレート>

Bコース【30分】「ジンプンボックス\*：100人以上」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学(総合展示部門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジンプンボックスを配置し、各箇所において来場者へのガイドと質問対応をおこなう)

\*ジンプンボックス：沖縄の方言でジンプンとは「知恵」を意味し、「知恵を与える箱」として設置する。今回のガイドでは、このボックスの前でボランティアが来場者に向けた解説を行う。

■民俗班有志による県内小規模校ガイド								
利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア人数		
1	修学旅行	県内	5月13日	宮古島市立城辺小学校	小6	22	3	
2			6月10日	学校法人カトリック学園海星小学校	小5～小6	16	3	
3			6月15日	座間味村立阿嘉小学校	小3・小5・小6	7	3	
4			6月15日	北大東村立北大東小学校	小5～小6	17	3	
5			6月17日	久米島町立比屋定小学校	小5～小6	8	3	
合計					—	70	15	—
■総合展示部門解説ガイド								
利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア人数	コース	
1	研修	京都	4月19日(金)	東洋きもの専門学校	大学生	10	6	Aコース
2	研修	県内	5月20日(金)	ふれあいデイサービス長田	一般/70歳以上	33	7	Aコース
3	修学旅行	香港	6月25日(土)	Chinese YMCA of Hong Kong	高校生	37	3	Aコース
4	修学旅行	石川県	6月29日(水)	石川県立飯田高校	高2	160	8	Bジンプンボックス
5	研修	県内	7月28日(金)	南風原町立翔南小学校職員	一般	22	6	Aコース
6	授業		9月21日(水)	浦添市立内間小学校	小3	100	6	Aコース
7	見学		10月23日(日)	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会 ホームヘルプステーションわかば	一般/70歳以上	62	4	Aコース/70歳以上20人
8	授業		11月1日(火)	うるま市立高江洲小学校	小5	83	5	Aコース
9			11月2日(水)	沖縄市立コザ小学校	小5	47	3	Aコース
10			11月8日(火)	西原町立西原東小学校	小4	74	4	Aコース
11	ツアー		11月18日(金)	株式会社 TABI' Z	一般	15	5	Aコース
12	研修	県内	11月29日(日)	東村老人会	一般/70歳以上	24	4	Aコース/70歳以上21人
13	授業		12月7日(水)	沖縄県立那覇特別支援学校	中1～中2	20	1	Aコース
14			12月8日(木)	糸満市立座安小学校	小5	65	4	Bジンプンボックス
15	研修		12月22日(木)	アメリカ高校生・一般財団法人日本国際協力センター 九州支所	高校生	27	5	Aコース
16	授業	県内	3月8日(水)	朝日鹿島高等学校	高1～高2	7	4	Aコース
17	研修	県内	3月14日(火)	沖縄市自治会長協議会	一般	66	3	Aコース
合計					—	852	78	—

### ○ガイドの様子

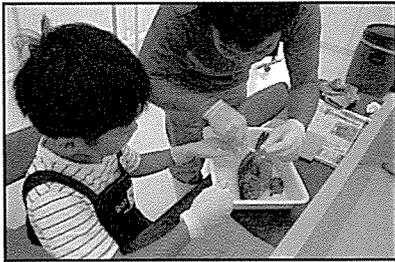


## 6 企画展・特別展 関連事業

### ①企画展「目からウロコの生物実験展」

教育普及では、展覧会関連催事として、文化講座1回（参照：IV 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：V 学芸員講座）、展示解説会4回（参照：VI 展示解説会）、体験学習教室2回（参照：III）のほか、関連ワークショップを8回実施した。関連ワークショップでは、国際海洋環境情報センター（GODAC）を元とする様々な外部機関と連携し子供たちを対象に海の生き物に興味関心を持つきっかけ作りができた。また、一般を対象にサイエンスカフェも実施し、幅広い世代を対象に催事を展開した。

■「目からウロコの生物実験展」関連催事				
催事名	日付	講師	定員	参加者数
1 魚の解剖教室	7月17日(日)	宮本 圭 (一財 沖縄美ら島財団)	16人	16人
2 サイエンスカフェ「大人の実験談義」	7月18日(月)	山崎仁也 (生物担当学芸員)	30人	33人
3 生物実験教室 カニの手ロボットをつくろう!	7月30日(土)	佐藤寛之 (沖縄国際大学)	20組	20組
4 サンゴ礁の生き物観察	8月6日(土)	山崎仁也 (生物担当学芸員)	16人	13人
5 バスツアーで行く「プランクトン観察会」	8月15日(月)	GODACスタッフ 山崎仁也 (生物担当学芸員)	30人	27人
6 カエルの解剖と骨格標本づくり	8月11日(木) 8月13日(土) 8月14日(日)	山崎仁也 (生物担当学芸員)	16人	15人
7 ガニガニ教室「ヤシガニ&オカガニ」	8月7日(日)	岡 慎一郎 (一財 沖縄美ら島財団) 山崎仁也 (生物担当学芸員)	20人	20人



### ②企画展 日本民芸館80周年「沖縄の工芸展-柳宗悦と昭和10年代の沖縄-」

関連催事として、文化講座1回（参照：IV 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：V 学芸員講座）を実施した。また、一般向けに「見どころシート」を作成した。

「沖縄の工芸展-柳宗悦と昭和10年代の沖縄-」見どころシート

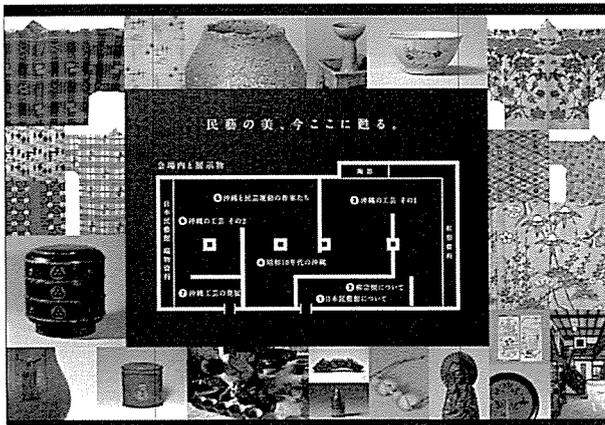
配布期間：会期中随時配布 配布場所：展示室入口

配布枚数：1,000枚

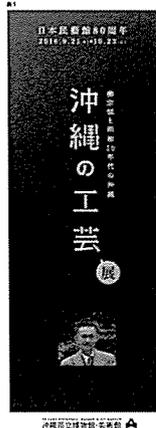
監修：外間一先（美術工芸担当）作成：安慶名正浩（こましらでざいん）

一般来館者を対象に、担当学芸員が特に紹介したい展示資料を掲載した鑑賞補助シートを作成した。その内容は、展示室図面を中央に配置し周辺に貴重な資料の画像を配置し、キャプションや説明文は一切入れず、来場者に民芸品の持つ美しさを感じてもらえるよう工夫した。そして、シートも漆を意識した朱色と漆黒の二種類で作成した。

中国



展覧（黒）



### ③特別展「港川人の時代とその後 琉球弧をめぐる人類史の起源と展開」

関連催事として、文化講座2回（参照：Ⅳ 学芸員講座）、展示解説会（参照：Ⅵ 展示解説会）6回、ワークショップ1回を実施した。また、子ども向けにワークシートを作成した。

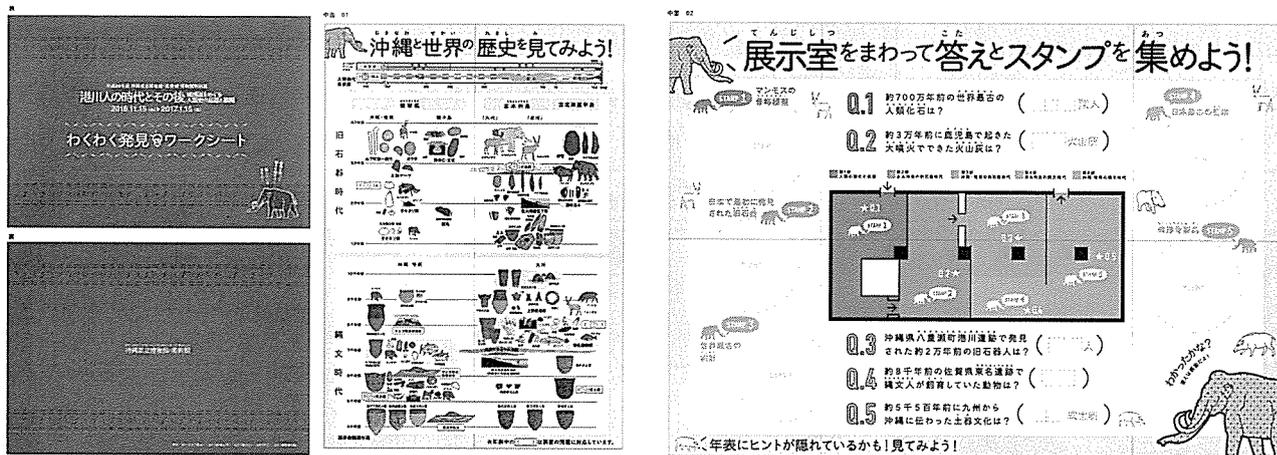
「わくわく発見ワークシート」

配布期間：会期中随時配布 配布場所：展示室入口

配布枚数：2,000枚

監修：山崎真治（人類担当）作成：安慶名正浩（こましらでざいん）

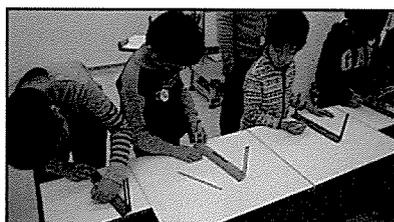
小学校4年生以上を対象に学芸員が展示室内において、これだけは伝えたい箇所を選定しクイズ方式で書き込めるシートを作成した。また、クイズのみならずスタンプラリーができるスタイルにすることで資料を観察するきっかけ作りを意識した。そして、本土と沖縄の時代背景を比較する年表を加え、琉球の特徴を見て学ぶ仕掛けにした。



### ③企画展「琉球・沖縄の地図展」

関連催事として、文化講座2回（参照：Ⅳ 文化講座）、学芸員講座2回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、展示解説会（参照：Ⅵ 展示解説会）4回を実施した。また、子ども向けに関連ワークショップを4回実施した。ワークショップでは、国土地理院や第十一管区海上保安本部など様々な地図を制作する様子を体験するプログラムのほか、実際に海底地形図を作る船を見学するプログラムなどを実施。子供たちが楽しみながら地図に関わる様々な機関の作業を知ることができた。

■「琉球沖縄の地図展」関連催事					
催事名	日付	講師	定員	参加者数	
1 親子体験教室(1)「海底地形の測り方を知ろう！」	2月11日(土)	第十一管区海上保安本部	10組程度	6組	
2 親子体験教室(2)「測量船おきしお見学」	2月26日(日)	第十一管区海上保安本部	40組程度	12組	
3 子ども体験教室(1)「測量・地図について」	2月25日(土)	国土地理院沖縄支部	20人程度	13人	
4 子ども体験教室(2)「測量を体験しよう！」	3月5日(日)	沖縄県土地家屋調査士会・公益社団法人沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会	12人程度	13人	



## 7 常設展に関する取り組み

### (1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、15000枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな！」は5000枚・日本語版は12000枚増刷した。

## 8 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

### ○体験学習教室

沖縄タイムス	3月6日 月曜日	社会面	「おきなわサンゴ礁ウィーク2017」
--------	----------	-----	--------------------

### ○ふれあい体験室

琉球新報	4月1日 金曜日	ひと・暮らし面	「県博、5月から新キット」
沖縄タイムス	2月26日 日曜日	タイムス ワラビー	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士の紅型デザイン」

「あそぼん」	4月15日(金)発行	おもろまちエリアページ	ふれあい体験室
--------	------------	-------------	---------

発行:株式会社 ダイオキ

「たいようのえくぼ vol.21」	4月22日(金)発行	イベントおでかけ情報ポケット 2016年4月～7月	ふれあい体験室 ワークショップ
-------------------	------------	------------------------------	--------------------

発行:NPO法人 たいようのえくぼ

「ミュージアムキッズ vol.3」	5月1日(日)発行	「ワークショップ@ミュージアム 5月中旬～8月」	ふれあい体験室
-------------------	-----------	-----------------------------	---------

発行:こどもひかりプロジェクト

「おきなわ倶楽部 6月号」	6月1日(水)発行	イベントページ	ふれあい体験室 ワークショップ
---------------	-----------	---------	--------------------

発行:株式会社 ダイオキ

「オキナワグラフ 6月号」	6月1日(水)発行	県博特集ページ P24	ふれあい体験室
---------------	-----------	-------------	---------

発行:株式会社 新星出版

「るるぶこどもと行く沖縄'17」	7月8日(金)発行	おもろまちエリアページ	ふれあい体験室
------------------	-----------	-------------	---------

発行:株式会社 JTBパブリッシング

「たいようのえくぼ vol.22」	■月■日(金)発行	イベントおでかけ情報ポケット 2016年8月～10月	ふれあい体験室 ワークショップ
-------------------	-----------	-------------------------------	--------------------

発行:NPO法人 たいようのえくぼ

「kodomo(コドモエ)」	9月7日(水)発行	ハハコさんぽ	博物館バックヤード ツアー／ふれあい体験室 ワークショップ
----------------	-----------	--------	-------------------------------------

発行:こどもひかりプロジェクト

「ミュージアムキッズ vol.4」	12月1日(木)発行	「ワークショップ@ミュージアム 12月中旬～2017年6月」	ふれあい体験室 ワークショップ
-------------------	------------	-----------------------------------	--------------------

発行:こどもひかりプロジェクト

be-O89号	12月29日(木)発行	MAMMY☆NOTE vol.30	ふれあい体験室
---------	-------------	-------------------	---------

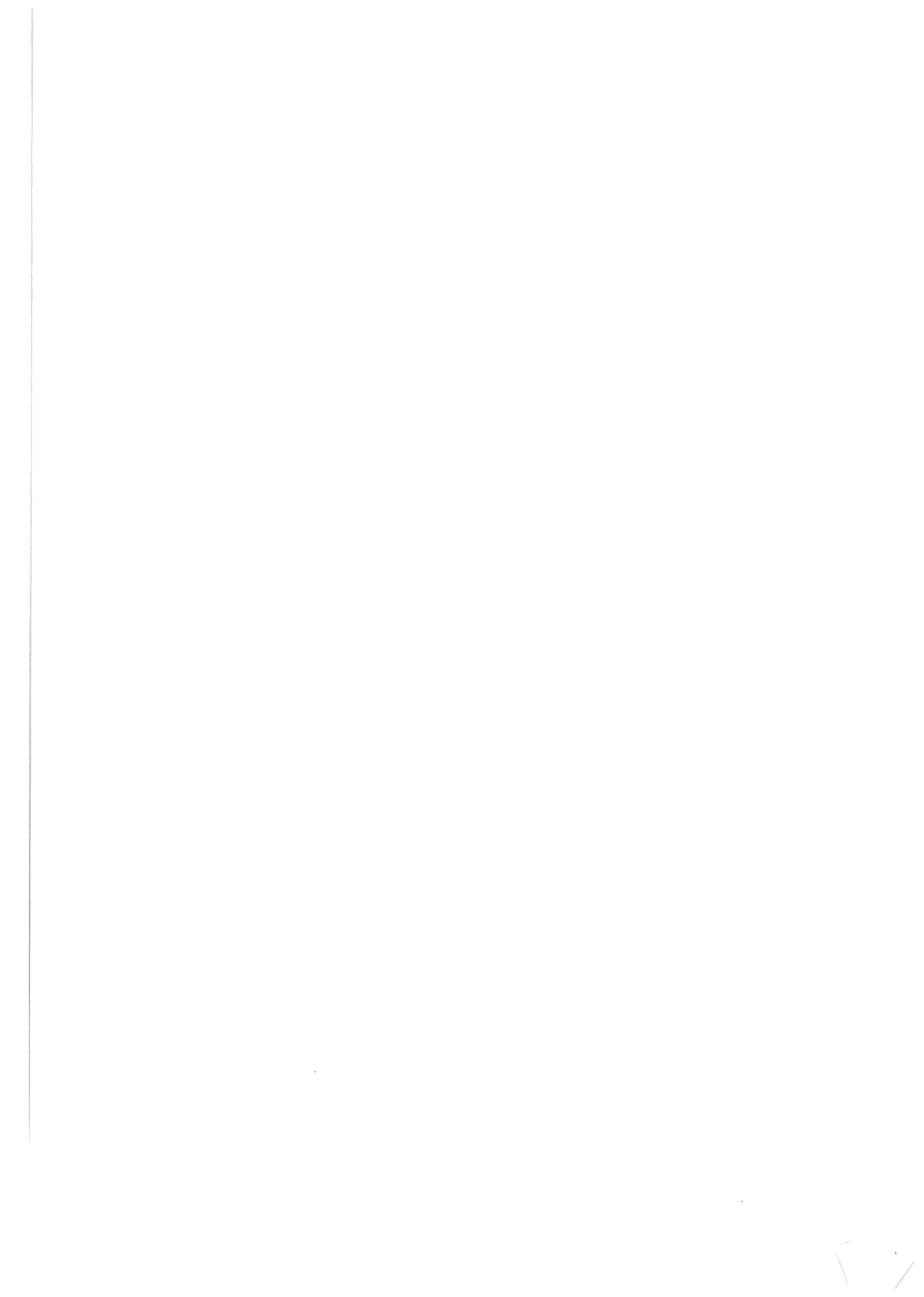
発行:株式会社 ワンダーリ्यूキュー

沖縄観光ガイドブック(タイ語版)」	2月1日(水)発行	モノレールインフォメーション P24	ふれあい体験室
-------------------	-----------	--------------------	---------

発行:一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー

## 9 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座 (12回)	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
2	学芸員講座 (全12回)	A4 (片面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
3	体験学習教室 (全4回)	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
4	博物館ボランティア募集案内	A4 (片面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	1,000
5	夏休み!博物館学芸員教室	A4 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	株式会社プリマール	15,000
6	企画展「目からウロコの生物実験展」体験教室チラシ	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール	6,000
7	企画展「琉球・沖縄の地図展」体験教室チラシ	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール	3,000
8	企画展 日本民芸館80周年「沖縄の工芸展-柳宗悦と昭和10年代の沖縄-」	A3折 (両面フルカラー)	安慶名正浩 (こましらでざいん)	株式会社プリマール	2,000
9	特別展「港川人の時代とその後 琉球弧をめぐる人類史の起源と展開」ワークシート	A3折 (両面フルカラー)	安慶名正浩 (こましらでざいん)	株式会社プリマール	2,000
10	常設展解説シート「これだけは見逃すな」(英語版)	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	5,000 (増刷分)
11	常設展解説シート「これだけは見逃すな」(日本語版)	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	12,000 (増刷分)
12	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人VS現代人」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	2,000
13	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
14	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①チューリップを弾いてみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
15	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工工四で弾いてみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	500
16	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
17	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
18	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
19	教育普及報告書	A4	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	企画印刷ハーツ	1,000



平成 28 年度  
**博物館教育普及活動**  
2017 (平成 29) 年 3 月

---

発 行 沖縄県立博物館・美術館  
〒900-0006  
那覇市おもろまち 3 丁目 1 番 1 号  
Tel (098) 941-8200 (代表)  
Fax (098) 941-2392

編 集 沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及  
沖縄県立博物館・美術館指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

印 刷 企画印刷 ハーツ  
那覇市繁多川 3 丁目 13 番 8 号  
Tel (098) 835-3752  
Fax (098) 835-3754